

せん とく じょう い せ き ぐ ん
千徳城遺跡群

- アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -

2016.12

宮古市教育委員会 (岩手県)

せん とく じ ゃう い せ き ぐ ん
千徳城遺跡群

- アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書 -

2016.12

宮古市教育委員会 (岩手県)

序 文

宮古市の歴史は、今から約 12,000 年前までさかのぼります。宮古市内にある約 680 もの遺跡には、先人たちが宮古の地で生きるために自然と向き合い、自然から学び、自然から多くを享受した暮らしの痕跡が残されています。

12,000 年前とは、縄文時代の草創期とされる頃で、この頃の遺跡は県内でもまだその数は限られています。宮古地域ではほかの地域に先駆けて人々が暮らしはじめていたこと示しているのかもしれませんが。

千徳城遺跡群は、中世の城館跡を主体とする遺跡であり、当時築かれた郭の跡が今も遺されています。

これまでの調査では、古代の竪穴住居跡や貴重な遺物が出土しており、当時の暮らしぶりを伝える貴重な遺跡であることがわかってきました。

今回の調査では戦国時代から近世初頭頃の遺構や遺物が確認されました。戦国時代の遺構や遺物は、宮古市内では調査事例が少なく、千徳城の城下といえる地区での事例として貴重な成果を調査により得る事ができました。

最後に、発掘調査ならびに整理作業に多大なご協力をいただいた関係者、関係各位に感謝を申し上げ序文といたします。

平成 28 年 12 月

宮古市教育委員会
教育長 伊藤 晃二

例 言

1. 本書は、アパート建築工事に伴い平成27年10月1日～同年12月28日にかけて実施した千徳城遺跡群発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の主体は宮古市教育委員会である。発掘調査および本書の執筆、編集は安原が担当し、文化課職員がこれを補佐した。
3. 座標は平面直角座標系X系に準拠した。この中で世界測地系に準拠した。図中の座標は、X・Y各座標の下3ケタのみ表示した。
4. 高さは標高値をそのまま使用した。
5. 各遺構の略記号は以下のとおりである。

目 次

序 文

例 言

目 次

I 調査経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査概要	2
3 調査体制	2
II 遺跡の立地と環境	3
1 遺跡の位置と立地	3
2 周辺の遺跡	3
3 遺跡周辺の地形	4
III 調査の内容	6
1 調査の方法	6
2 遺跡の基本層序	7
3 検出遺構・出土遺物	9
IV 調査のまとめ	47
写真図版	48
報告書抄録	59

挿図目次

第 1 図	宮古市位置図	3
第 2 図	地形分布図	4
第 3 図	周辺遺跡分布図	5
第 4 図	調査区位置図	6
第 5 図	遺構配置図	7
第 6 図	調査区基本土層図	8
第 7 図	SI1 号工房跡鍛冶炉跡平面図	9
第 8 図	SI1 号工房跡断面図	10
第 9 図	SI1 号工房跡出土遺物	10
第 10 図	SI25 号工房跡、焼土遺構平面図	11
第 11 図	SI25 号工房跡断面図	12
第 12 図	SK 2 号土坑跡平面図・断面図	13
第 13 図	SK13 号土坑跡、SKP30 平面図・土層断面図	14
第 14 図	SK15 号、17 号土坑跡平面図・土層断面図	15
第 15 図	SK45 号土坑跡平面図・土層断面図	16
第 16 図	SN3 号、4 号、5 号、6 号、7 号、8 号焼土遺構平面図	18
第 17 図	SN3 号、4 号、5 号、6 号、7 号、8 号焼土遺構土層断面図	19
第 18 図	14 号製鉄遺構平面図・土層断面図	20
第 19 図	SN9、10、11、12 号焼土遺構平面図・土層断面図	21
第 20 図	SN16 号焼土遺構、SKP22 号平面図・土層断面図	22
第 21 図	SN18、19、20、21 号焼土遺構平面図・土層断面図	23
第 22 図	SN23 号焼土遺構、SKP24 平面図・土層断面図	24
第 23 図	SN26 号焼土遺構平面図・土層断面図	25
第 24 図	SN28 号焼土遺構平面図・土層断面図	25
第 25 図	SN29、37 号焼土遺構平面図・土層断面図	26
第 26 図	SN49 号焼土遺構平面図・土層断面図	27
第 27 図	柱穴状遺構 (SKP31 ~ 36、38 ~ 44、46 ~ 47) 平面図、SKP36 出土遺物	28
第 28 図	柱穴状遺構 (SKP31 ~ 36、38 ~ 44、46 ~ 47) 土層断面図	29
第 29 図	遺構外出土遺物 (1)	30
第 30 図	遺構外出土遺物 (2)	31
第 31 図	遺構外出土遺物 (3)	32
第 32 図	遺構外出土遺物 (4)	33
第 33 図	遺構外出土遺物 (5)	34
第 34 図	遺構外出土遺物 (6)	35
第 35 図	遺構外出土遺物 (7)	36
第 36 図	遺構外出土遺物 (8)	37
第 37 図	遺構外出土遺物 (9)	38
第 38 図	遺構外出土遺物 (10)	39
第 39 図	遺構外出土遺物 (11)	40
第 40 図	遺構外出土遺物 (12)	41
第 41 図	遺構外出土遺物 (13)	42
第 42 図	遺構外出土遺物 (14)	43
	銭貨観察表	44

写真図版目次

1	調査状況(1) (南西から)	48
2	調査状況(2) (南西から)	48
3	SI1号工房跡 土層断面(南から)	49
4	SI1号工房跡 完掘(1) (南から)	49
5	SI1号工房跡 完掘(2) (南西から)	50
6	SI1号工房跡内の鍛冶炉検出状況(南西から)	50
7	SI1号工房跡鍛冶炉 土層断面(南西から)	51
8	SI1号工房跡鍛冶炉 完掘(南西から)	51
9	SN3～8号焼土遺構 調査状況(南から)	52
10	SN9～12号焼土遺構 調査状況(南から)	52
11	銭貨出土状況(南から)	53
12	SN14号製鉄炉 土層断面(南から)	53
13	調査区南側 調査状況(西から)	54
14	SN28、29、37号焼土遺構 調査状況(南から)	54
15	調査区南側完掘(西から)	55
16	SK45号土坑跡 土層断面(南西から)	55
17	SK45号土坑跡 完掘(南西から)	56
18	出土陶磁器(1) -1	56
19	出土陶磁器(1) -2	57
20	出土石製品(1) -1	57
21	出土石製品(1) -2	58
22	出土銅製品	58

I 調査経過

1 調査に至る経過

平成 26 年 5 月 12 日に宮古市太田 2 丁目 84-1 外において、賃貸アパート建築計画があるとして埋蔵文化財の有無と取扱いについて照会があった。

平成 26 年 5 月 15 日付教文第 141 号にて、「千徳城遺跡群」に該当するとして回答した。

本工事に先立ち、施主と宮古市教育委員会は事前協議を行い、宮古市教育委員会が埋蔵文化財の試掘調査を実施することとした。

平成 26 年 8 月 5 日付けで文化財保護法第 93 条の届出が提出された。

平成 26 年 8 月 18 日付け教文第 389 号において試掘調査の実施が通知される。

宮古市教育委員会は、平成 26 年 9 月 29 日から同年 10 月 15 日に試掘調査を実施した。調査の結果、竪穴状遺構と土坑跡を確認した。

平成 26 年 10 月 16 日付け教文第 564 号にて試掘調査の結果を施主に報告する。今後の取扱いについて併せて協議を行った。

平成 27 年 5 月 7 日付けで埋蔵文化財の取り扱いに関する協定書を締結する。

平成 27 年 9 月 17 日付けで埋蔵文化財調査委託契約書を締結する。

平成 27 年 10 月 1 日から発掘調査を開始する。

平成 27 年 10 月 19 日付け教文第 505 号で埋蔵文化財発掘調査の報告をする。

平成 27 年 12 月 28 日に発掘調査を終了する。

平成 28 年 1 月 12 日から出土遺物等の資料整理作業を行う。

平成 28 年 1 月 18 日～同年 1 月 22 日に調査区の埋戻し作業を行う。作業終了後、現場を引き渡す。

平成 28 年 3 月 3 日に室内整理作業を終了する。

平成 28 年 3 月 10 付けで埋蔵文化財調査委託変更契約を締結する。

平成 28 年 3 月 15 日付け教文第 875 号で発掘調査終了の報告をする。

平成 28 年 4 月 27 日付けで埋蔵文化財調査委託契約（資料整理及び報告書作成業務）を締結した。

平成 28 年 6 月 17 日から整理作業を開始（同年 11 月 25 日作業終了）。

平成 28 年 12 月 9 日に埋蔵文化財調査報告書を刊行した。

2 調査概要

所在地 宮古市太田2丁目80-7、84-1、84-4、85-6、85-10、85-13
調査期間 (平成27年度) 発掘調査 平成27年10月1日～同年12月28日
室内作業 平成28年1月12日～同年3月3日
(平成28年度) 室内作業 平成28年6月17日～同年11月25日

3 調査体制

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 伊藤 晃二
調査総括 高橋憲太郎 宮古市教育委員会文化課長 (平成27年度～)
事務担当 鎌田 祐二 // 文化課副主幹兼文化係長 (平成27年度～)
調査員 江口 邦泰 // 文化課主任文化財調査員 (平成28年度～)
安原 誠 // 文化課主任文化財調査員 (調査・報告書担当)
伊藤 正人 // 文化課主任文化財調査員 (平成28年4月～名古屋市派遣)
阿部 豊 // 文化課埋蔵文化財発掘調査員
前川 友宏 // 文化課埋蔵文化財調査員
赤沼みちる // 文化課埋蔵文化財調査員

発掘調査作業員

伊藤勝夫 扇田正義 木村洋一 小成鷹介 坂本晃 佐々木剛 佐々木壽郎 佐々木信晴
佐藤重信 澤田榮夫 鈴木祥一 舘崎禮子 中沢美智子 山根保行

資料整理作業員

扇田正義 木村洋一 坂本 晃 崎田妙子 佐々木信晴 鈴木祥一 中沢美智子

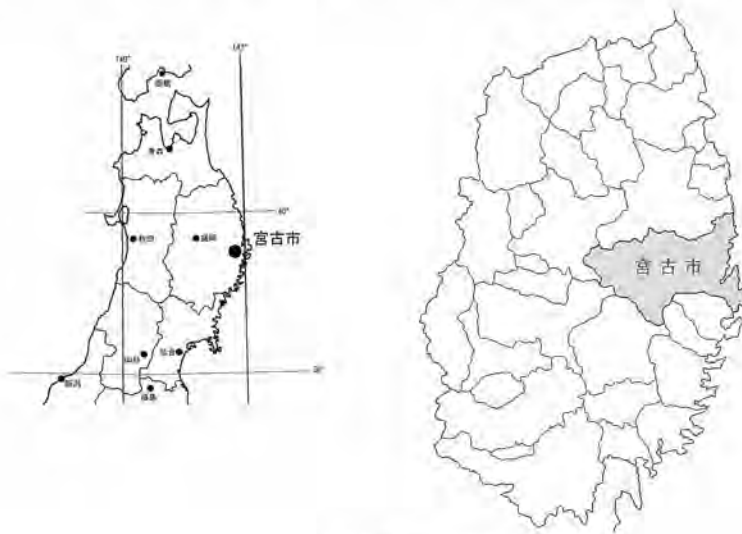
II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と立地

宮古市は日本を代表する漁場のひとつ三陸海岸の中央部に位置し、本州最東端の町としても知られる。平成 17 年 6 月に宮古市・田老町・新里村が合併し、平成 22 年 1 月に川井村と合併した。市域の面積は 1,259 km²、人口は 55,000 人である。

宮古市の地形は、主な河川である閉伊川、八木沢川、津軽石川とその支流により形成された谷底地形、氾濫平野があるほかは、そのほとんどが山地もしくは丘陵地形となっている。宮古市を代表する河川、閉伊川は旧川井村兜明神岳に源を発しここから東流し、新里地区を経て、宮古市を南北に二分すように流れ、宮古湾に至る。

千徳城遺跡群は宮古市の中央部、北緯 39° 38' 17"、東経 141° 55' 24" にあり、東日本旅客鉄道山田線宮古駅から西に 2.3km の地点に位置する。地域の主要河川である閉伊川と、支流の近内川の合流点にあり、黒森山山地（小起伏山地）から続く丘陵地に立地する。



第 1 図 宮古市位置図

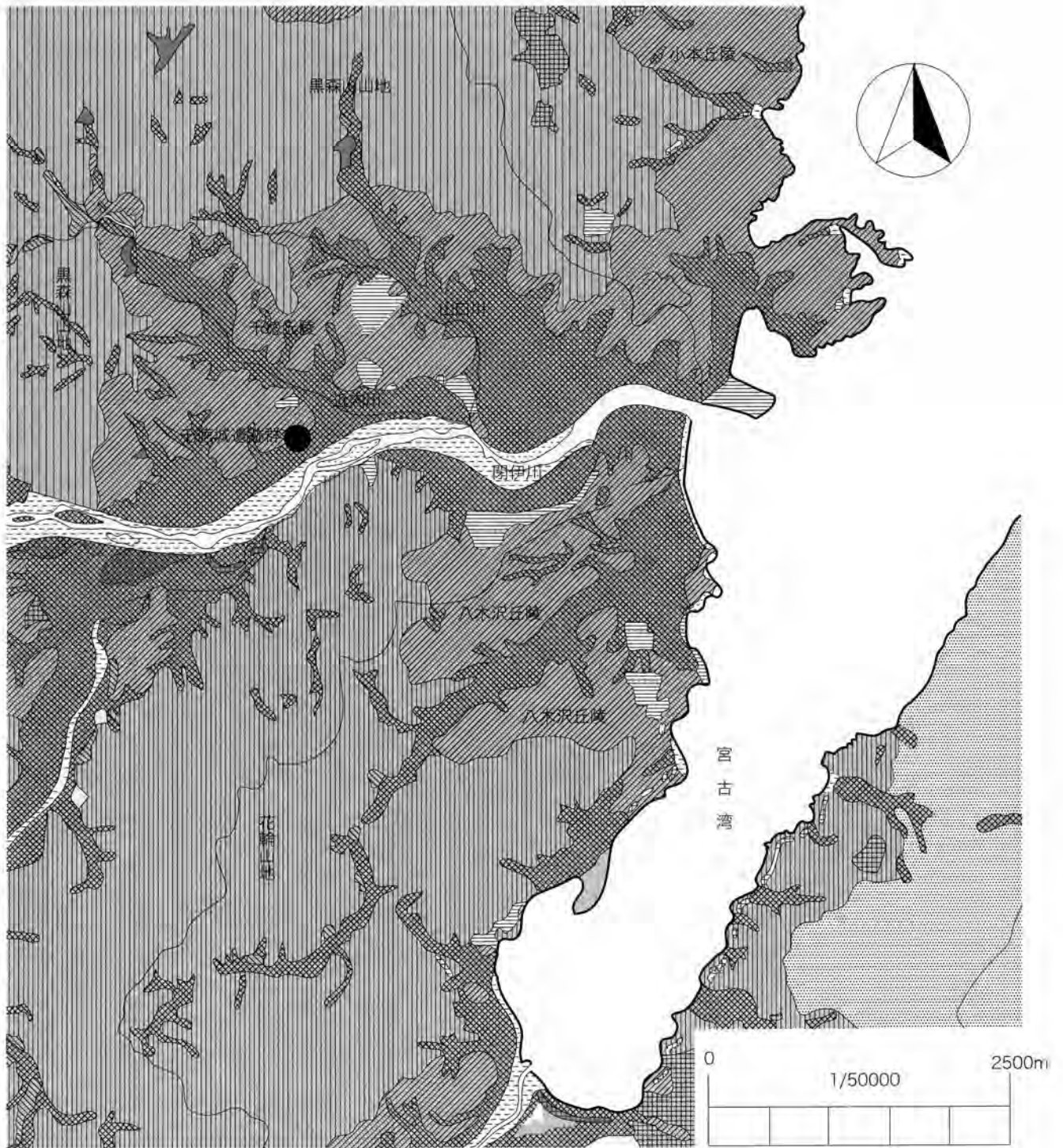
2 周辺の遺跡

千徳城遺跡群は、地域の主流河川である閉伊川と支流の近内川が合流する地点にある。両河川の合流点に向かって伸びる丘陵地に遺跡は立地する。標高 78 m 地点を中心として、斜面部も含め周辺一帯が遺跡となっている。周辺の遺跡は、閉伊川と近内川に沿って点在している。青猿 I 遺跡は、平成元年から 2 年に調査が行われ、古代の竪穴住居跡が確認されている。

千徳城遺跡群では、平成元年と平成 25 年に本調査を実施している。平成元年は遺跡の北西側で調査が行われ、縦堀と道路状遺構を確認している。平成 25 年度には遺跡南東側を調査し、近世末頃の建物跡を確認している。

〈参考文献〉

- 宮古市教育委員会 『青猿 I・千徳城遺跡群 宮古市埋蔵文化財調査報告書第 27 集』 1991
宮古市教育委員会 『千徳城遺跡群 宮古市埋蔵文化財調査報告書第 83 集』 2015



中起伏山地		扇状地		旧河道	
小起伏山地		崖錐性扇状地		浜及び河原	
山ろく		谷底平野		裸出砂丘	
丘陵地		三角州		人口改变地	
砂礫段丘Ⅲ		自然堤防		崖	

第2図 地形分布図



No	遺跡名	遺跡コード	種別	時代	遺構・遺物
1	近内白石Ⅰ	LG23-2194	製鉄跡		鉄滓、羽口
2	近内大館	LG23-2196	城館跡	中世	主郭、腰郭、物見
3	近内白石Ⅱ	LG23-2197	散布地	縄文・古代	縄文土器（後期）、土師器、須恵器
4	延所	LG23-2282	散布地	縄文	縄文土器
5	近内寺本Ⅰ	LG33-0138	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器、須恵器
6	近内寺本Ⅱ	LG33-0149	散布地	古代	土師器
7	青猿Ⅰ	LG33-0221	集落跡、製鉄跡	縄文・平安	Tピット、製鉄炉、竪穴住居跡
8	青猿Ⅱ	LG33-0222	集落跡	弥生・平安	弥生土器、土師器、竪穴住居跡
9	青猿Ⅲ	LG33-0213	散布地	縄文・古代	縄文土器（中期）、土師器
10	狐崎	LG33-0207	集落跡	縄文・奈良・平安	縄文土器、土師器、鉄鏃、竪穴住居跡
11	長根Ⅳ	LG33-0225	散布地		
12	長根Ⅴ	LG33-0226	散布地		
13	長根Ⅲ	LG33-0235	散布地	古代	土師器
14	長根寺Ⅰ	LG33-0237	集落跡		
15	長根Ⅰ	LG33-0253	群集墳	弥生～中世	古墳、蕨手刀、直刀、和同開珎、玉類
16	長根Ⅱ	LG33-0256	散布地	古代	土師器
17	長根寺Ⅲ	LG33-0258	散布地		
18	千徳城遺跡群	LG33-0197	城館跡	奈良・平安・中世	主郭、二の郭、三の郭、砦、空堀、千徳城、堀合館
19	室井沢Ⅰ	LG33-0087	散布地	縄文・古代	縄文土器（中・後期）、土師器
20	神田沢	LG33-0099	散布地	縄文・古代	縄文土器（中期）、土師器、竪穴住居跡、土坑
21	室井沢Ⅱ	LG33-1008	散布地		
22	板屋Ⅰ	LG33-1019	散布地		
23	板屋Ⅱ	LG33-1121	散布地		
24	木戸井内Ⅴ	LG33-1280	集落跡	奈良	竪穴住居跡、土師器
25	木戸井内	LG33-1273	散布地	縄文	竪穴住居跡

第3図 周辺遺跡分布図

Ⅲ調査の内容

1 調査の方法

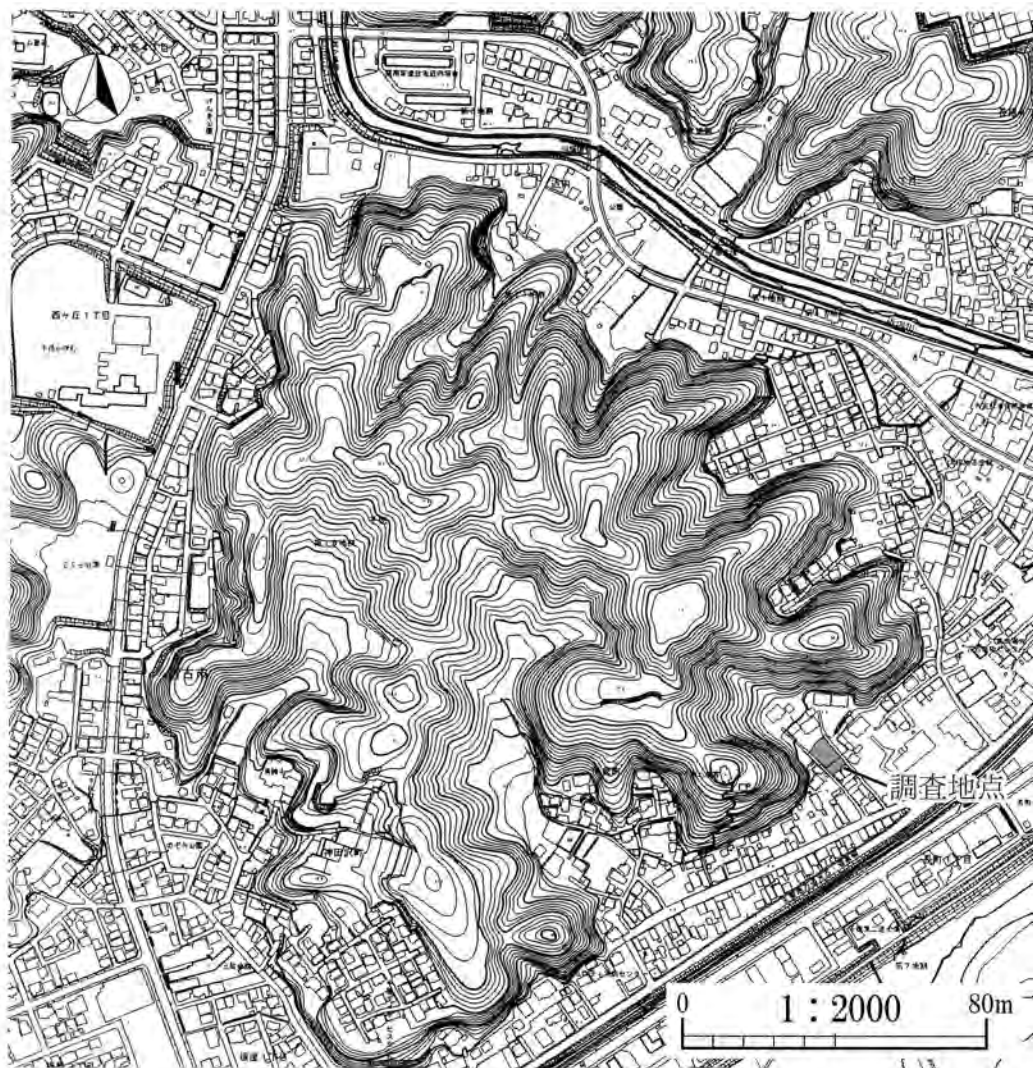
調査区の現況は畑地であり、北西から南東側に向かって低くなる。調査対象面積は 896 m²である。今回の調査は安全上の面からこのうち 510 m²について調査を行った。廃土置場の確保のため、調査区を二つに分け、高い位置にある北西側から調査を開始した。

調査区は便宜上、A区（北西側）、B区（南東側）とした。

A区は、遺物が確認されたⅦ層の上層まで掘り下げを行ったが、これ以下は掘り下げてはいない。Ⅶ層でも遺物が確認されたところまでしか掘り下げを行っていない。

B区は、Ⅴ層下位まで掘り下げを行った。Ⅴ層中での遺物の出土はなく、Ⅵ層以下の状況については、調査区にトレンチを設定し、部分的に掘り下げて遺構・遺物の有無の確認を行った。トレンチ調査の結果、遺構や遺物は確認されなかった。このことから、B区については、Ⅴ層までの調査をした。

遺構は、Ⅴ層を中心に、Ⅵ層までの中で確認された。Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ層中からは中世の銭貨が確認されており、また、Ⅵ層中から 16 世紀代の瀬戸・美濃の陶磁器が出土している。Ⅴ、Ⅵ層の時期は、上限を陶磁器の年代をもって設定した。下限を銭貨の中で最も新しい模鑄銭から設定した。このことから、Ⅴ～Ⅵ層の年代を 16 世紀～17 世紀初頭頃とし、確認された遺構の年代は、出土遺物がない場合、遺構検出層の年代をもって特定した。

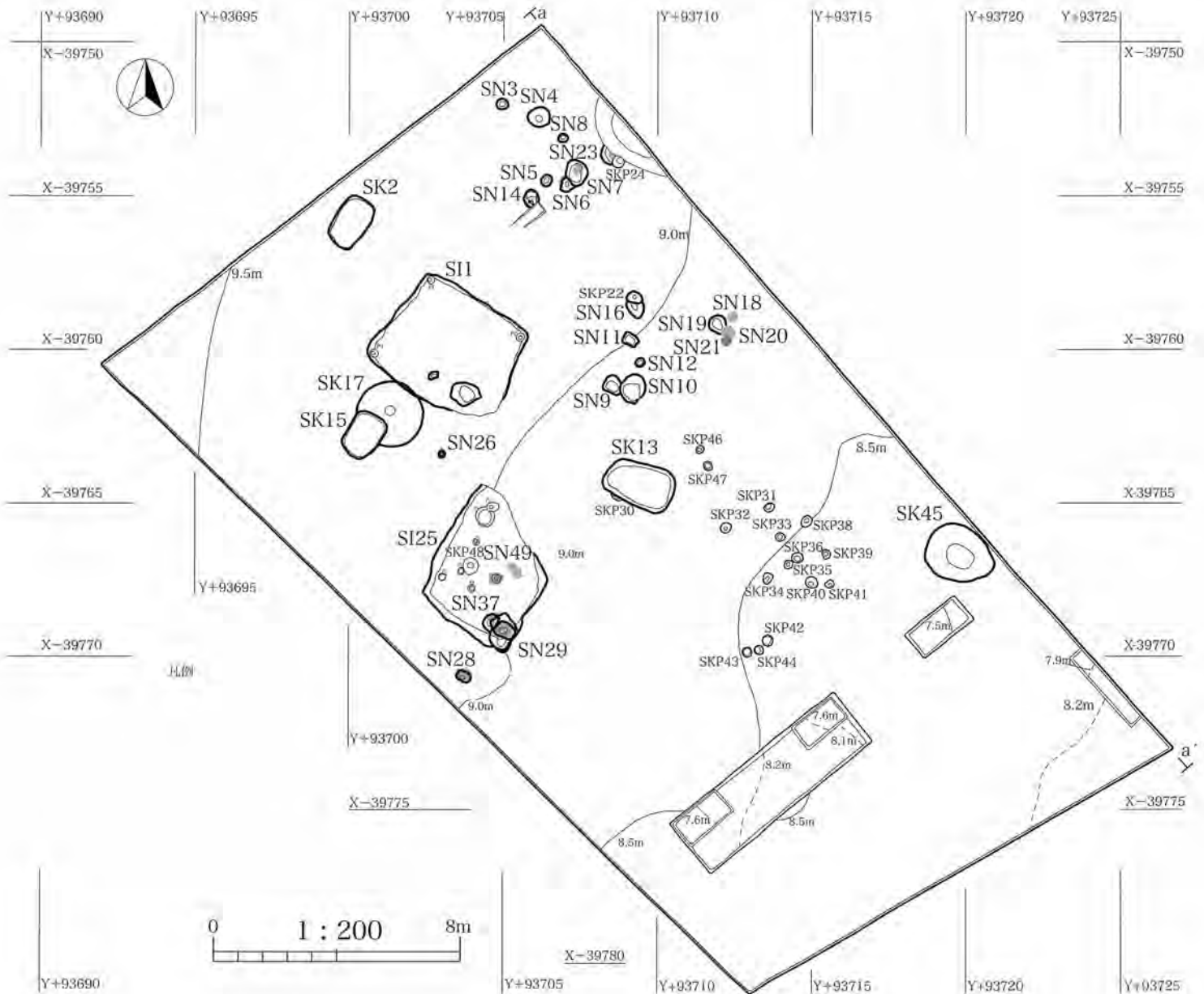


第4図 調査区位置図

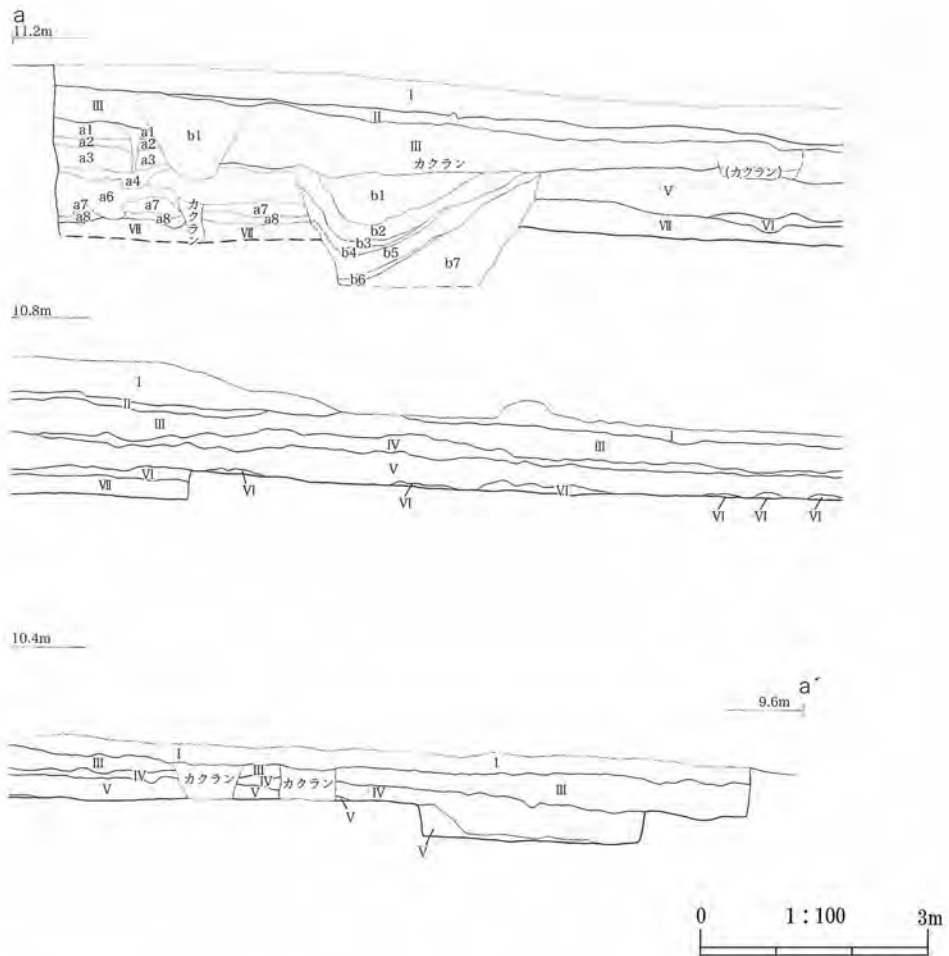
2 基本層序

調査区の基本土層を確認するため、調査区の北東側壁面で土層の確認と基本土層図を作成した。

I層は表土層、II層は整地層、III層は盛土層、IV層は水成堆積層、V層は旧表土層、VI層、VIIは水成堆積層である。I～III層は近現代のもので、V層は遺構検出面である。IV層とVI、VII層の観察から、本地点は北側の丘陵から土砂が複数回流入していたことが確認された。



第5図 遺構配置図



- | | | | |
|-----|-----------------|----------------------|--------------|
| I | 砂質埴壤土 (10YR5/1) | 10YR6/1 径 2 ~ 30mm | 塊状 10% 砂質 疎 |
| II | 砂質埴壤土 (10YR4/1) | 10YR6/1 径 2 ~ 5mm | 粒状 3% やや砂質 密 |
| III | 砂質埴壤土 (10YR5/2) | 10YR6/1 径 5 ~ 30mm | 塊状 5% やや砂質 疎 |
| IV | 砂質埴壤土 (10YR5/1) | 10YR6/3 径 30 ~ 50mm | 粒状 3% やや砂質 疎 |
| V | 砂質埴壤土 (10YR5/1) | 10YR6/3 径 10 ~ 50mm | 粒状 1% やや砂質 疎 |
| VI | 砂質埴壤土 (10YR5/1) | 10YR6/3 径 10 ~ 100mm | 粒状 3% やや砂質 疎 |
| VII | 砂質埴壤土 (10YR5/2) | 10YR6/3 径 10 ~ 30mm | 粒状 3% やや砂質 疎 |

第6図 調査区基本土層図

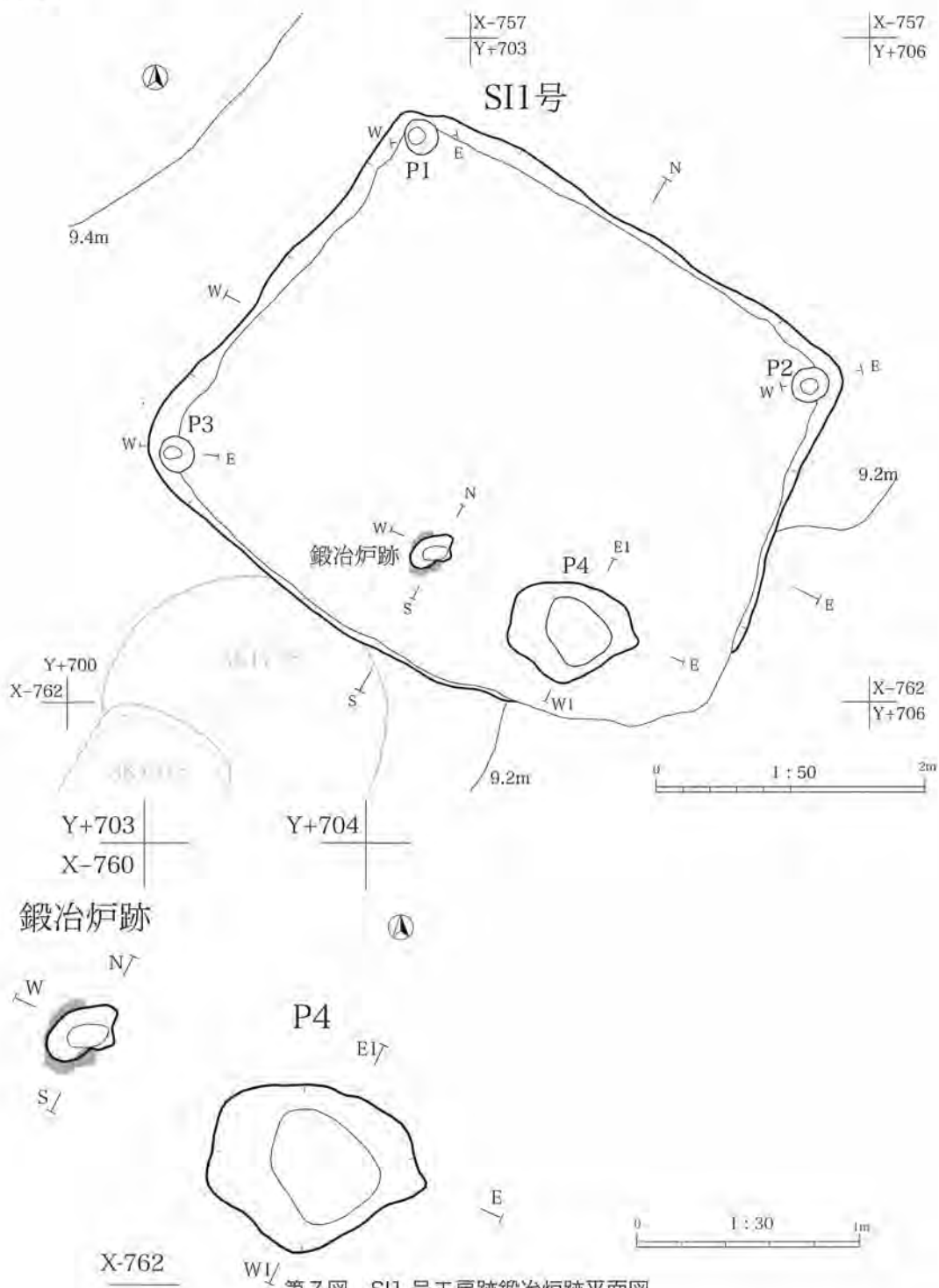
3 検出遺構と出土遺物

S11号工房跡（第7, 8, 9図）

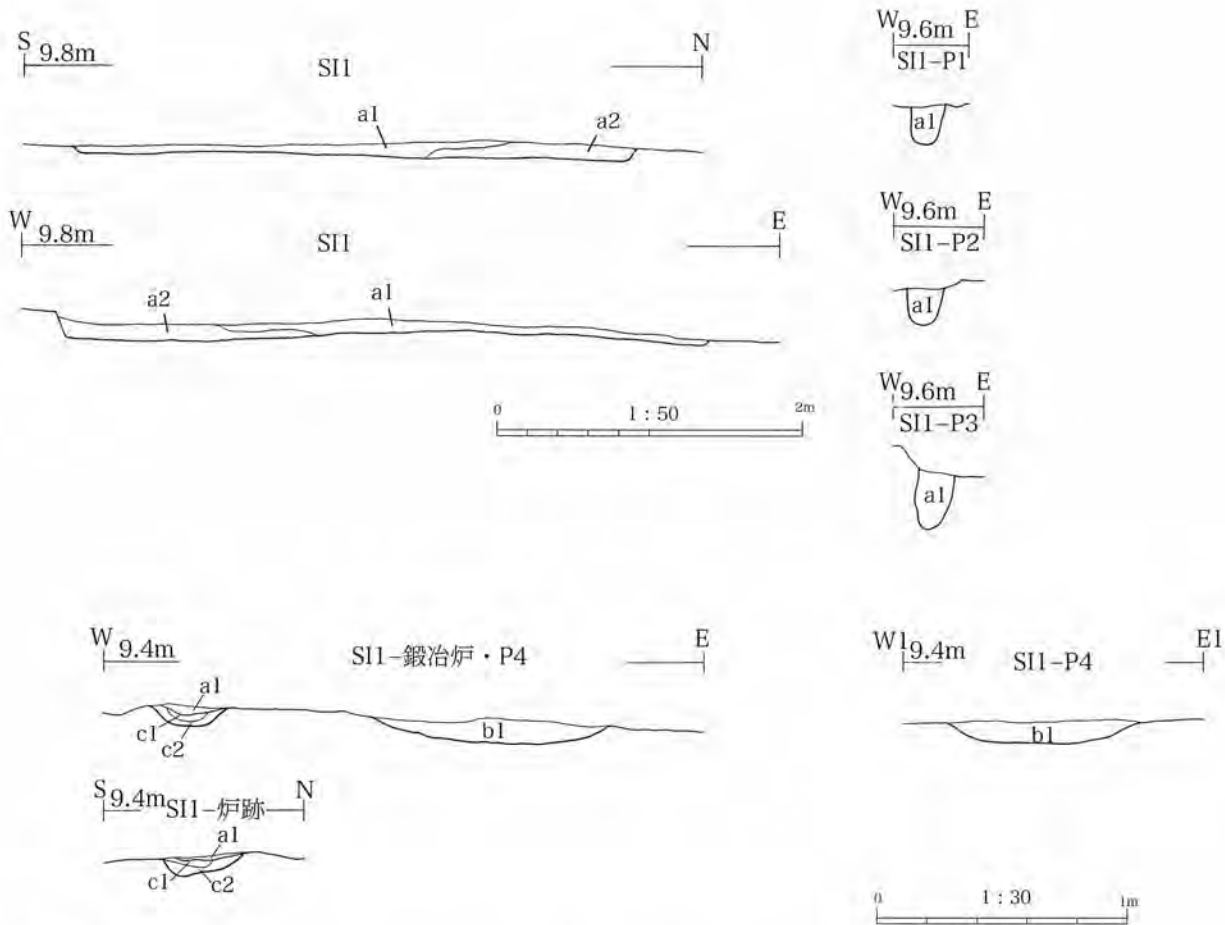
〈検出状況〉調査区西側、V層中で、方形状の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉土層断面の位置で、東西4.34×南北3.70m、深さ0.04～0.18mである。南側の壁の一部が消失している。17号土坑跡と重複し、本遺構が新しい。覆土は2層に細別できる。北側と東西側で柱穴状の落ち込みを確認した。また、南側で鍛冶炉を確認した。P4は鍛冶炉に伴う遺構と考えられ、覆土中から鉄滓と鍛造剥片が出土した。

〈出土遺物〉遺構南側、a1層下位から銭貨（銭文不明）が出土した。P4から鉄滓と鍛造剥片が出土した。〈時期・時代〉銭貨（銭文不明）が出土し、検出面の時期から16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



第7図 S11号工房跡鍛冶炉跡平面図



S11 号工房跡

a1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR5/2 径2～30mm 粒状 5% やや砂質 疎

a2 砂質埴壤土 (10YR5/2) 10YR5/1 径2～5mm 粒状 1% 砂質 疎

S11-鍛冶炉・P4

a1 砂質埴壤土 (10YR5/2) 7.5YR5/2 径2mm 粒状 1% やや砂質 疎 (炉跡覆土)

b1 砂質埴壤土 (10YR5/2) 10YR6/3 径2～5mm 粒状 3% 鍛造剥片 鉄滓含む やや砂質 疎 (P4 覆土)

c1 砂質埴壤土 (2.5Y6/2) 5YR5/3 径2～5mm 粒状 1% やや砂質 やや密 (被熱による変色面)

c2 砂質埴壤土 (5YR5/3) 10YR4/1 径2～5mm 粒状 1% やや砂質 やや密 (被熱による変色面)

S11-P1

a1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR6/1 径5～10mm 粒状 3% 砂質 疎

S11-P2

a1 砂質埴壤土 (10YR5/2) 10YR5/1 径2～5mm 粒状 5% 砂質 疎

S11-P3

a1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR6/1 径2mm 粒状 3% 砂質 疎

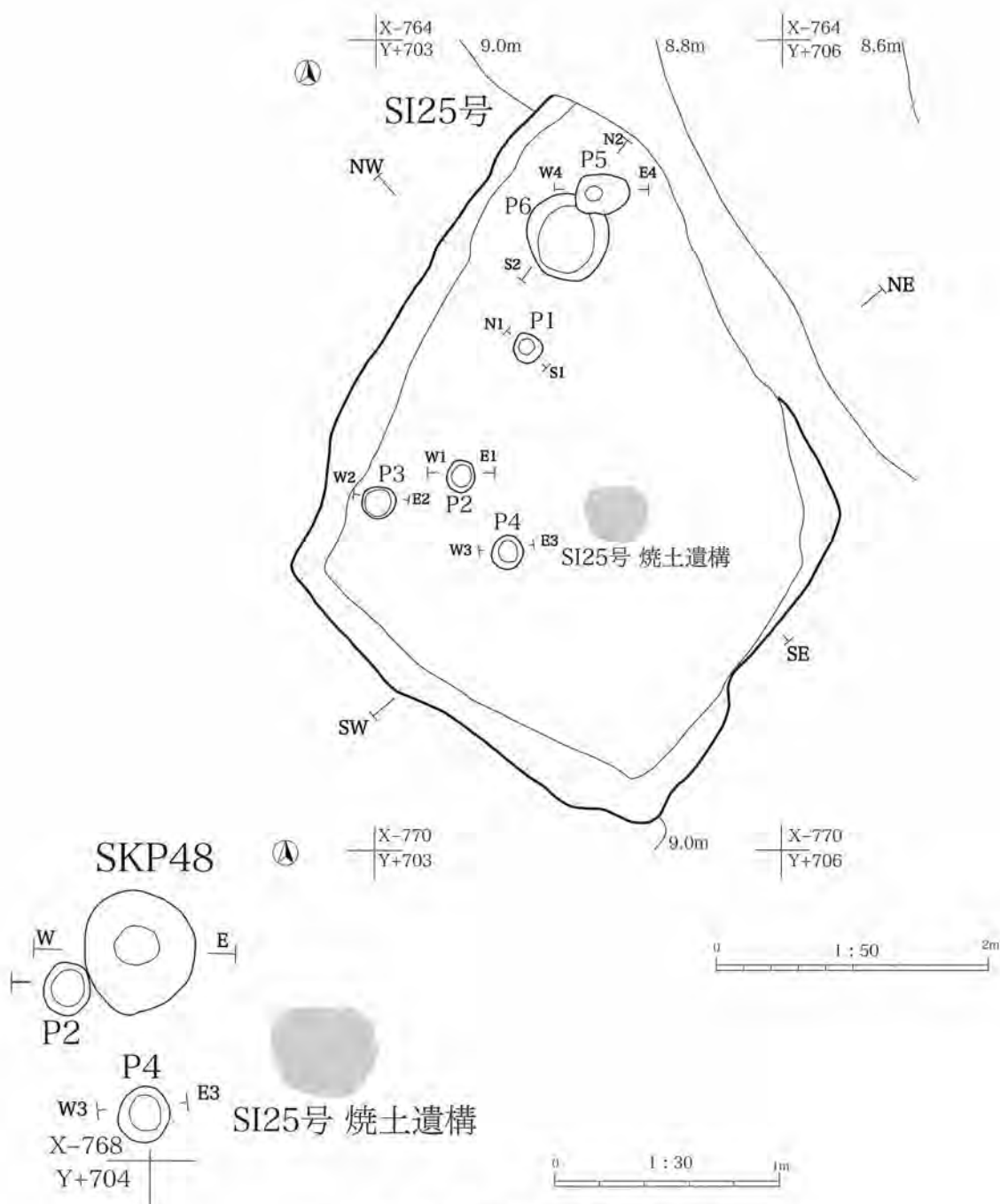
第8図 S11 号工房跡断面図



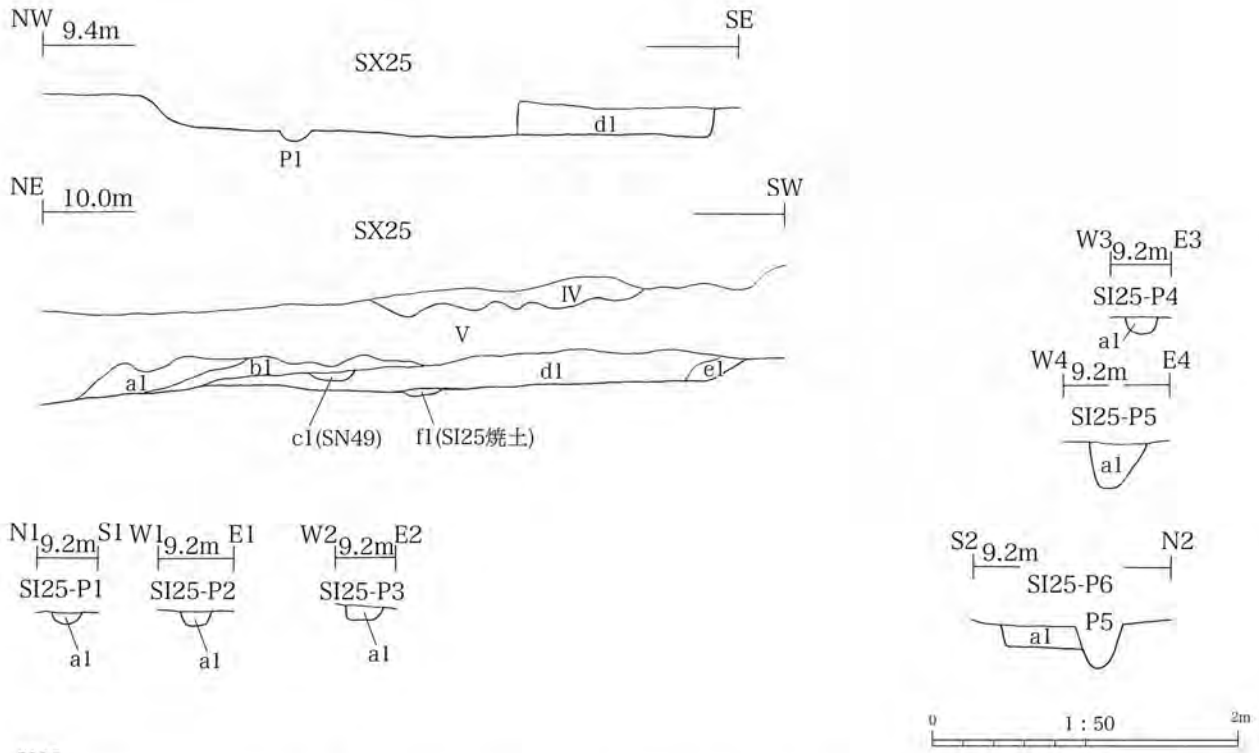
第9図 S11 号工房跡出土遺物

SI25号工房跡 (第 10, 11 図)

〈検出状況〉 調査区南側、V層中で確認した。遺構を北側と南側に分けるかたちでの調査となった。
 〈規模・形態〉 土層断面の位置で、3.79 m×3.62 m、深さ0.14～0.22 mである。SN29号とSN37号、SN49号、SKP48と重複し、本遺構は重複するいずれの遺構よりも古い。遺構の覆土は2層に大別でき、d1層は人為堆積土、e1層は自然堆積土と考えられる。重複するSN29号、37号、49号を築くときに埋没途中の本遺構が埋め戻された可能性が考えられる。遺構中央付近に焼土遺構があり、床面が熱により変色している。掘り込んで窪みを作って使用したものではない。柱穴状の掘り込みが遺構西側で確認されたが、規模の共通性や、配置には規格性は見られない。北東側の壁は消失していた。
 〈出土遺物〉 出土なし
 〈時期・時代〉 SII号工房跡と遺構の形状や付属する施設跡が共通し、検出面もこれと同じことから16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



第 10 図 SI25号工房跡、焼土遺構平面図



SI25

- a1 砂質埴壤土 (10YR5/2) 10YR6/4 径 2 ~ 10mm 粒状 5% やや砂質 疎
- b1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR6/4 径 2 ~ 10mm 粒状 1% やや砂質 疎
- c1 砂質埴壤土 (5YR5/4) 炭 径 2 ~ 5mm 1% やや砂質 やや疎 (SN49号 被熱による変色面)
- d1 砂質埴壤土 (10YR5/2) 10YR6/3 ~ 6/6 径 5 ~ 100mm 塊状 30% やや砂質 やや密 (整地層)
- e1 砂質埴壤土 (10YR5/2) 10YR6/3 径 2 ~ 5mm 粒状 3% やや砂質 疎
- f1 砂質埴壤 (10YR6/1) 10YR6/3 径 2mm 粒状 1% やや砂質 疎 (被熱による変色面)

SI25-P1

- a1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR6/4 径 2 ~ 10mm 粒状 10% やや砂質 疎

SI25-P2

- a1 砂質埴壤土 (10YR4/1) 10YR6/4 径 2mm 粒状 1% やや砂質 疎

SI25-P3

- a1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR6/4 径 2mm 粒状 1% やや砂質 疎

SI25-P4

- a1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR6/4 径 2 ~ 10mm 粒状 3% やや砂質 疎

SI25-P5

- a1 砂質埴壤土 (10YR4/1) 10YR6/4 径 2 ~ 5mm 粒状 3% やや砂質 疎

SI25-P6

- a1 砂質埴壤土 (10YR4/1) 10YR6/4 径 2 ~ 5mm 粒状 1% やや砂質 疎

第 11 図 SI25 号工房跡断面図

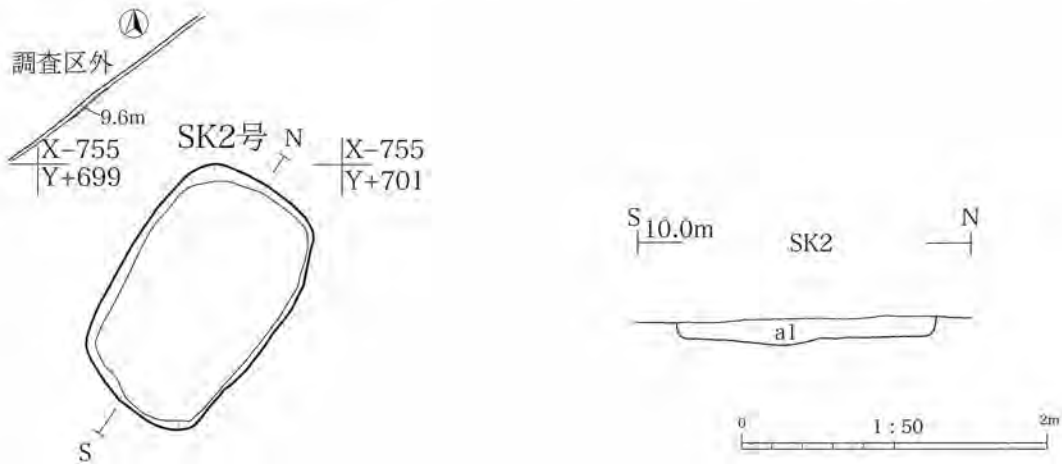
SK2号土坑跡（第12図）

〈検出状況〉調査区北側、V層中で確認した。

〈規模・形態〉長軸1.73m、短軸1.1m、深さ0.2mの略楕円形である。他の遺構との重複はない。覆土は単層で人為堆積と考えられる。掘り込みが浅く、削平されていると考えられる。

〈出土遺物〉遺構東側、a1層中から馬の歯が1点出土した。

〈時期・時代〉馬墓跡と考えられる。本来はもっと深さがあり、掘り込み面は、V層より上の層と想定される。時期・時代は不明である。



SK2号

a1 砂質埴土 (10YR5/2) 10YR6/3 径2mm 粒状3% やや砂質 疎

第12図 SK2号土坑跡平面図・断面図

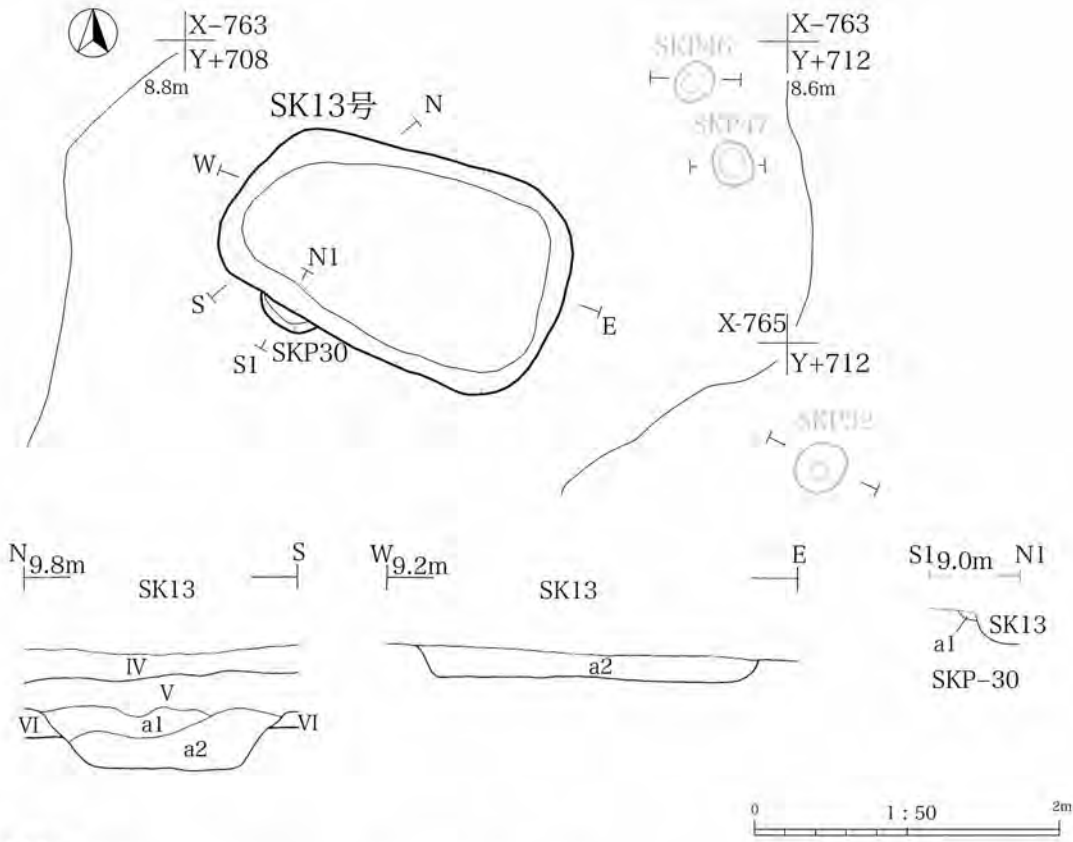
SK13号土坑跡（第13図）

〈検出状況〉調査区中央部で確認する。VI層上面で検出した。

〈規模・形態〉長軸2.32m、短軸1.38m、深さ0.38m、不整楕円形である。SKP30号と重複し、SK13号が新しい。覆土は2層に細別でき、人為堆積と考えられる。

〈出土遺物〉出土なし。

〈時期・時代〉検出状況から16世紀～17世紀初頭頃と考えられる。



SK13号

a1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR5/4 径2~5mm 塊状 1% やや砂質 疎

a2 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR5/4 径2~10mm 塊状 5% やや砂質 疎

SKP30

a1 砂質埴壤土 (10YR5/2) 10YR4/1 径2~5mm 粒状 3% 炭 径2~5mm 5% やや砂質 疎

第13図 SK13号土坑跡、SKP30号平面図・土層断面図

SK15号土坑跡（第14図）

〈検出状況〉調査区西側、VI層中で検出した。

〈規模・形態〉長軸 1.54 m、短軸 1.12 m、深さ 0.39m の略長方形である。SK17号と重複し、SK15号が新しい。覆土は単層である。

〈出土遺物〉なし

〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃と考えられる。

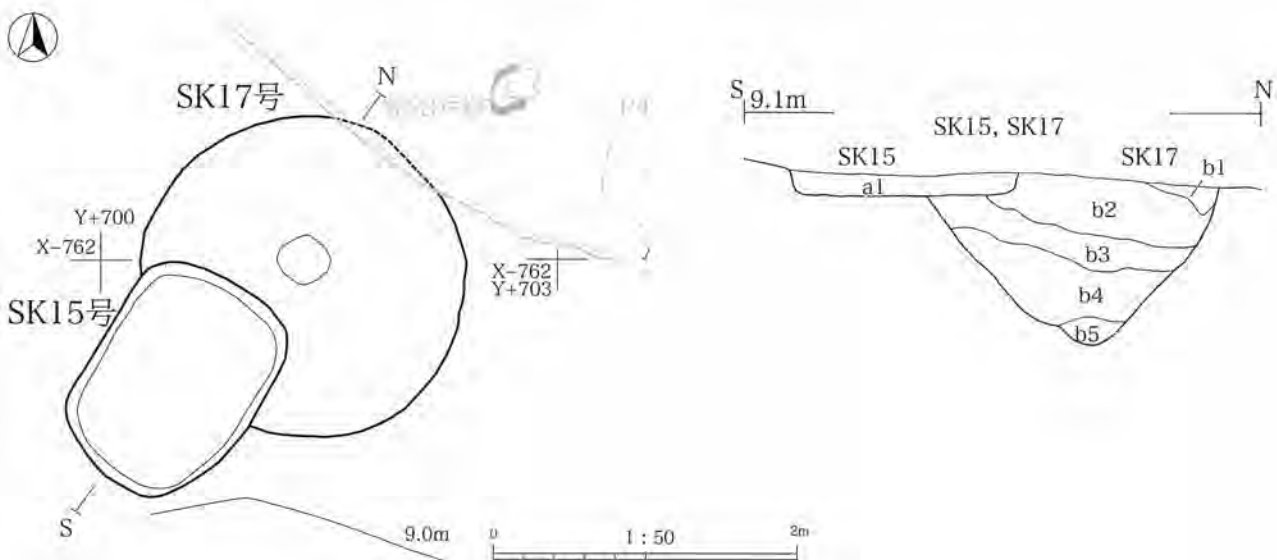
SK17号土坑跡（第14図）

〈検出状況〉調査区西側、VI層中で検出した。

〈規模・形態〉東西 2.14 m、南北 2.11 m、深さ 1.05 m の円形である。SK15号と重複し、SK17号が古い。覆土は5層に細別でき、人為堆積と考えられる。

〈出土遺物〉

〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃と考えられる。



SK15号・17号

- a1 砂質埴壤土 (10YR4/1) 10YR6/4 径2～5mm 粒状 1% やや砂質 疎 (SK15 覆土)
- b1 砂質埴壤土 (10YR6/1) 10YR4/1 径5～10mm 粒状 3% やや砂質 疎 (SK17 覆土)
- b2 砂質埴壤土 (10YR4/2) 10YR5/1 径5～50mm 塊状 20% やや砂質 疎 (SK17 覆土)
- b3 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR4/2 径5～50mm 塊状 10% やや砂質 疎 (SK17 覆土)
- b4 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR4/2 径5～50mm 塊状 10% やや砂質 疎 (SK17 覆土)
- b5 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR4/2 径2～50mm 塊状 5% やや砂質 疎 (SK17 覆土)

第14図 SK15号、17号土坑跡平面図・土層断面図

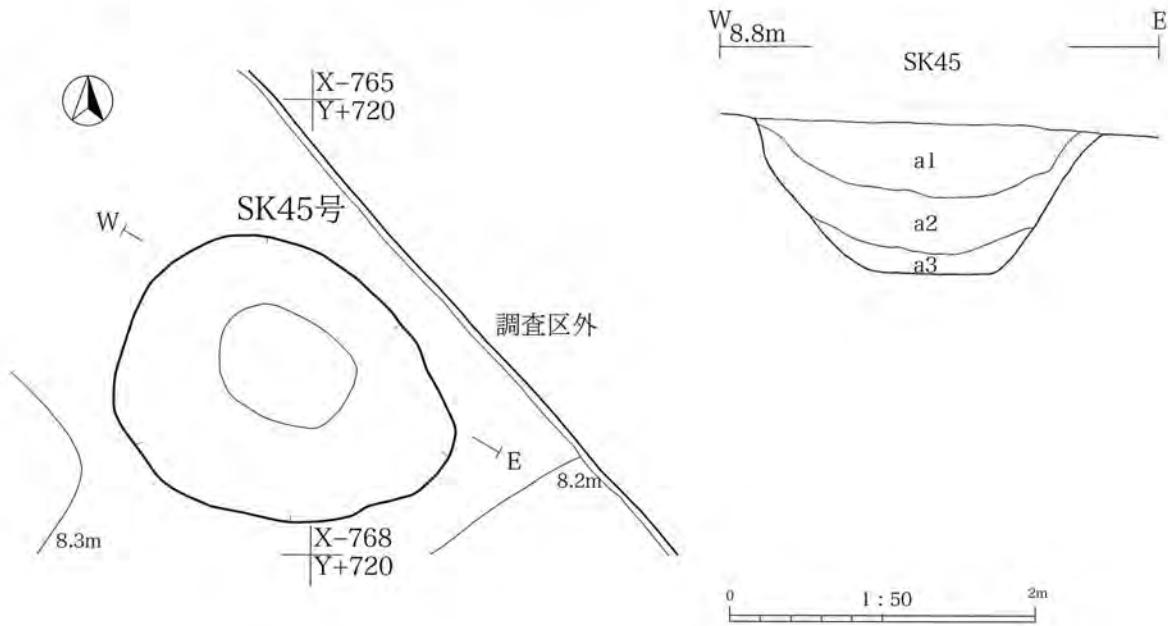
SK45号土坑跡（第15図）

〈検出状況〉調査区東側、V層下位～VI層上面で確認した。

〈規模・形態〉長軸2.30m、短軸1.76m、深さ1.04mの不整形円形である。覆土は3層に細別でき、人為堆積と考えられる。

〈出土遺物〉なし。

〈時代・時期〉検出状況から16世紀～17世紀初頭頃と考えられる。



SK45号

- | | | | | | | |
|----|-------|-----------|---------|----------|-------|-----|
| a1 | 砂質埴壤土 | (10YR5/1) | 10YR6/2 | 径2～100mm | 塊状5% | 砂質疎 |
| a2 | 砂質埴壤土 | (10YR5/2) | 10YR6/2 | 径2～50mm | 塊状20% | 砂質疎 |
| a3 | 砂質埴壤土 | (10YR5/1) | 10YR6/2 | 径2～50mm | 塊状10% | 砂質疎 |

第15図 SK45号土坑跡平面図・土層断面図

SN3号焼土遺構（第16, 17図）

〈検出状況〉調査区北側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.39m、南北0.34m、深さ0.09m、略円形である。他の遺構との重複はない。浅く掘り込まれており、掘り込み全体が褐色に変色していた。このなかで火を使って作業をしたものと考えられる。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN4号焼土遺構（第16, 17図）

〈検出状況〉調査区北側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.72m、南北0.64m、深さ0.17m、略円形である。他の遺構との重複はない。浅く掘り込まれており、掘り込み全体が褐色に変色していた。このなかで火をつかって作業をしたものと考えられる。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN5号焼土遺構（第16, 17図）

〈検出状況〉調査区北側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.32m、南北0.38m、深さ0.03m、略円形である。他の遺構との重複はない。浅く掘り込み、このなかで火をつかって作業をしたものと考えられる。

〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN6号焼土遺構（第16, 17図）

〈検出状況〉調査区北側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.48m、南北0.50m、深さ0.09m、略円形である。SN7号と重複し、SN6号が古い。浅く掘り込み、このなかで火をつかって作業をしたものと考えられる。遺構北側の上端が褐色に変色していた。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN7号焼土遺構（第16, 17図）

〈検出状況〉調査区北側、V層中で検出した。

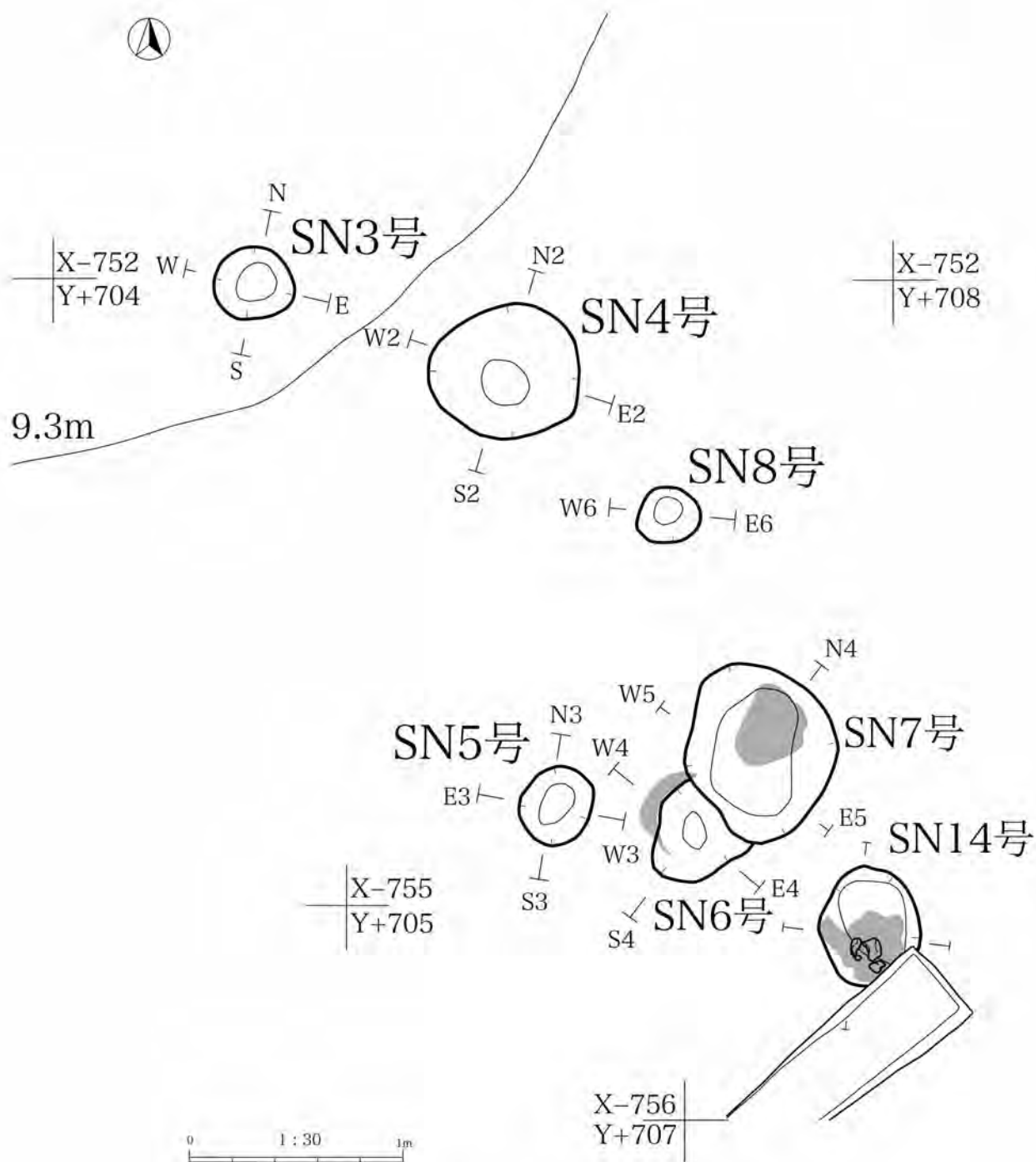
〈規模・形態〉東西0.73m、南北0.84m、深さ0.06m、略楕円形である。SN6号と重複し、SN7号が新しい。覆土は、a1層が使用を終え廃棄されたあとに入り込んだもの、b1層が使用中に底面に堆積したものと考えられる。浅く掘り込み、このなかで火を使って作業をしたものと考えられる。遺構北側の一部が褐色に変色している。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN8号焼土遺構（第16, 17図）

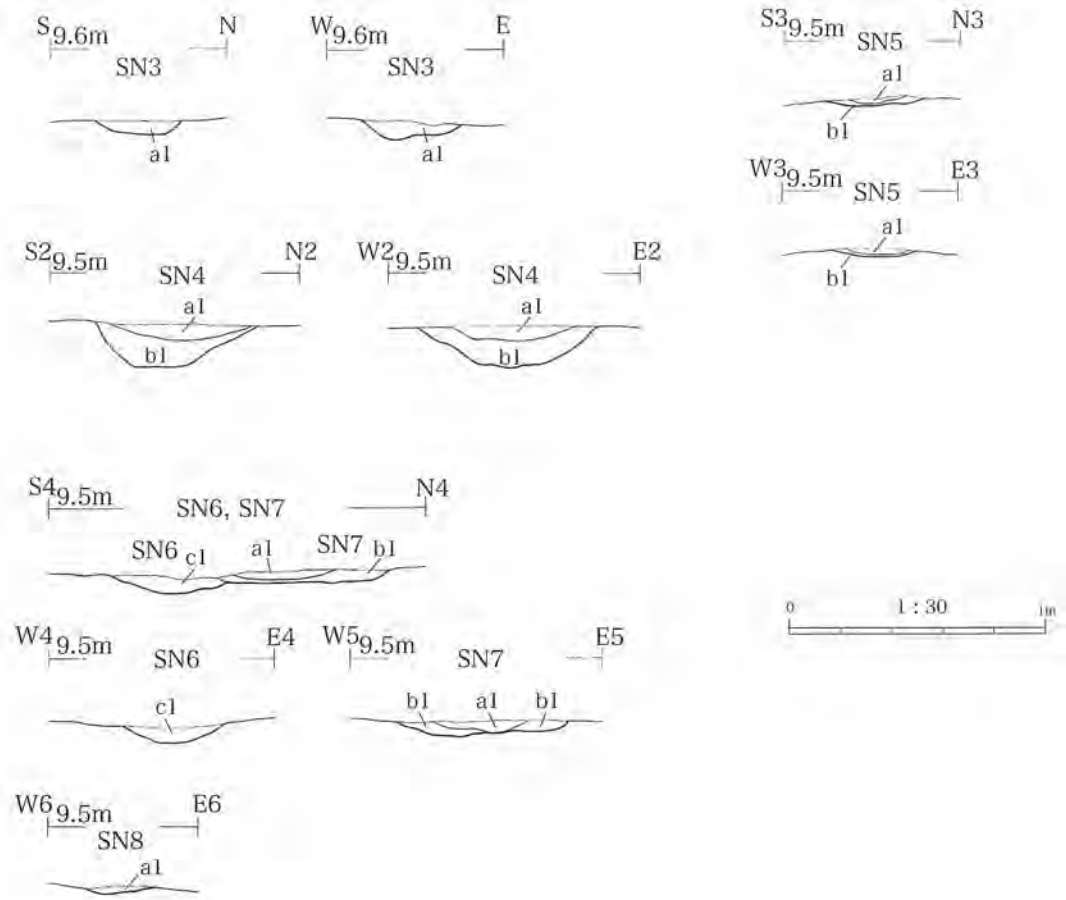
〈検出状況〉調査区北側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.31m、南北0.27m、深さ0.03m、略円形である。他の遺構との重複はない。覆土に焼土を含む。浅く掘り込まれており、このなかで火をつかって作業をしたものと考えられる。

〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況面から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



第16図 SN3号、4号、5号、6号、7号、8号焼土遺構平面図



- SN3
- a1 砂質埴壤土 (10YR5/2) 10YR4/1 径2~5mm 粒状 3% やや砂質 疎
- SN4
- a1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR4/1 径2~5mm 粒状 1% やや砂質 疎
 - b1 砂質埴壤土 (10YR3/1) 10YR4/1 径2~5mm 粒状 1% 以下 やや砂質 疎
- SN5
- a1 埴壤土 (10YR6/2) 10YR5/2 径2~5mm 粒状 1% やや砂質 疎
 - b1 埴壤土 (10YR3/1) 10YR6/2 径2mm 粒状 3% やや砂質 疎
- SN6・7
- a1 砂質埴壤土 (10YR5/1) 10YR5/3 径5~10mm 粒状 5% 炭 径5~10mm 5% やや砂質 疎 (SN7 覆土)
 - b1 砂質埴壤土 (2.5Y6/2) 10YR5/1 径2~5mm 粒状 1% 炭 径2~5mm 3% 砂質 疎 (SN7 覆土)
 - c1 砂質埴壤土 (10YR5/2) 10YR6/1 径5~10mm 粒状 10% やや砂質 疎 (SN6 覆土)
- SN8
- a1 砂質埴壤土 (10YR4/1) 7.5YR4/1 径2~10mm 粒状 3% やや砂質 疎

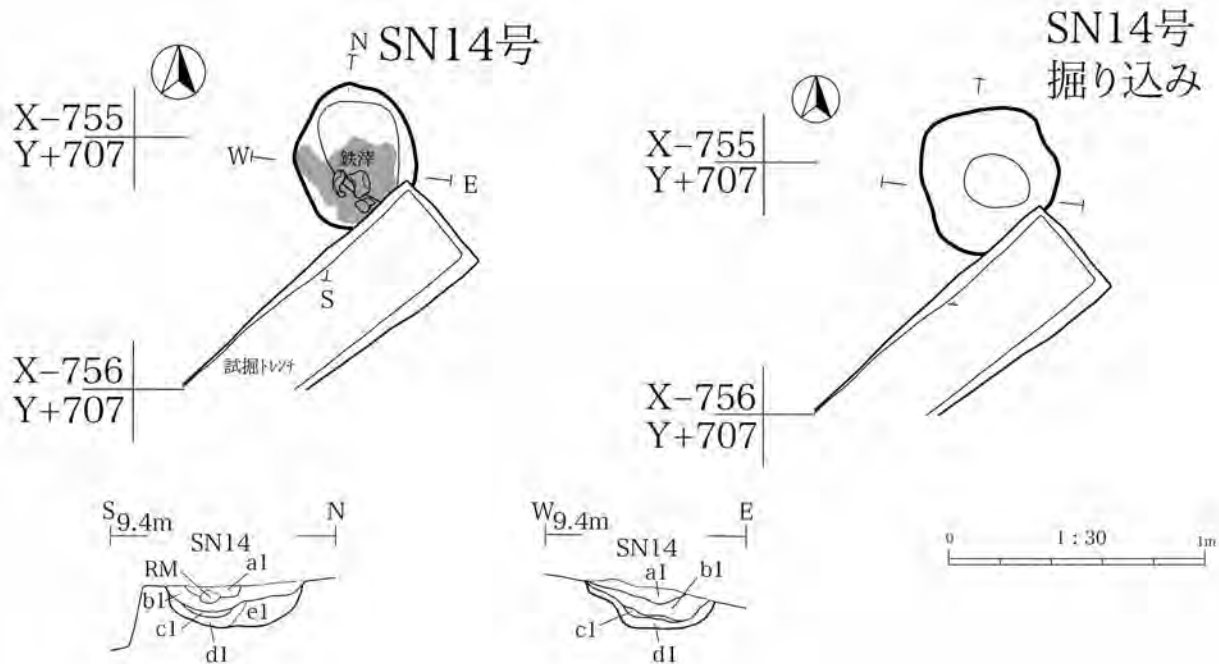
第 17 図 SN3 号、4 号、5 号、6 号、7 号、8 号焼土遺構土層断面図

SN14号製鉄炉跡（第18図）

〈検出状況〉調査区北側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.55m、南北0.57m、深さ0.19m、略円形である。他の遺構との重複はない。遺構の南側は試掘調査のトレンチにより消失した。覆土は、a1層が使用を終えたその後に入り込んだもの、b1層が使用時に堆積した覆土、c1層が還元焼成により変色した部分である。

d1、e1層は製鉄炉の下部にあたり、特にe1層は還元焼成により変色した層であることから、炉構築前の除湿作業の痕跡か、もしくは製鉄作業が2回行われ、1回目の製鉄炉の痕跡を示す可能性が考えられる。調査では、そのどちらであるかは判断できなかった。〈出土遺物〉遺構の南側、a1層下位から鉄滓が出土した。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



SI14

a1	砂質埴壤土	(10YR4/2)	炭 径5～10mm 5% やや砂質 疎
b1	砂質埴壤土	(10YR2/1)	10YR4/2 径2～5mm 粒状 1% やや砂質 疎
c1	砂質埴壤土	(7.5YR4/2)	7.5YR6/4 径1mm 粒状 1% やや砂質 疎
c2	砂質埴壤土	(7.5YR6/4)	7.5YR5/1 径2～5mm 粒状 3% やや砂質 やや密
d1	砂質埴壤土	(2.5Y6/2)	10YR4/1 径1mm 粒状 1% やや砂質 やや疎
e1	砂質埴壤土	(10Y4/1)	10YR5/2 径1mm 粒状 1% やや砂質 やや疎
e2	砂質埴壤土	(2.5Y6/1)	炭 径2～5mm 3% やや砂質 やや疎

第18図 14号製鉄遺構平面図・土層断面図

SN9号焼土遺構（第19図）

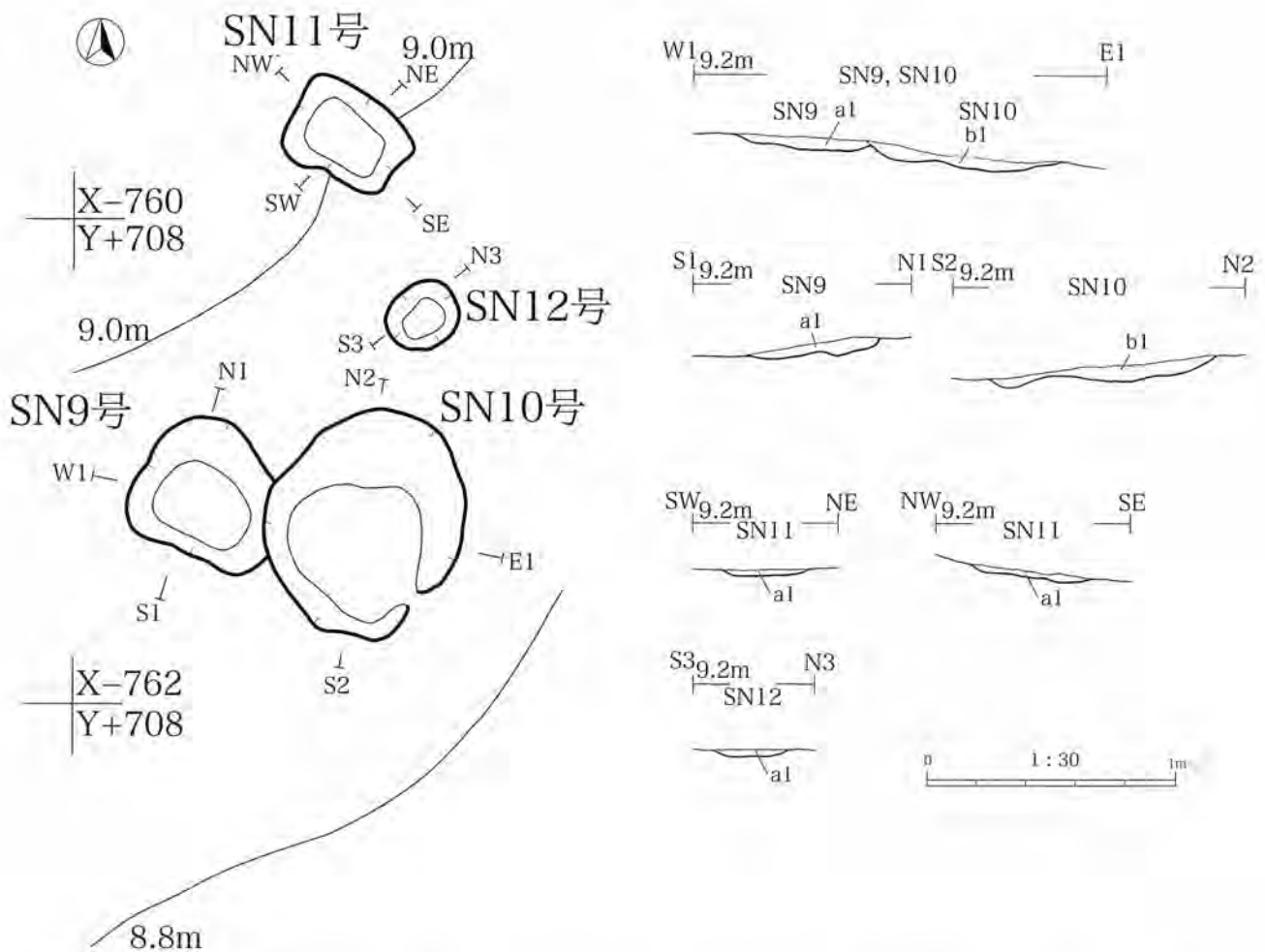
〈検出状況〉 調査区中央、V層中で検出した。

〈規模・形態〉 東西0.61m、南北0.65m、深さ0.08m、不整形である。SN10号と重複し、SN9号が古い。覆土は焼土を含む。浅い掘り込みである。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN10号焼土遺構（第19図）

〈検出状況〉 調査区中央、V層中で検出した。

〈規模・形態〉 東西0.82m、南北0.95m、深さ0.13m、不整形である。SN9号と重複し、SN10号が新しい。覆土は焼土を含む。浅い掘り込みである。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



SN9・10

- a1 砂質植壤土 (2.5Y6/1) 7.5YR5/2 径2～5mm 粒状1% 炭径2～10mm 1% やや砂質 疎 (SN10 覆土)
- b1 砂質植壤土 (2.5YR6/1) 7.5YR5/2 径2～5mm 粒状3% 炭径2～30mm 5% やや砂質 疎 (SN9 覆土)

SN11

- a1 砂質植壤土 (10YR4/1) 5YR4/2 径2～10mm 粒状1% 炭径5～10mm 1% やや砂質 疎

SN12

- a1 砂質植壤土 (7.5YR5/3) 7.5YR4/1 径5mm 粒状3% 炭径5mm 1% やや砂質 疎

第19図 SN9、10、11、12号焼土遺構平面図・土層断面図

SN11号焼土遺構（第19図）

〈検出状況〉調査区中央、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.54m、南北0.49m、深さ0.07m、不整形である。他の遺構との重複はない。覆土は焼土を含む。浅い掘り込みである。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN12号焼土遺構（第19図）

〈検出状況〉調査区中央、V層中で検出した。

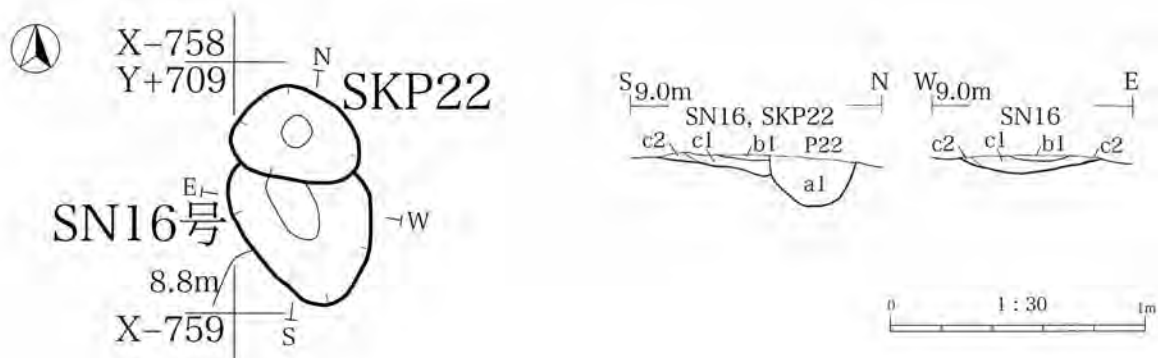
〈規模・形態〉東西0.24m、南北0.28m、深さ0.03m、楕円形である。他の遺構との重複はない。覆土は焼土を含む。浅い掘り込みである。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN16号焼土遺構、SKP22（第20図）

〈検出状況〉調査区中央、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.56m、南北0.57m、深さ0.09m、楕円形である。SKP22号と重複し、SN16号が古い。掘り込みは浅く、遺構の周囲は火の熱により変色している。〈出土遺物〉なし。

〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



SN16・P22

a1	砂質植壤土	(10YR4/1)	10YR6/3～6/6	径2～30mm	塊状 20%	やや砂質 疎	(P22 覆土)
b1	砂質植壤土	(10YR6/1)	10YR6/2	径2～5mm	粒状 3%	やや砂質 疎	(SN16 覆土)
c1	砂質植壤土	(7.5YR5/2)	10YR6/2	径2～5mm	粒状 3%	やや砂3質 疎	(SN16 覆土)
c2	砂質植壤土	(10YR6/4)	10YR4/2	径2mm	粒状 1%	やや砂質 やや疎	(SN16 覆土)

第20図 SN16号焼土遺構、SKP22号平面図・土層断面図

SN18号焼土遺構（第21図）

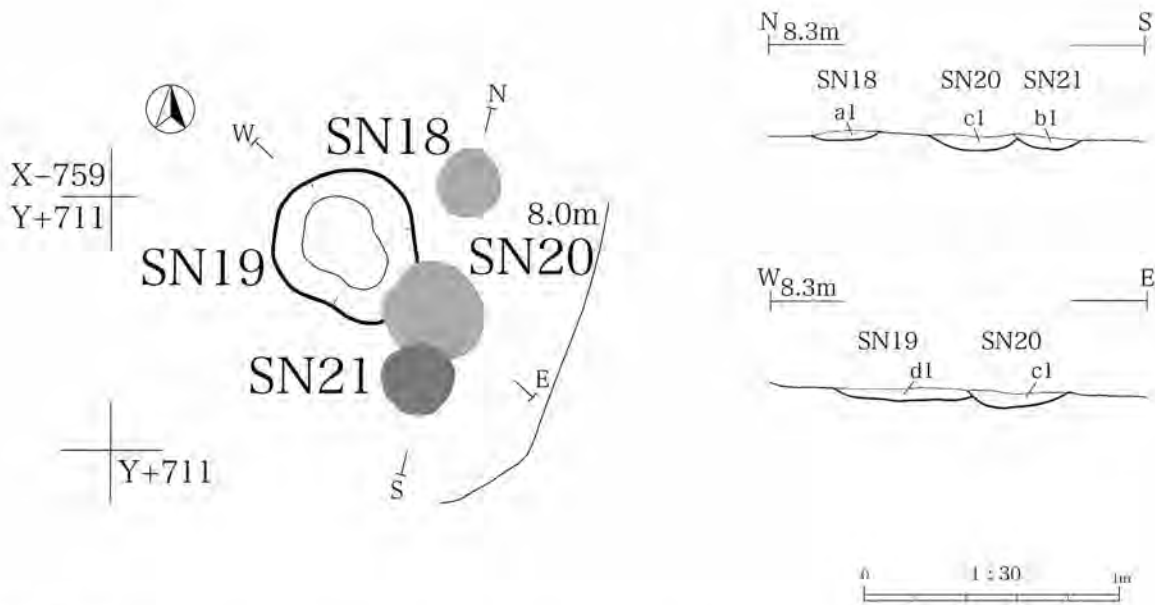
〈検出状況〉調査区中央、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.25m、南北0.27m、深さ0.04m、楕円形である。他の遺構との重複はない。掘り込みはなく、火の熱により変色した跡と考えられる。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN19号焼土遺構（第21図）

〈検出状況〉調査区中央、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.56m、南北0.61m、深さ0.05m、楕円形である。SN20号と重複し、SN19号が古い。掘り込みは浅く、覆土は焼土を含む。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



SN18・20・21

- a1 砂質埴壤土 (7.5YR5/2) やや砂質 疎 (SN18 被熱による変色面)
- b1 砂質埴壤土 (7.5YR5/3) やや砂質 疎 (SN21 被熱による変色面)
- c1 砂質埴壤土 (7.5YR5/3) 10YR5/1 径1mm 粒状1% やや砂質 やや疎 (SN20 被熱による変色面)

SN19・20

- c1 砂質埴壤土 (7.5YR5/3) 10YR5/1 径1mm 粒状1% やや砂質 やや疎 (SN20 被熱による変色面)
- d1 砂質埴壤土 (7.5YR5/1) 7.5YR5/2～5/4 板状1～2mm 30% やや粘質 疎 (SN19 覆土)

第21図 SN18、19、20、21号焼土遺構平面図・土層断面図

SN20 号焼土遺構（第 21 図）

〈検出状況〉調査区中央、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西 0.41m、南北 0.39m、深さ 0.07m、略円形である。SN19 号、21 号と重複し、SN19 号よりは新しく、21 号よりは古い。掘り込みはなく、火の熱により変色した跡と考えられる。

〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16 世紀～17 世紀初頭頃のものと考えられる。

SN21 号焼土遺構（第 21 図）

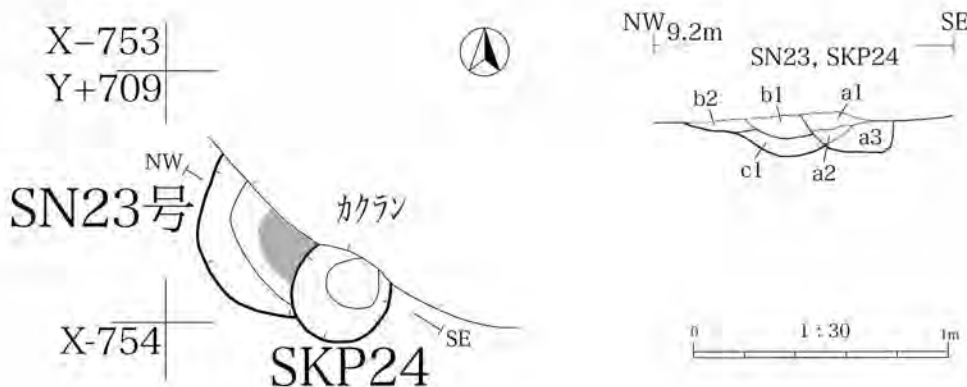
〈検出状況〉調査区中央、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西 0.29m、南北 0.29m、深さ 0.06m、略円形である。SN20 号と重複し、SN21 号が新しい。掘り込みはなく、火の熱により変色した跡と考えられる。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16 世紀～17 世紀初頭頃のものと考えられる。

SN23 号焼土遺構（第 22 図）

〈検出状況〉調査区北側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉SKP24 号、攪乱と重複し、両遺構よりも古い。掘り込みは浅く、底面は火の熱により変色している。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16 世紀～17 世紀初頭頃のものと考えられる。



SN23・P24

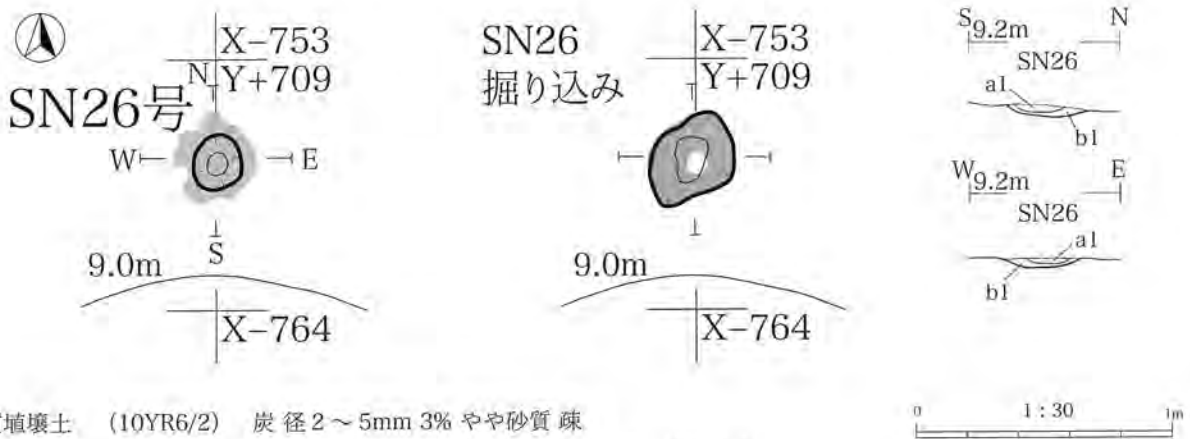
a1	砂質埴壤土 (10YR5/1)	10YR6/2 径 5～10mm 塊状 3% やや砂質 疎 (SKP24 覆土)
a2	砂質埴壤土 (10YR6/3)	10YR4/1 径 5～30mm 塊状 5% やや砂質 疎 (SKP24 覆土)
a3	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR6/4 径 2～5mm 粒状 3% やや砂質 疎 (SKP24 覆土)
b1	砂質埴壤土 (10YR6/2)	10YR5/1 径 2～10mm 粒状 3% 炭 径 2～5mm 3% やや粘質 疎 (SN23 覆土)
b2	砂質埴壤土 (10YR5/1)	7.5YR5/2 径 2～5mm 粒状 5% 炭 径 2～5mm 3% やや粘質 疎 (SN23 覆土)
c1	砂質埴壤土 (7.5YR5/3)	10YR6/2 径 2mm 粒状 1% やや砂質 疎 (SN23 被熱による変色面)

第 22 図 SN23 号焼土遺構、SKP24 平面図・土層断面図

SN26号焼土遺構（第23図）

〈検出状況〉調査区中央、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.18m、南北0.22m、深さ0.05m、不整形である。他の遺構との重複はない。覆土は、炭を多く含む。なかでもb1層は焼土を多く含み、掘り込みに張り付くような状態であった。b1層を取り除くと掘り込みが検出された。この掘り込みは火の熱により変色していた。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



SN26

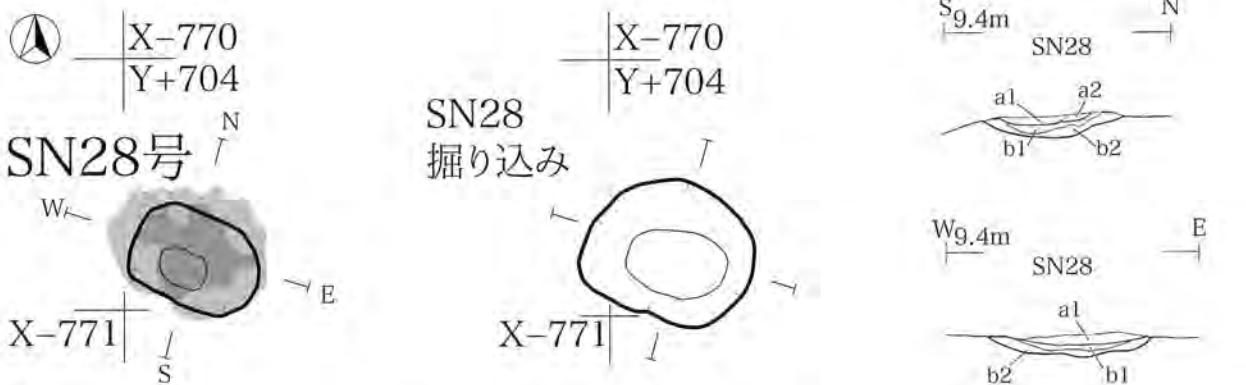
- a1 砂質埴壤土 (10YR6/2) 炭径2～5mm 3% やや砂質 疎
- b1 砂質埴壤土 (7.5YR5/3) 炭径2～10mm 3% やや砂質 やや疎 (炉壁か)

第23図 SN26 焼土遺構平面図・土層断面図

SN28号焼土遺構（第24図）

〈検出状況〉調査区西側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西0.51m、南北0.40m、深さ0.10m、不整形である。他の遺構との重複はない。覆土は、a1,a2層が使用を終えその後に入り込んだもの、b1層上面は使用面で、固く焼き締っていた。b2層は、掘り込みに張り付くような状態であった。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉検出状況から、16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



SN28

- a1 砂質埴壤土 (10YR4/1) 7.5YR5/3 径2～10mm 粒状 1% 砂質 疎
- a2 砂質埴壤土 (7.5YR4/2) 10YR4/1 径2～5mm 粒状 3% やや砂質 疎
- b1 砂質埴壤土 (7.5YR6/3) 10YR5/2 径2～5mm 粒状 1% やや砂質 密 (硬化面)
- b2 砂質埴壤土 (5YR5/6) 10YR5/2 径2～5mm 粒状 1% やや砂質 やや疎 (炉壁か)

第24図 SN28号焼土遺構平面図・土層断面図

SN29号焼土遺構（第25図）

〈検出状況〉調査区西側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉東西1.30m、南北0.85m、深さ0.21m、不整形である。SI25号、SN37号と重複し、両遺構より新しい。覆土は、b1層が使用中に堆積したものであり、b1層下面は熱の影響により変色していた。c1層は焼土を多く含む。焼成前の除湿作業の痕跡か、もしくは焼成作業が2回行われ、1回目の焼成作業の痕跡を示す可能性も考えられる。調査では、そのどちらかかは特定できなかった。SN29号とこの北側にあるSN49号は関連する遺構の可能性はある。〈出土遺物〉なし。

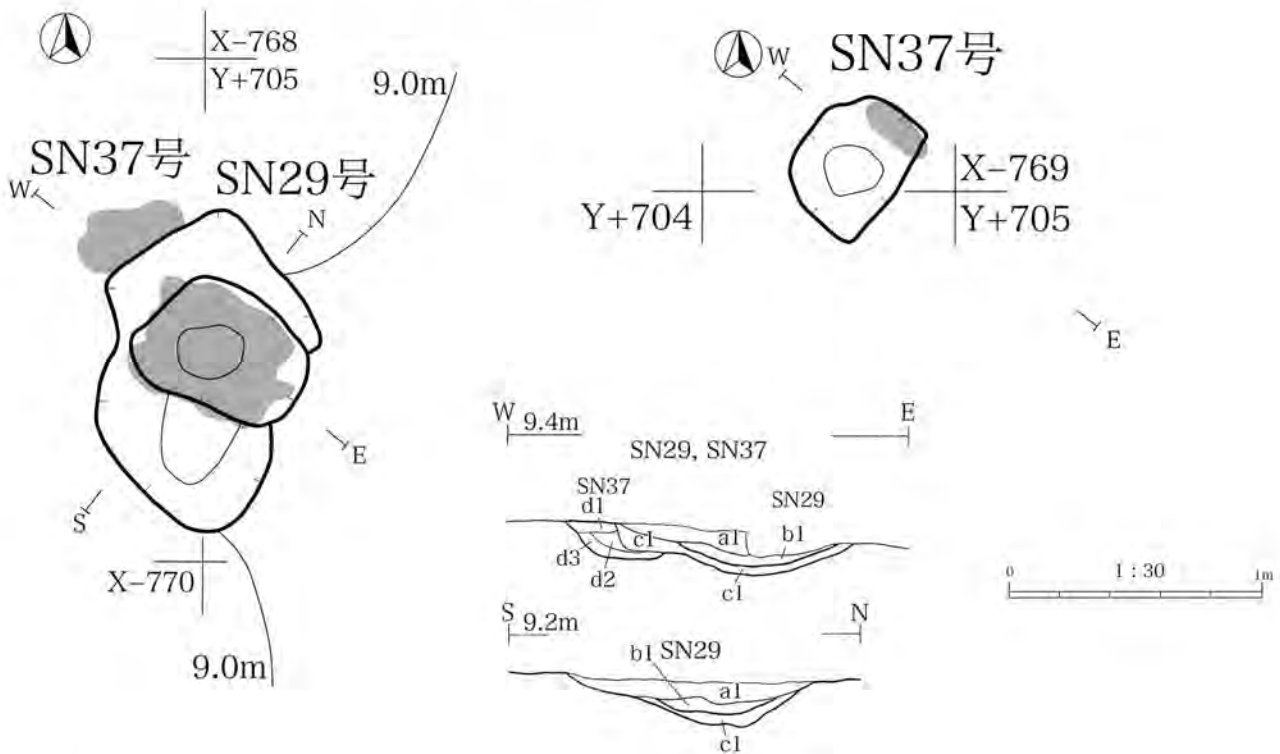
〈時代・時期〉SI25号廃絶後まもなく築かれている。16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

SN37号焼土遺構（第25図）

〈検出状況〉調査区西側、V層中で検出した。

〈規模・形態〉SI25号、SN29号と重複し、SI25号よりは新しく、SN29号よりは古い。覆土は3層に細別でき、いずれも焼土や炭を多く含む。遺構北東側が火の熱により変色している。SN37号とSN49号は関連する遺構の可能性はある。

〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉重複する両遺構が16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられることから、これらと同時期の遺構と考えられる。



SN29・37

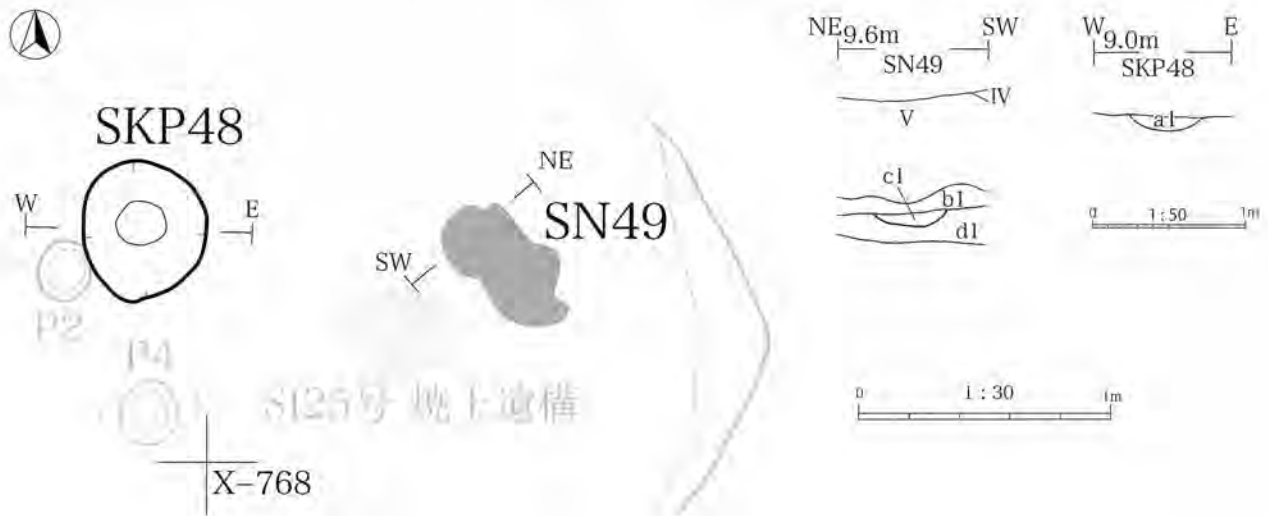
a1	砂質埴壤土	(10YR4/2)	7.5YR5/3 径2～5mm 粒状3% やや砂質 疎 (SN29 覆土)
b1	砂質埴壤土	(10YR5/2)	7.5YR5/3 径5～10mm 粒状5% 炭 径5～30mm 10% 砂質 疎 (SN29 覆土)
c1	砂質埴壤土	(5YR5/2)	7.5YR5/3 径2～5mm 粒状10% 炭 径5～30mm 5% やや砂質 疎 (SN29 覆土)
d1	砂質埴壤土	(7.5YR5/2)	10YR4/2 径2～5mm 粒状3% 炭 径2～10mm 1% やや砂質 疎 (SN37 覆土)
d2	砂質埴壤土	(7.5YR5/3)	7.5YR6/1 径2～10mm 粒状5% 炭 径2～10mm 1% やや砂質 疎 (SN37 覆土)
d3	砂質埴壤土	(7.5YR4/4)	7.5YR4/1 径2～5mm 粒状3% 炭 径2mm 1% やや砂質 疎 (SN37 覆土)

第25図 SN29、37号焼土遺構平面図・土層断面図

SN49号焼土遺構（第26図）

〈検出状況〉調査区南西、SI25号の覆土d1層上位面で検出した。

〈規模・形態〉SI25号と重複し、SI25号よりは新しい。SN27号は、掘り込みはなく、火の熱により変色した跡と考えられる。SN29号、もしくはSN37号と関連する遺構の可能性はある。〈出土遺物〉なし。〈時代・時期〉SI25号より新しい。16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。

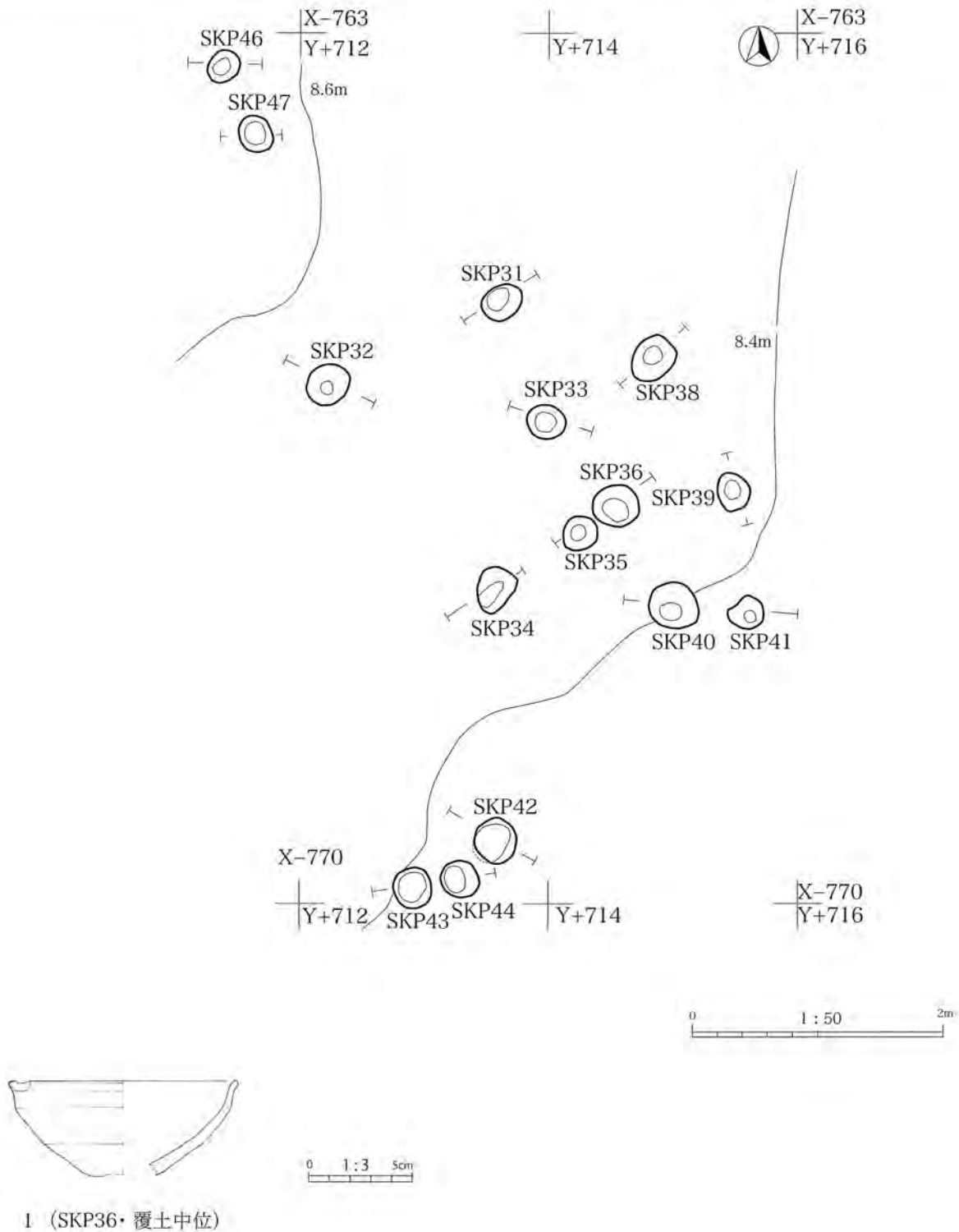


SN49	c1	砂質埴壤土	(5YR5/4)	炭径2～5mm 1% やや砂質 やや疎 (SN49号被熱による変色面)
SKP48	a1	砂質埴壤土	(10YR4/1)	10YR5/2 径2～10mm 粒状 3% 砂質 疎

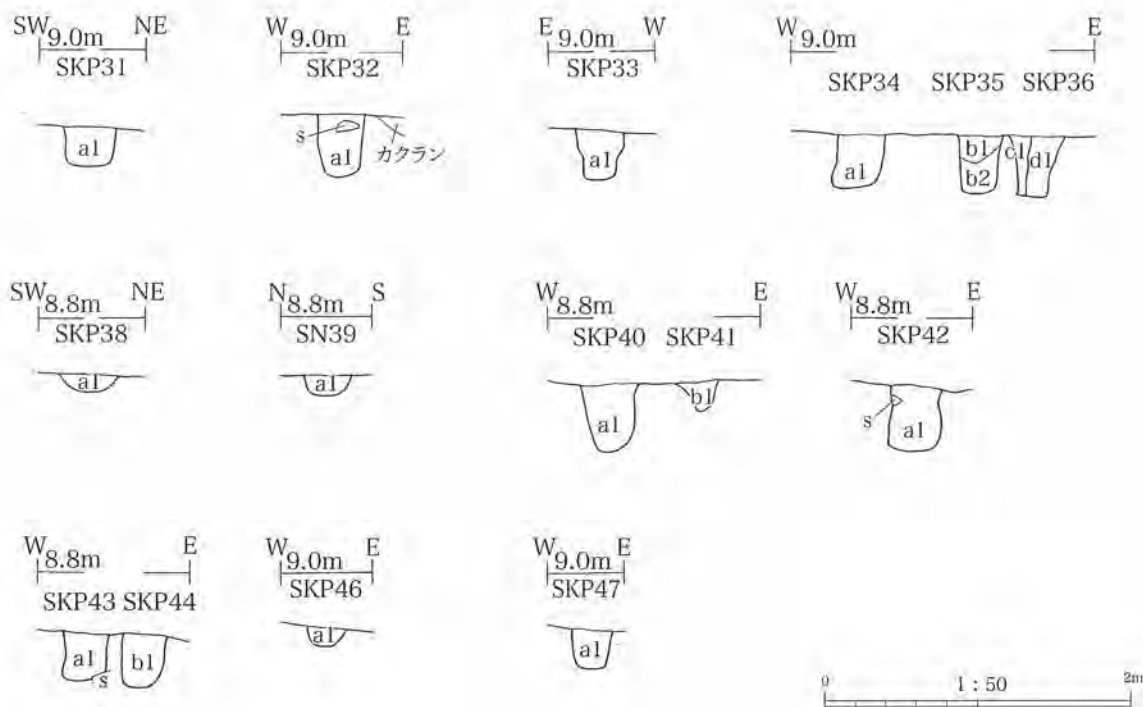
第26図 SN49号焼土遺構平面図・土層断面図

柱穴状遺構（SKP31～36、38～44、46～47）〈第27、28図〉

〈検出状況〉調査区中央、V層下位～VI層上面で検出した。〈規模・形態〉略円形～楕円形をしている。配置や形態に規格性はない。SKP36号は柱痕跡がある。〈出土遺物〉SKP36号の覆土中から天目茶碗片が1点出土した。瀬戸・美濃産で大窯第2段階以降のものと考えられる。〈時代・時期〉検出面とSKP36の出土遺物から16世紀～17世紀初頭頃のものと考えられる。



第27図 柱穴状遺構（SKP31～36、38～44、46～47）平面図、SKP36出土遺物



SKP31	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR5/2 径2~10mm 粒状 3% 砂質 疎
SKP32	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR5/2 径2~10mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP33	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR5/2 径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎
SKP34・35・36			
	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR5/1 径5~30mm 粒状 5% 砂質 疎 (SKP34 覆土)
	b1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR5/1 径2~10mm 粒状 10% 砂質 疎 (SKP35 覆土)
	b2	砂質埴壤土 (10YR5/1)	10YR6/1 径2mm 粒状 1% 砂質 疎 (SKP35 覆土)
	c1	砂質埴壤土 (10YR6/1)	10YR5/1 径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎 (SKP36 根固め土)
	d1	砂質埴壤土 (10YR5/1)	10YR6/1 径2mm 粒状 1% 砂質 疎 (P36 柱痕跡)
SKP38	a1	砂質埴壤土 (10YR5/1)	10YR4/1 径2mm 粒状 1% 炭 径5~10mm 5% 砂質 疎
SKP39	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR6/1 径2~5mm 粒状 3% 砂質 疎
SKP40・41			
	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR6/1 径5~10mm 粒状 5% 砂質 疎 (SKP40 覆土)
	b1	砂質埴壤土 (10YR5/2)	10YR4/1 径5~10mm 粒状 5% 砂質 疎 (SKP41 覆土)
SKP42	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR5/1 径5~30mm 粒状 10% 砂質 疎
SKP43・44			
	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR6/1 径2~10mm 粒状 5% 砂質 疎 (SKP43 覆土)
	b1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR6/1 径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎 (SKP44 覆土)
SKP46	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR5/2 径5~10mm 粒状 5% 砂質 疎
SKP47	a1	砂質埴壤土 (10YR4/1)	10YR5/2 径2~10mm 粒状 3% 砂質 疎

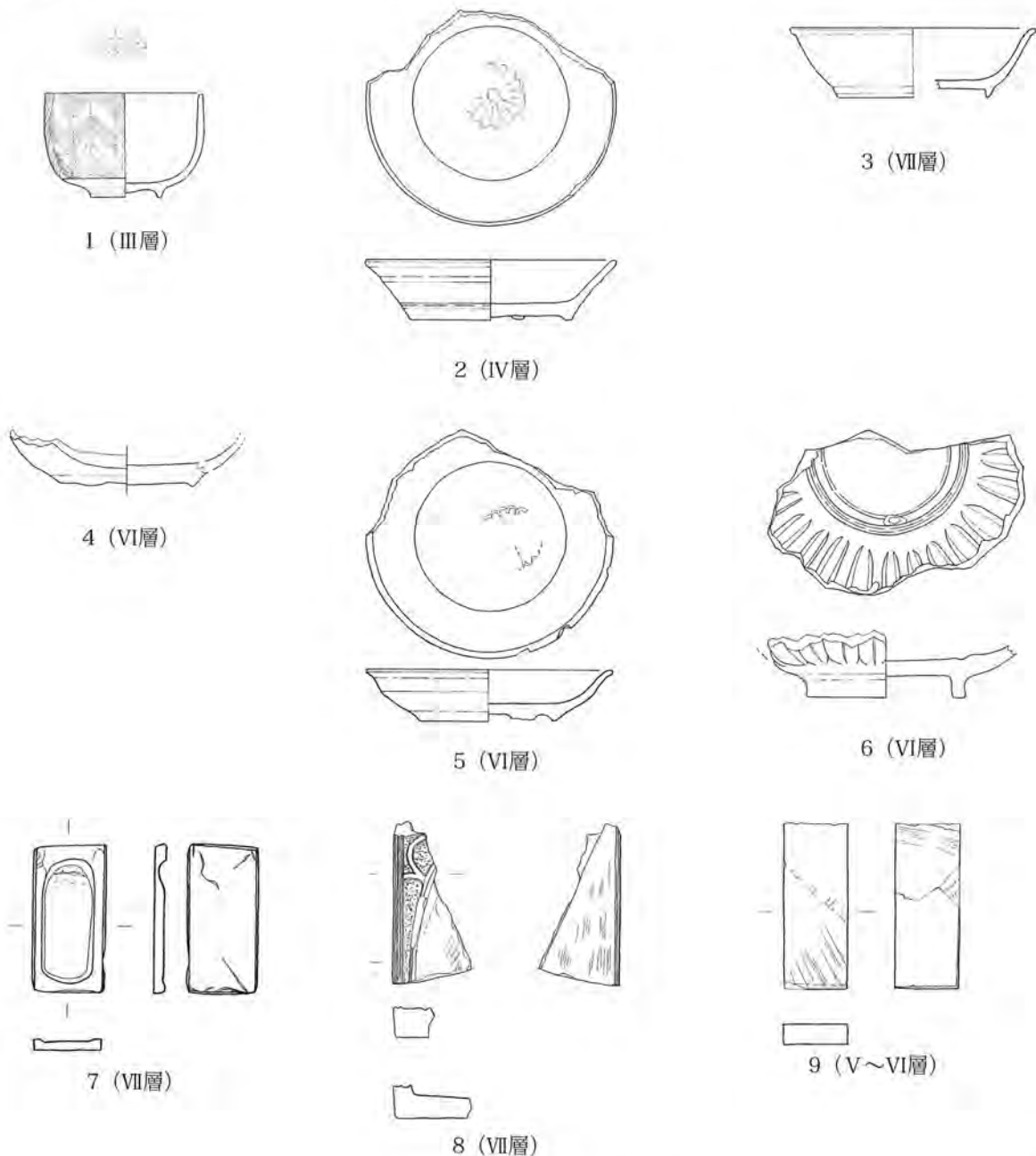
第28図 柱穴状遺構 (SKP31 ~ 36、38 ~ 44、46 ~ 47) 土層断面図

遺構外出土遺物 (第 29 ~ 42 図)

1 は碗で、17 世紀末頃の肥前陶磁である。2 ~ 6 は皿類で 16 世紀中頃 ~ 末頃の瀬戸・美濃産である。7、8 は硯であり、特に 8 は、周縁に緻密な装飾が施されている。9 は、小形の砥石である。10、11、13 は石製品である。10 は、石皿のように周縁が高く削り出されている。11 は両面に穴があり、中央には孔がある。12 は茶臼である。

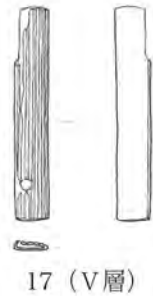
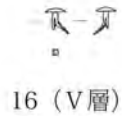
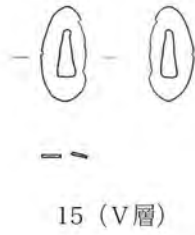
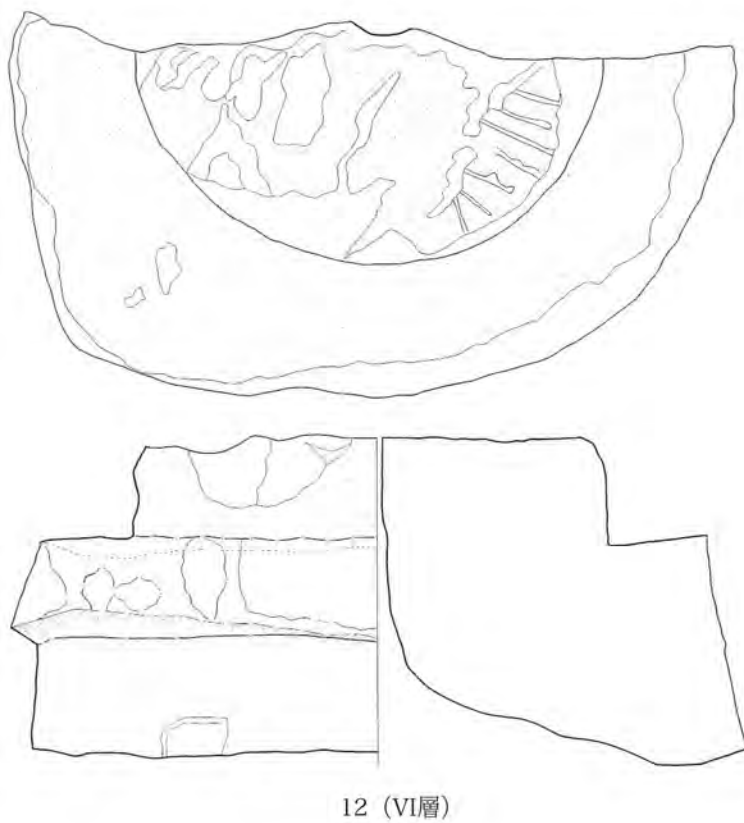
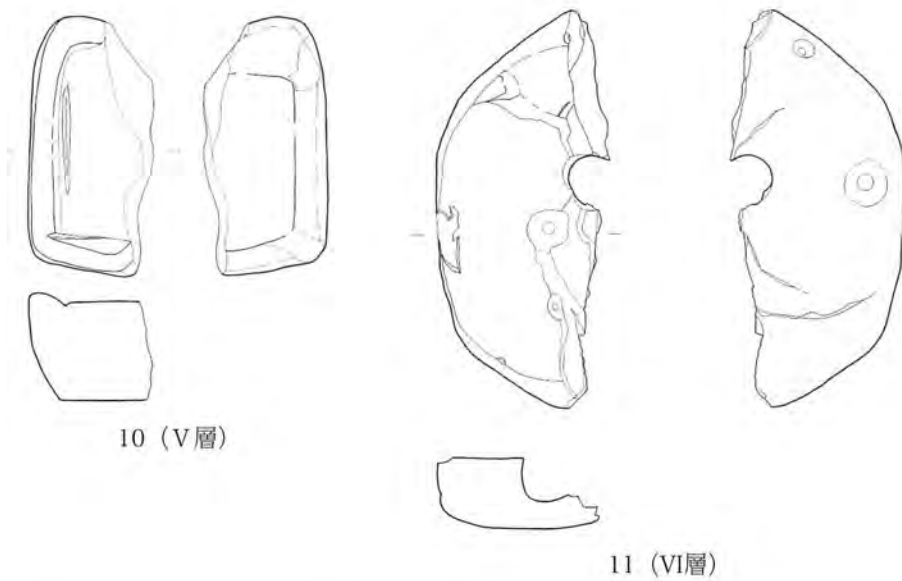
13 ~ 26 は銅製品である。13 は煙管の吸口、14 は環状になっている。15 は鐔形をしている。16 は鋌である。17 は、表面が筋状に加工されている。18 は両端に孔がある。19 は鐔形である。20 は折り曲がったような形状をしている。21 は管状となっており、22 は中央に孔が 2 箇所があり、作りは薄く脆い。23 は植物のような文様な施されている。24 は鐔形をしている。25 は L 字形をしており、作りは薄く脆い。26 は中央が窪んでおり、周縁の一部が折り曲がっている。

遺構外出土遺物



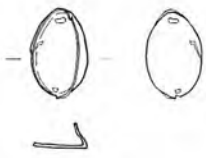
第 29 図 遺構外出土遺物 (1)

0 1:3 5cm

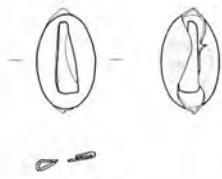


0 1:3 5cm

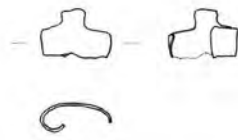
第30図 遺構外出土遺物(2)



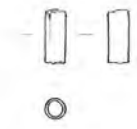
18 (V層)



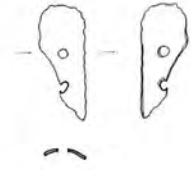
19 (V層)



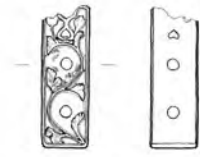
20 (V層)



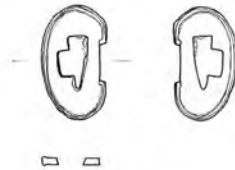
21 (V層)



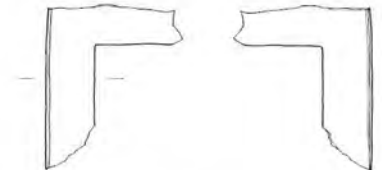
22 (V層)



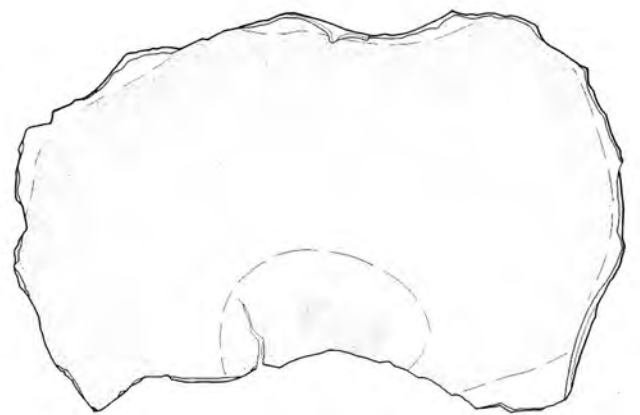
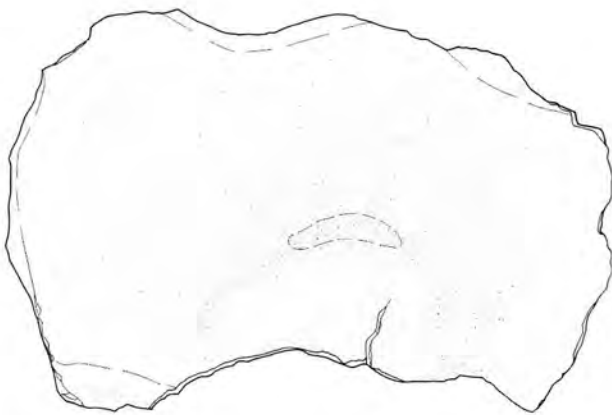
23 (VII層)



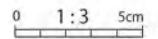
24 (VII層)



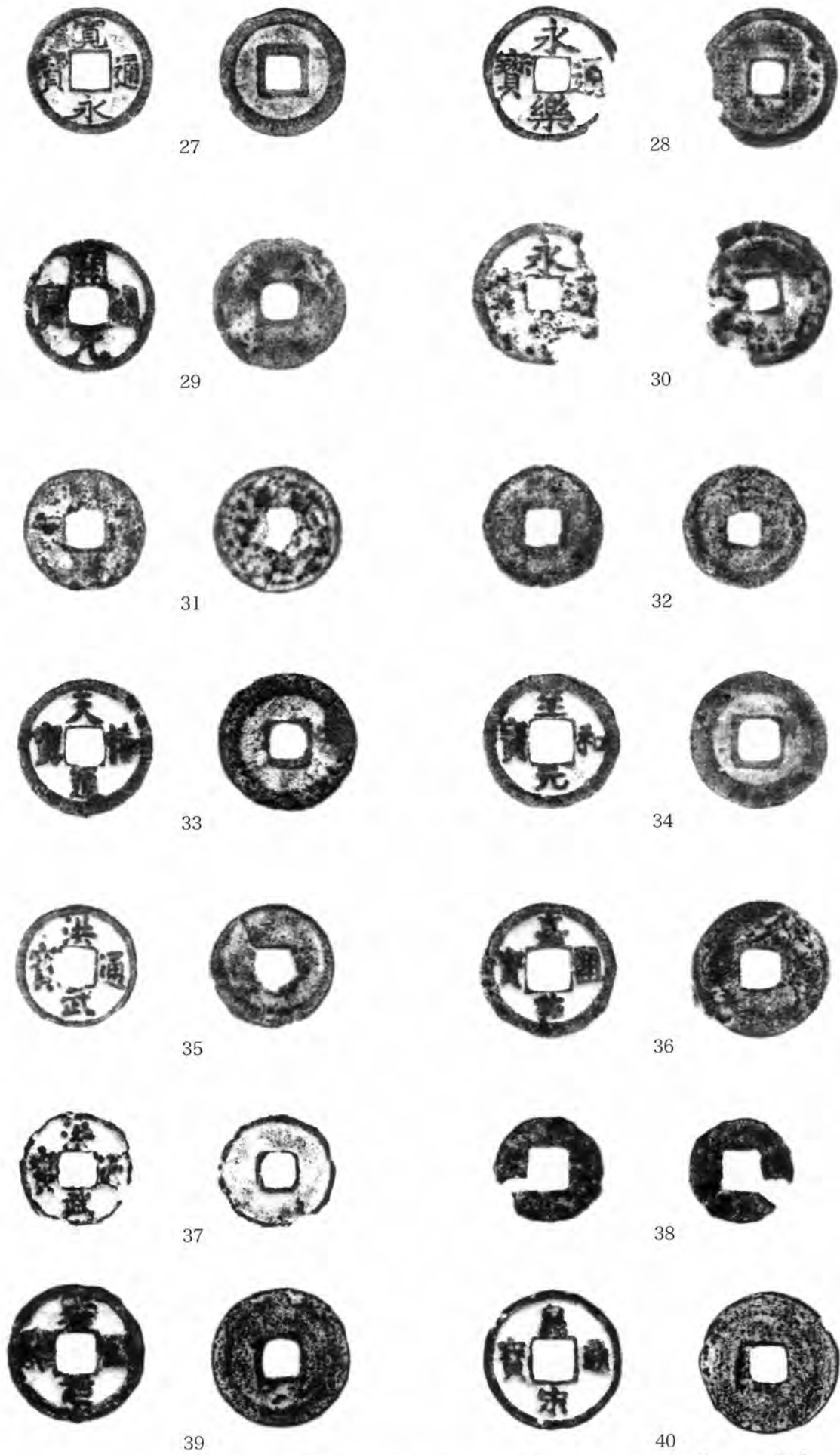
25 (VII層)



26 (V層)



第 31 図 遺構外出土遺物 (3)



27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

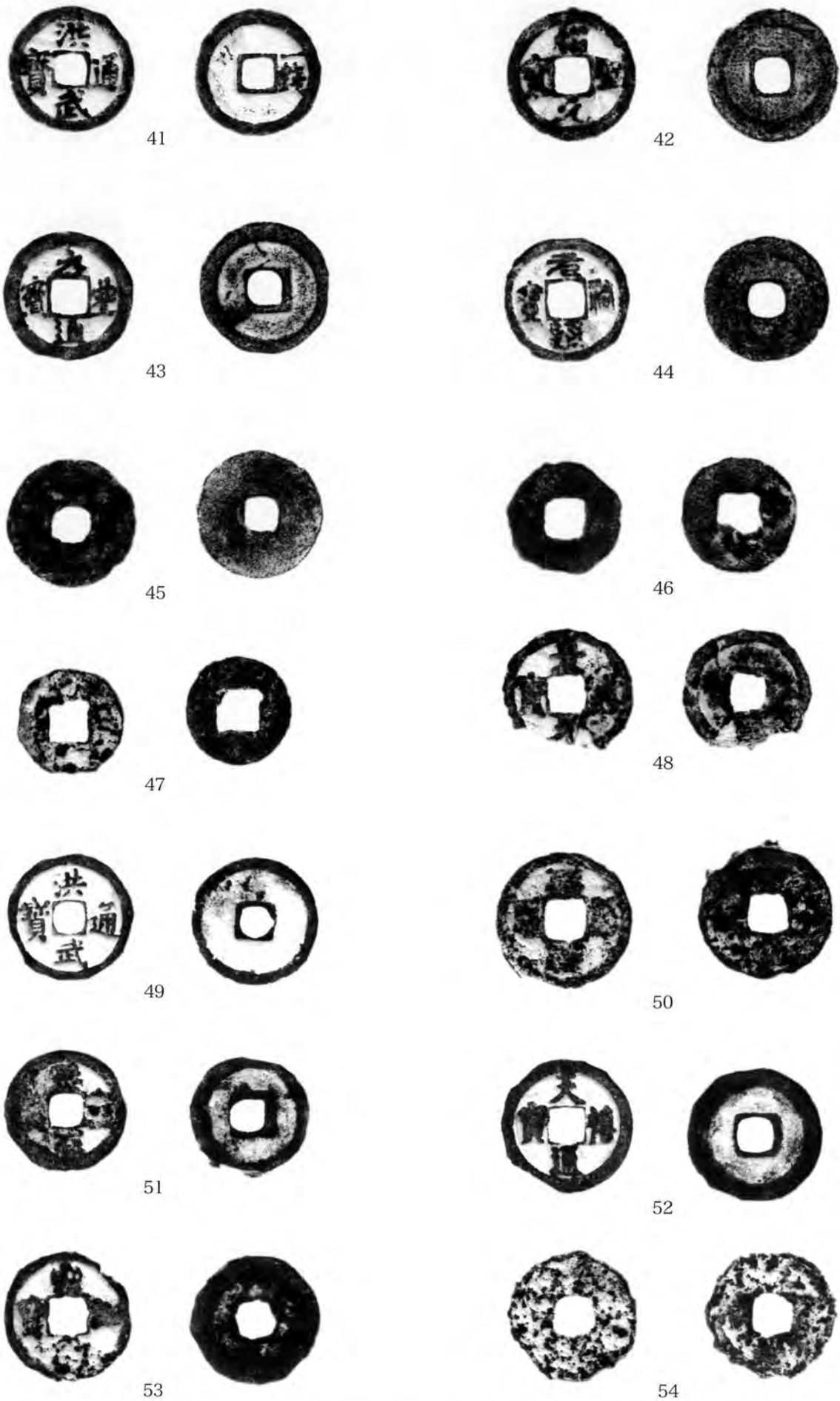
38

39

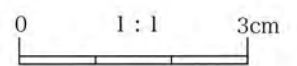
40

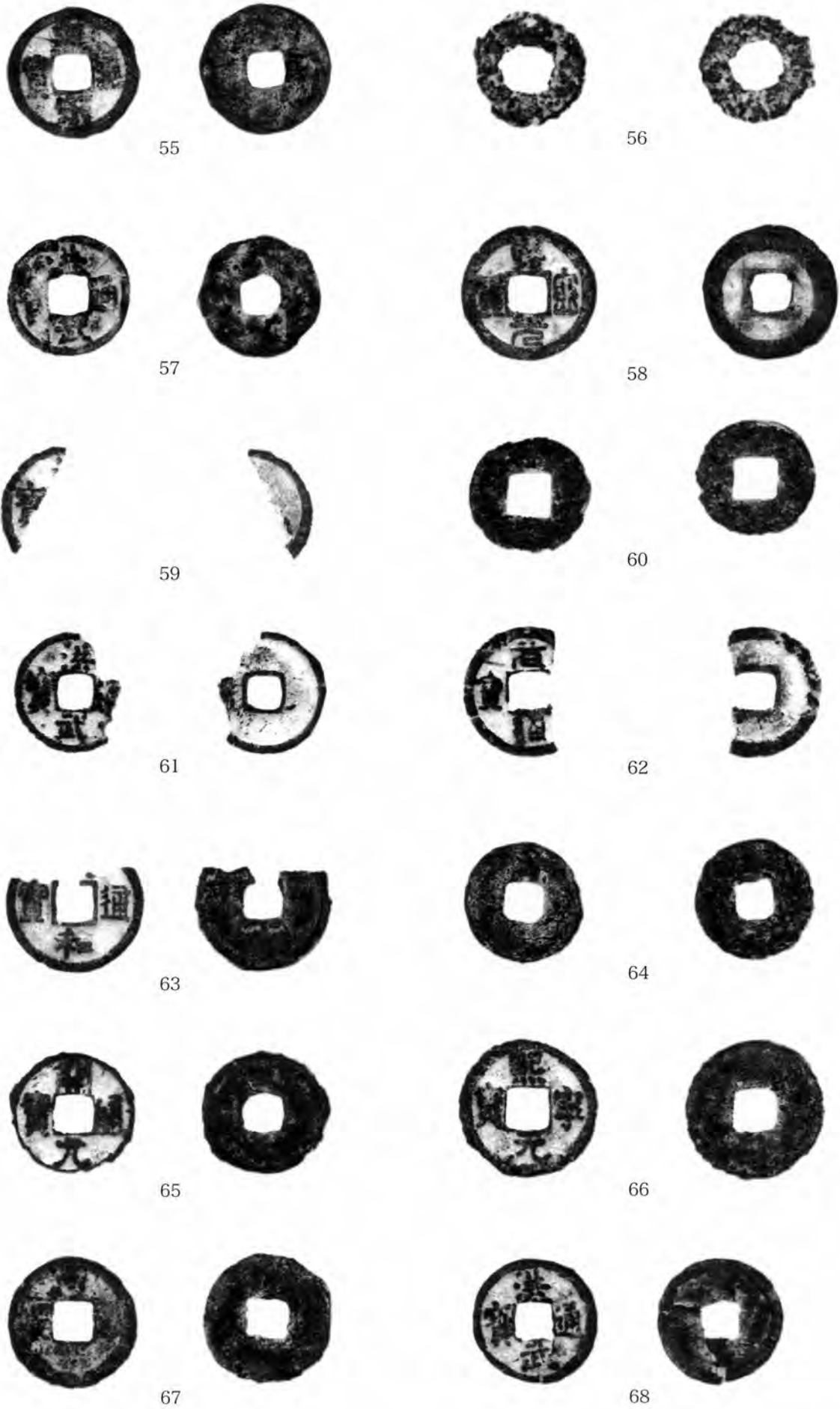
第 32 図 遺構外出土遺物 (4)

0 1:1 3cm

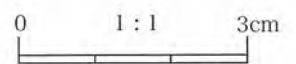


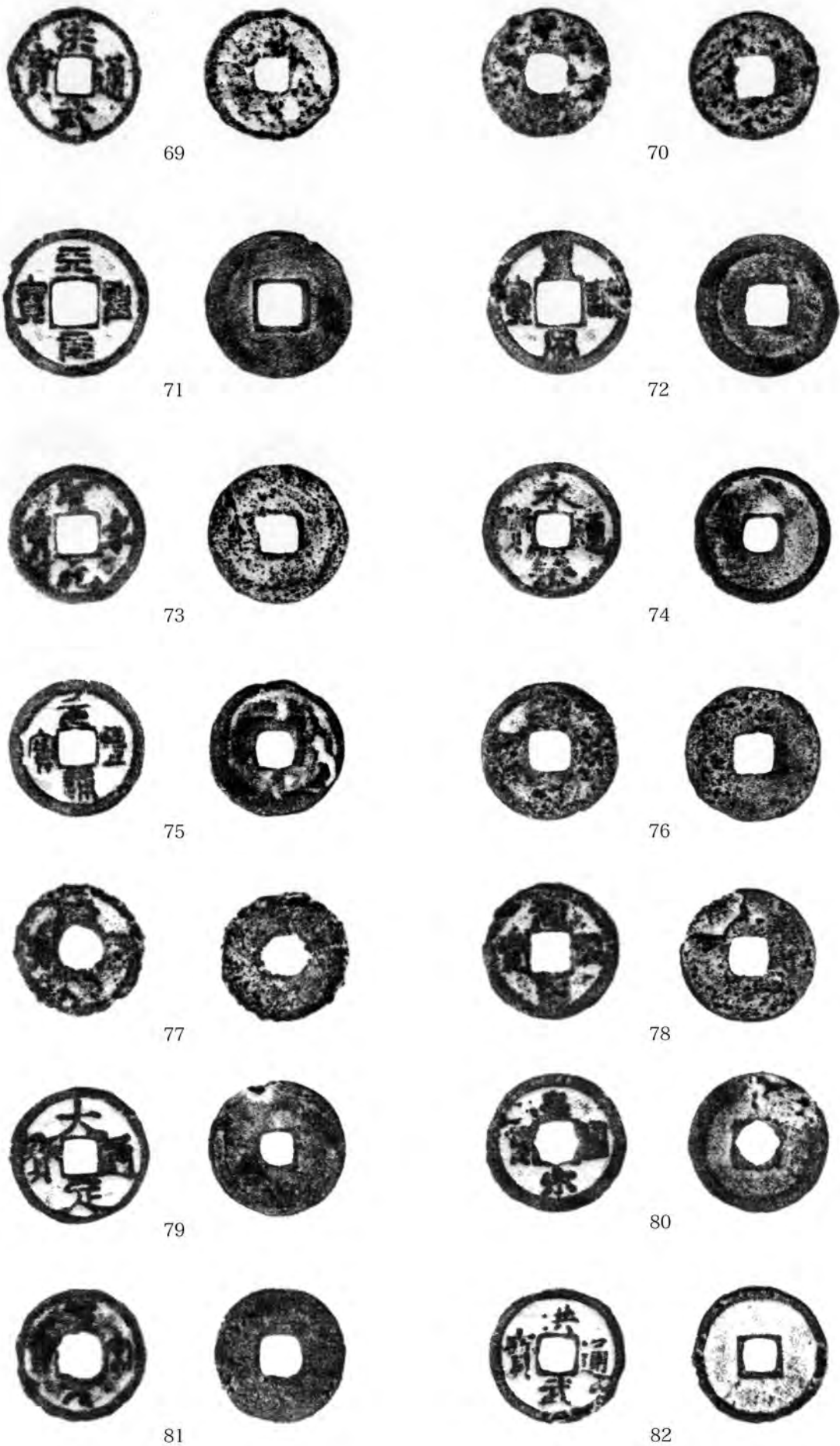
第 33 図 遺構外出土遺物 (5)





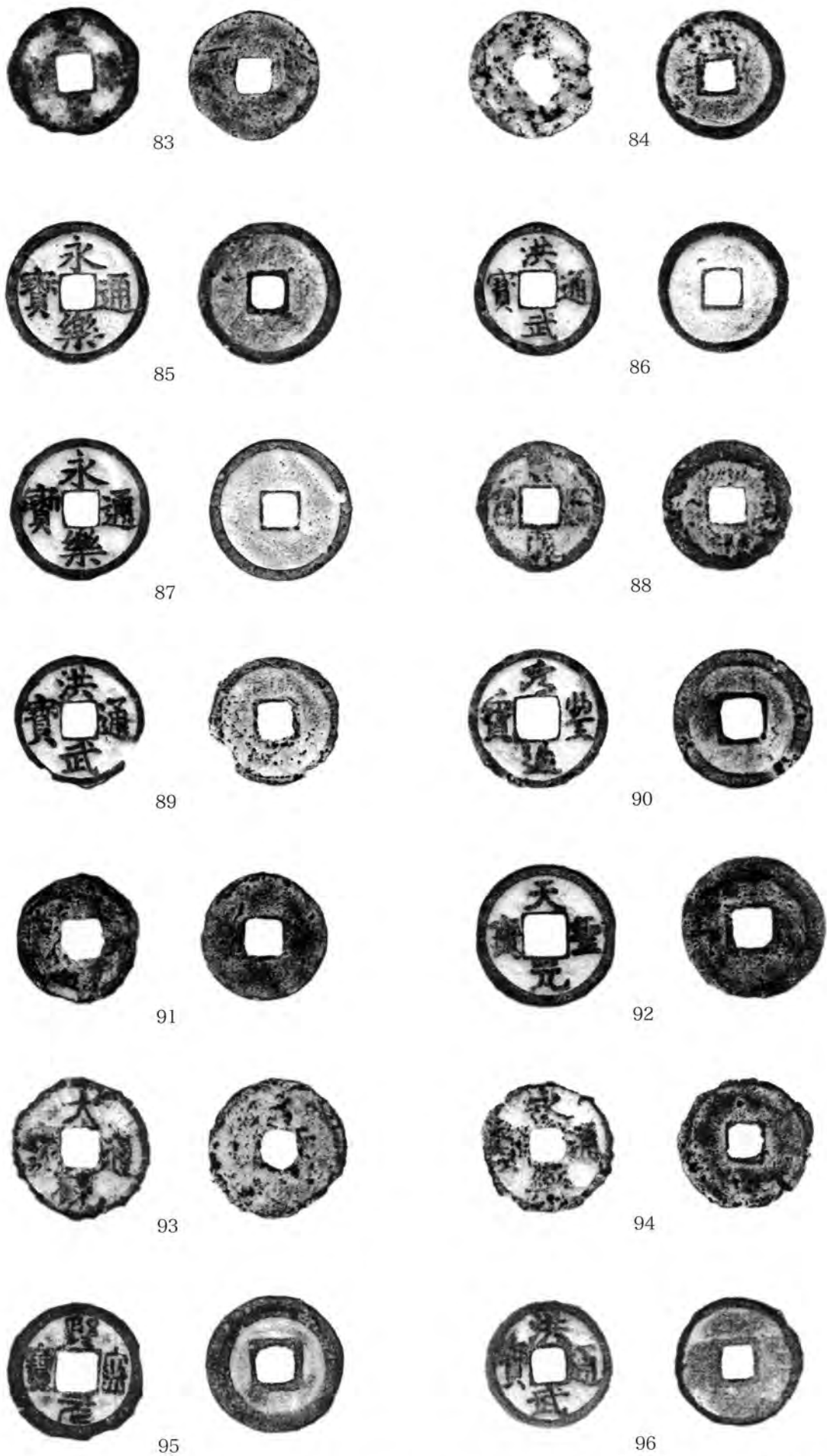
第 34 図 遺構外出土遺物 (6)



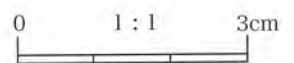


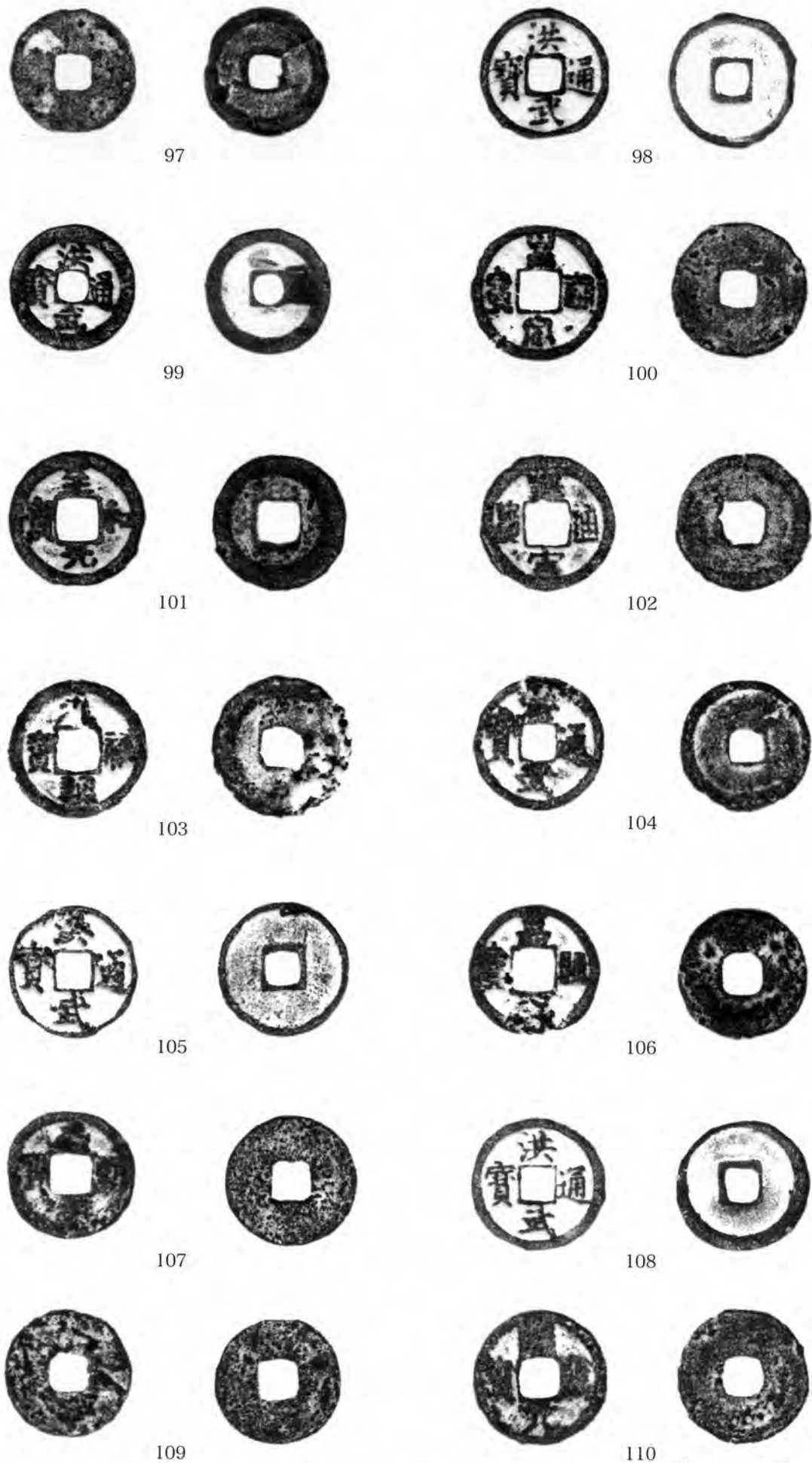
第 35 図 遺構外出土遺物 (7)

0 1:1 3cm



第 36 図 遺構外出土遺物 (8)





97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

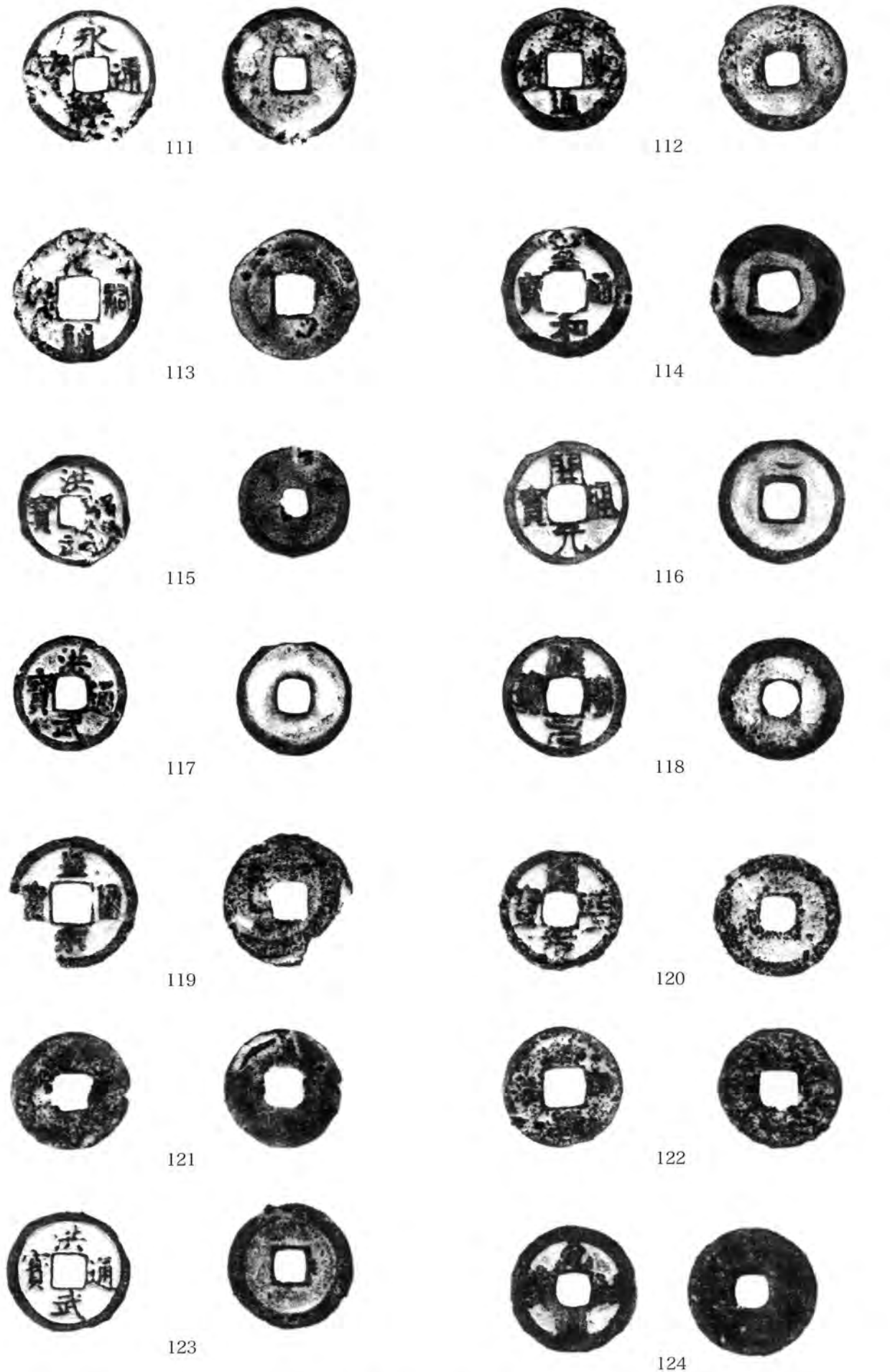
108

109

110

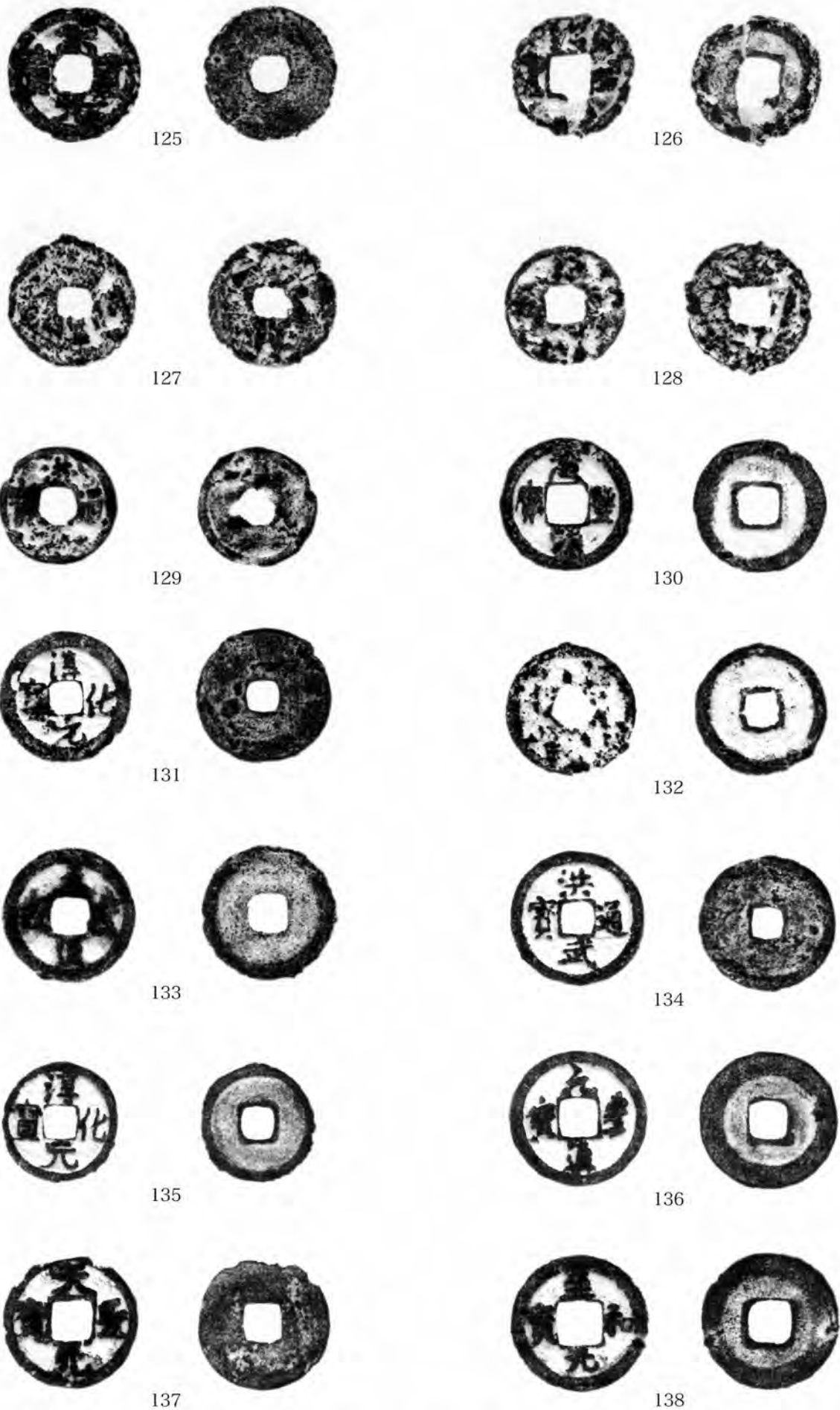
第 37 图 遺構外出土遺物 (9)

0 1 : 1 3cm



第 38 図 遺構外出土遺物 (10)

0 1:1 3cm



125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

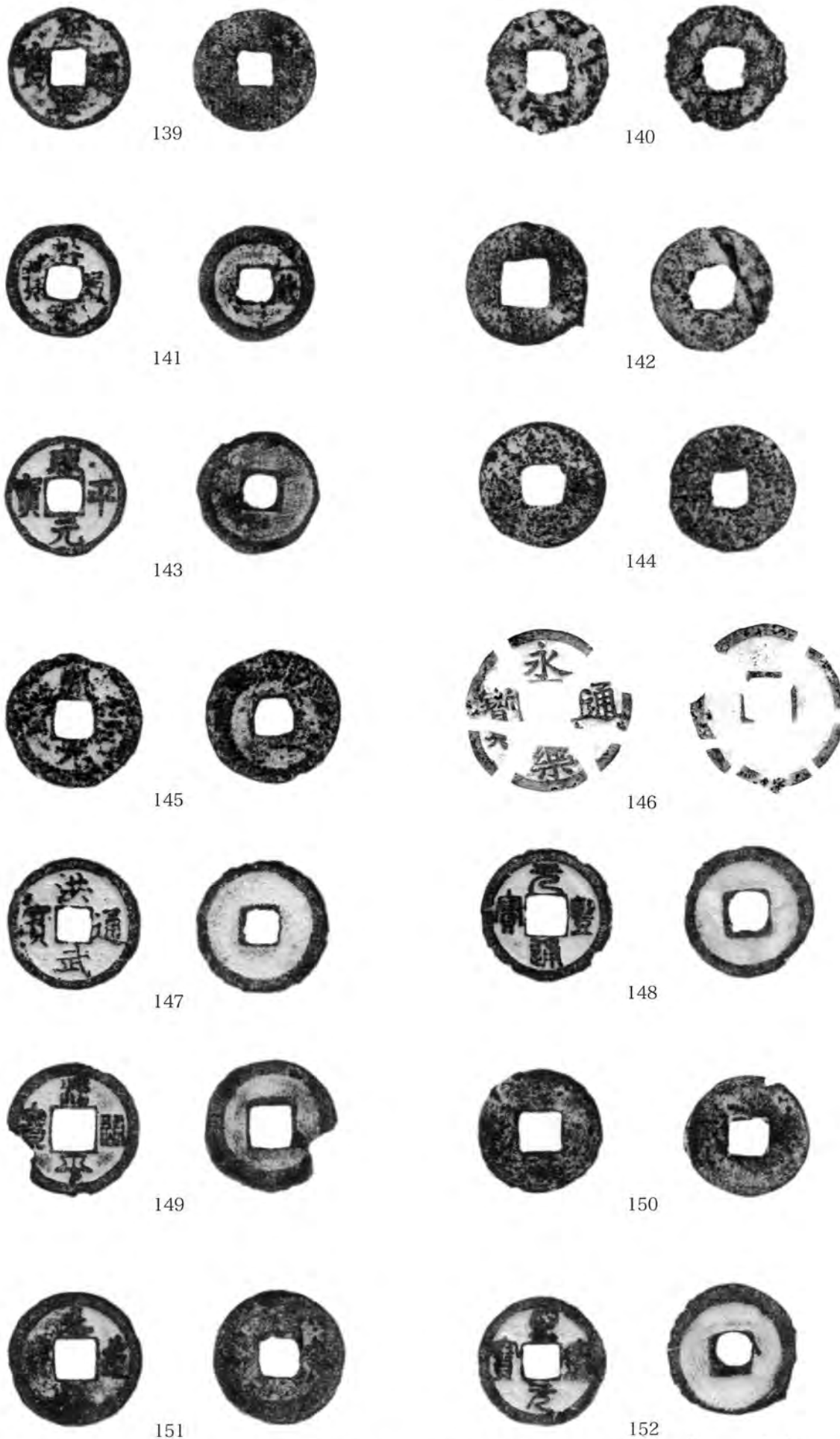
136

137

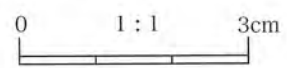
138

第 39 図 遺構外出土遺物 (11)

0 1:1 3cm



第 40 図 遺構外出土遺物 (12)





153



154



155



156



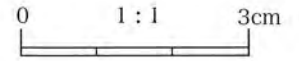
157

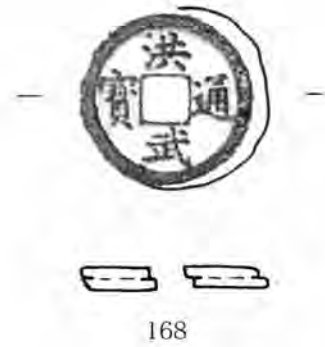
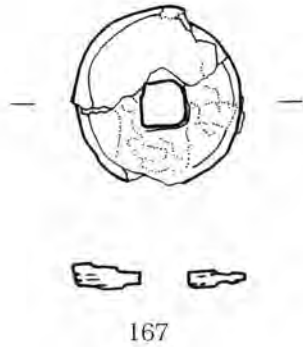
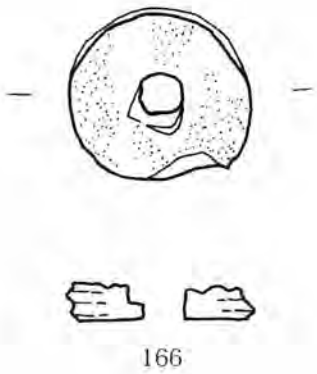
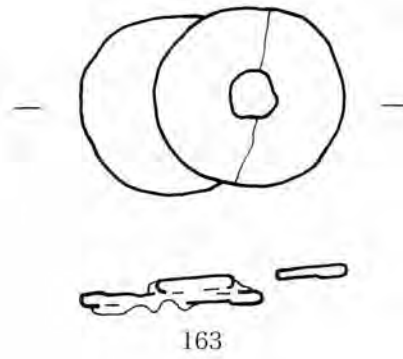
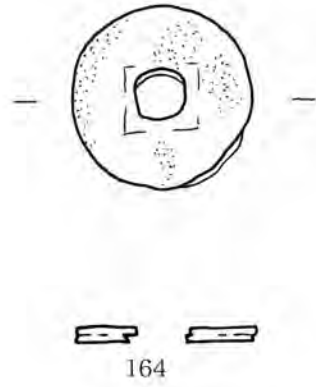
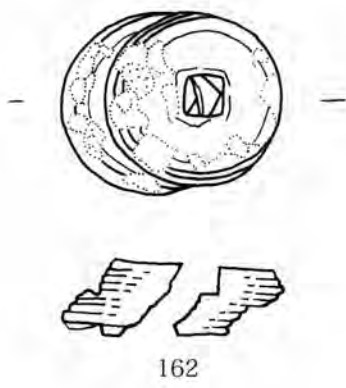
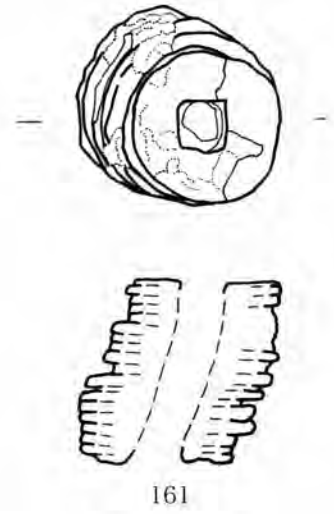
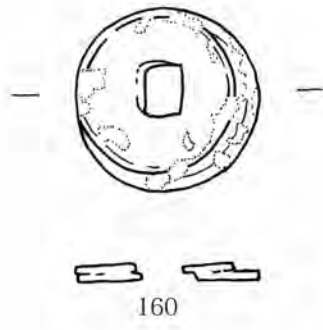
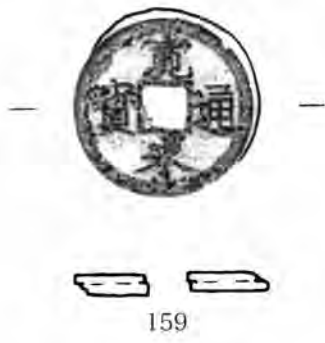


158

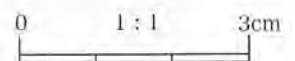


第 41 図 遺構外出土遺物 (13)





第 42 图 遺構外出土遺物 (14)



銭貨観察表

No.	出土遺構・地点	層位	種類	時代	外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	その他	重さ (g)	備考	遺物番号
27	千徳城遺跡群 Aトレンチ	II層盛土	寛永通寶	新寛永	22.5	6.3~6.5	1.0	1.5~2.0		2.6		126
28	千徳城遺跡群 Aトレンチ	遺構検出上面	銭貨	明 1408年	24.5	5.5~6.0	0.9~1.0	1.7~1.9		2.0		127
29	千徳城遺跡群 Cトレンチ	VII層表土下	銭貨	南唐 960年	23.3~23.5	6.5~7.0	1.0	1.0~1.5		2.2		128
30	S K 17 南側	覆土上位	銭貨	永〇〇〇(不明)	24.5	5.1~5.3	1.3~1.5	1.7~2.0		2.7	永業通寶か?	129
31	遺構外 A区北側	III層下位	銭貨	〇〇〇〇(不明)	21.0~21.5	6.0~6.5	0.9~1.0	-		3.2		130
32	遺構外 A区東側	III層下位~IV層上位	銭貨	無文銭	21.3~21.5	5.8~6.0	1.0~1.2	-		2.6		131
33	遺構外 A区東側	IV層中	銭貨	天〇〇〇(不明)	24.0~24.2	6.5~6.8	1.0	2.0~2.5		3.0	X-756,Y+710 付近	132
34	遺構外 A区東側	IV層中	銭貨	至和元寶	24.0	7.5	1.0	2.5~2.9		3.3	X-756,Y+710 付近	133
35	遺構外 A区東側	IV層中	銭貨	洪武通寶	21.7~22.0	6.5~7.0	0.8~1.0	1.3~1.5		2.7	X-756,Y+710 付近	134
36	遺構外 A区東側	IV層中	銭貨	〇〇〇〇(不明)	23.8~24.0	7.0	1.0~1.5	1.8~2.1		3.0	X-756,Y+710 付近	135
37	遺構外 A区東側	IV層中	銭貨	洪武通寶	20.0~20.5	5.8~6.1	1.0	1.3~1.5		2.0	X-756,Y+710 付近	136
38	遺構外 A区東側	IV層中	銭貨	無文銭	18.0	7.0~7.2	0.5	-		0.6	X-756,Y+710 付近	137
39	遺構外 A区東側	IV層中	銭貨	〇〇元〇(不明)	24.0~24.3	7.0	1.0~1.2	1.8~2.1		3.5	X-761,Y+696 付近	138
40	遺構外 A区西側	IV層中	銭貨	皇宋通寶	24.5~24.7	6.5~7.0	1.0	1.2~1.5		2.6	X-761,Y+696 付近	139
41	遺構外 A区西側	IV層中	銭貨	洪武通寶	22.7~23.0	5.5	1.0~1.2	2.0~2.5	背一銭	2.8	X-761,Y+696 付近	140
42	遺構外 A区	V層下位	銭貨	紹聖元寶(不明)	23.8~24.0	6.3~6.5	1.3~1.5	2.5~2.8		2.9	X-751,Y+704 付近	141
43	遺構外 A区	V層下位	銭貨	元祐通寶	23.5~24.0	6.5~6.7	1.0~1.1	2.8~3.0		3.6	X-754,Y+705 付近	142
44	遺構外 A区	V層下位	銭貨	元祐通寶	22.5~23.0	6.4~6.6	1.0	1.5~2.0		2.3	X-757,Y+712 付近	143
45	遺構外 A区	V層下位	銭貨	〇〇〇〇(不明)	23.0	6.3~6.9	0.7~0.8	-		1.9	X-757,Y+712 付近	144
46	遺構外 A区	V層下位	銭貨	無文銭	19.7~20.0	7.3~7.5	0.8~1.0	-		1.8	X-758,Y+709 付近	145
47	遺構外 A区	V層下位	銭貨	無文銭	19.0~19.3	7.0~7.5	0.5	-		0.9	X-758,Y+709 付近	146
48	遺構外 A区	V層下位	銭貨	〇〇〇〇(不明)	23.0~23.3	6.0~6.5	0.8~1.0	1.8~2.0		2.5(3点)	X-758,Y+711 付近	147
49	遺構外 A区	V層下位	銭貨	洪武通寶	23.0	5.5~5.8	1.0~1.4	1.7~2.0		3.5	X-758,Y+712 付近	148
50	遺構外 A区	V層下位	銭貨	〇〇〇〇(不明)	23.0~24.0	6.5~6.8	1.0~1.1	2.0~2.5		2.4	X-758,Y+712 付近	149
51	遺構外 A区	V層下位	銭貨	〇〇〇〇(不明)	21.6~22.0	5.5~6.0	1.0~1.4	2.0~3.0		2.9	X-758,Y+712 付近	150
52	遺構外 A区	V層下位	銭貨	不明	22.7~23.0	7.0	0.7~1.0	-		1.8	X-758,Y+712 付近	151
53	遺構外 A区	V層下位	銭貨	天禧通寶	24.0~24.2	6.0~6.8	0.8~1.0	2.0~2.5		3.0	X-758,Y+713 付近	152
54	遺構外 A区	V層下位	銭貨	〇〇〇〇(不明)	22.8~23.0	6.5~7.0	0.8~1.2	1.5~2.0		3.1	X-758,Y+714 付近	153
55	遺構外 A区	V層下位	銭貨	皇宋通寶	23.2~23.3	6.3~6.8	0.8~0.9	1.5~2.0		2.2	X-759,Y+711 付近	154
56	遺構外 A区	V層下位	銭貨	不明	18.4~20.0	8.0	0.8	-		0.9(3点)	X-759,Y+712 付近	155
57	遺構外 A区	V層下位	銭貨	洪武通寶	21.5	7.0	0.7	1.0		1.6(2点)	X-760,Y+708 付近	156
58	遺構外 A区	V層下位	銭貨	熙寧元寶	24.1~24.2	6.7~7.0	1.3~1.4	2.3~2.7		2.7	X-760,Y+713 付近	157
59	遺構外 A区南側	V層中	銭貨	〇〇〇〇(不明)	-	-	1.1	1.3~1.5		0.6	X-763,Y+706 付近	158
60	遺構外 A区南側	V層中	銭貨	無文銭	19.5~21.3	7.2~7.7	0.8	-		1.3	X-763,Y+706 付近	159
61	遺構外 A区南側	V層中	銭貨	洪武通寶	21.3	6.0~6.2	1.0~1.1	0.8~1.0		2.7(7点)	X-763,Y+706 付近	160
62	遺構外 A区南側	V層中	銭貨	元〇通寶(不明)	22.7	6.0	1.1~1.8	1.5~2.5		1.4	X-763,Y+706 付近	161
63	遺構外 A区南側	V層中	銭貨	〇和通寶(不明)	24.3	6.0	1.2	1.0~2.0		1.3	X-763,Y+706 付近	162
64	遺構外 A区南側	V層中	銭貨	無文銭	21.5	6.2	1.0	-		2.2	X-763,Y+706 付近	163
65	遺構外 A区南側	V層中	銭貨	開元通寶	21.5~22.0	6.8~7.0	0.8~1.0	-		1.3	X-763,Y+706 付近	164
66	遺構外 A区	V層下位	銭貨	熙寧元寶	24.2~24.8	7.2~7.8	1.0	2.0~2.3		2.9	X-762,Y+708 付近	165
67	遺構外 A区	V層下位	銭貨	〇〇〇〇(不明)	22.8~23.0	6.5~7.2	0.9~1.0	-		2.4	X-762,Y+708 付近	166
68	遺構外 A区	V層下位	銭貨	洪武通寶	破損(3点)	-	0.9~1.0	1.3~1.5		2.2(3点)	X-762,Y+708 付近	167
69	遺構外 A区	V層下位	銭貨	洪武通寶	23.2	6.0	1.0	1.0~1.2		2.6	X-762,Y+708 付近	168
70	遺構外 A区	V層下位	銭貨	〇〇〇〇(不明)	22.0~22.2	7.2~7.5	1.0	-		1.9	X-765,Y+705 付近	169
71	遺構外 A区	V層下位	銭貨	元符通寶(不明)	25.2~25.6	7.5	0.9~1.0	1.5~2.0		2.5	X-765,Y+705 付近	170
72	遺構外 A区	V層中	銭貨	皇宋通寶	24.9~25.0	7.0~7.3	1.0	2.0~3.0		3.0	X-754,Y+703 付近	171
73	遺構外 A区	VII層中	銭貨	〇〇元寶(不明)	24.0	6.8	1.0~1.1	2.0~2.1		2.2	X-754,Y+710 付近	172
74	遺構外 A区	VII層中	銭貨	永業通寶	24.0	6.0	0.9~1.0	1.5~1.8		2.2	X-755,Y+711 付近	173

No.	出土遺構・地点	層位	種類	時代	外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	その他	重さ (g)	備考	遺物番号
75	遺構外 A区	VII層中	銭貨 元豊通寶	中世末~近世初頭	23.8	6.9	1.0	1.9~2.9		2.0	X-755,Y+711 付近	174
76	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇 (不明)	不明 摩滅	24.0	6.9~7.0	1.0	-		2.8	X-756,Y+709 付近	175
77	遺構外 A区	VII層中	銭貨 不明	不明 摩滅	22.6~23.1	7.0~7.5	1.0	-		2.2	X-756,Y+710 付近	176
78	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇 (不明)	不明 摩滅	22.8~23.0	6.8~7.0	1.2	2.0~2.5		2.4	X-756,Y+710 付近	177
79	遺構外 A区	VII層中	銭貨 大定通寶	ベトナム 1369年	24.0	6.0	1.0~1.2	1.5~1.8		3.0	X-756,Y+711 付近	178
80	遺構外 A区	VII層中	銭貨 皇宋通寶	北宋 1038年	24.1	6.5~7.0	1.2	2.2~2.8		2.4	X-756,Y+711 付近	179
81	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇元寶 (不明)	不明 摩滅	23.2~23.5	6.8	1.1~1.2	1.3~2.0		2.2	X-756,Y+711 付近	180
82	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	概鑄銭 中世末~近世初頭	23.5	5.9~6.1	1.7	1.8~2.0		3.3	X-756,Y+711 付近	181
83	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇 (不明)	不明 摩滅	22.8~23.0	6.0	1.0~1.2	-		2.0	X-756,Y+711 付近	182
84	遺構外 A区	VII層中	銭貨 永樂通寶	明 1408年	24.8~25.0	6.0	1.2~1.3	2.2~2.6		3.7	X-756,Y+711 付近	183
85	遺構外 A区	VII層中	銭貨 永樂通寶	明 1408年	24.6~24.7	6.0	1.2~1.5	1.8~2.0		3.3	X-756,Y+711 付近	184
86	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	明 1368年	22.2~22.5	6.0	1.1~1.3	1.5~2.0		1.8	X-756,Y+711 付近	185
87	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇 (不明)	不明 摩滅	22.4~22.6	6.8	1.2~1.3	-		2.0	X-756,Y+711 付近	186
88	遺構外 A区	VII層中	銭貨 大觀通寶	北宋 (?) 1107年 (?)	23.7~24.0	6.0~6.8	1.3~1.4	-		2.6	X-756,Y+712 付近	187
89	遺構外 A区	VII層中	銭貨 熙寧元寶	北宋 1068年	24.0~24.4	6.5~7.0	1.0~1.2	2.0~2.8		3.0	X-757,Y+706 付近	188
90	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇 (不明)	不明 摩滅	22.2~22.5	5.5	1.5~1.6	2.0~2.6		3.2	X-757,Y+706 付近	189
91	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	明 1368年	22.1~22.8	6.0	1.5	1.8~2.0		2.8	X-757,Y+708 付近	190
92	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇	不明 摩滅	22.7~22.8	6.0~6.5	0.8~0.9	-		1.3	X-757,Y+710 付近	191
93	遺構外 A区	VII層中	銭貨 元豊通寶	北宋 1078年	24.3	7.4	1.1	2.5~3.0		2.5	X-757,Y+710 付近	192
94	遺構外 A区	VII層中	銭貨 天聖元寶	北宋 1023年	25.0	6.0~6.2	1.0~1.1	2.0~2.2		2.6	X-757,Y+710 付近	193
95	遺構外 A区	VII層中	銭貨 永樂通寶	概鑄銭 (?) 中世末~近世初頭 (?) 摩滅	破損 (2点)	-	1.3	-		1.8(2点)	X-757,Y+710 付近	194
96	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	明 1368年	22.3	6.0	1.1~1.2	1.8~2.0		1.9	X-757,Y+710 付近	195
97	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇 (不明)	不明 摩滅	22.5~22.7	6.0	1.1~1.3	-		3.1	X-757,Y+710 付近	196
98	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	明 1368年	23.1~23.9	6.0	1.6~1.7	1.5~2.0		3.5	X-757,Y+710 付近	197
99	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	明 1368年	22.0	5.0	1.3~1.4	3.0	背一銭 (?)	3.1	X-757,Y+710 付近	198
100	遺構外 A区	VII層中	銭貨 皇宋通寶	北宋 1038年	24.3	6.5	1.2~1.4	2.0~2.2		3.2	X-757,Y+710 付近	199
101	遺構外 A区	VII層中	銭貨 至和元寶	北宋 1054年	23.9~24.2	7.0	1.2	2.5~3.0		3.1	X-757,Y+711 付近	200
102	遺構外 A区	VII層中	銭貨 皇宋通寶	北宋 1038年	24.4~24.6	7.5~7.9	1.0~1.2	2.0~2.2		2.9	X-757,Y+711 付近	201
103	遺構外 A区	VII層中	銭貨 元祐通寶	北宋 1086年	24.4~25.0	7.1	1.0	2.0~3.0		3.3	X-757,Y+711 付近	202
104	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇通寶 (不明)	不明 判読不可	23.6~23.8	5.9~6.0	1.0	1.6~1.9		3.2	X-757,Y+711 付近	203
105	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	明 1368年	23.2~23.4	5.9	1.5	0.5~1.1		3.0	X-757,Y+711 付近	204
106	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇 (不明)	不明 判読不可	23.0	6.9~7.2	0.9~1.1	1.6~2.0		2.5	X-757,Y+711 付近	205
107	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇 (不明)	不明 判読不可	23.0~23.1	6.5~6.8	0.9~1.1	2.0~2.2		2.5	X-757,Y+711 付近	206
108	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	明 1368年	23.5~23.9	5.5~5.8	1.2~1.3	1.9~2.0		3.3	X-757,Y+711 付近	207
109	遺構外 A区	VII層中	銭貨 不明	不明 摩滅	22.4~22.5	6.4~6.5	0.8~1.1	-		2.0	X-757,Y+712 付近	208
110	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇元寶 (不明)	不明 摩滅	23.8~23.9	6.8	0.9~1.3	-		2.9	X-757,Y+713 付近	209
111	遺構外 A区	VII層中	銭貨 永樂通寶	明 1408年	25.0	5.8~5.9	1.3~1.6	1.2~2.1		3.6	X-757,Y+713 付近	210
112	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇通寶 (不明)	不明 判読不可	23.6~24.0	6.2~6.3	1.0~1.1	3.0~3.1		3.0	X-758,Y+699 付近	211
113	遺構外 A区	VII層中	銭貨 元祐通寶	北宋 1086年	24.2~24.5	7.0~7.1	1.2~2.8	2.0~2.1		3.1	X-758,Y+700 付近	212
114	遺構外 A区	VII層中	銭貨 至和通寶	北宋 1054年	24.6~24.8	7.1	0.9~1.2	3.1~3.5		3.0	X-758,Y+706 付近	213
115	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	明 1368年 一部欠損	21.0~21.1	4.3~4.9	1.4~1.5	1.2~2.4		3.1	X-758,Y+706 付近	214
116	遺構外 A区	VII層中	銭貨 開元通寶 (?)	南唐 960年	23.3~23.4	6.6~6.8	0.8	1.7~1.9	背上月	1.8	X-758,Y+708 付近	215
117	遺構外 A区	VII層中	銭貨 洪武通寶	明 1368年	21.3	6.1~6.4	0.7~0.8	1.7~1.9		1.8	X-758,Y+709 付近	216
118	遺構外 A区	VII層中	銭貨 熙寧元寶 (不明)	北宋 (?) 1068年 (?)	23.3~23.5	6.7	0.8~1.2	2.0~2.2		2.6	X-758,Y+709 付近	217
119	遺構外 A区	VII層中	銭貨 皇宋通寶 (不明)	北宋 (?) 1038年 (?)	24.5~25.1	6.9~7.1	0.9~1.2	2.1~2.4		2.3	X-758,Y+709 付近	218
120	遺構外 A区	VII層中	銭貨 熙寧元寶 (不明)	北宋 (?) 1068年 (?)	23.1~23.4	6.2~6.3	1.2~1.4	2.3~2.6		2.6	X-758,Y+709 付近	219
121	遺構外 A区	VII層中	銭貨 無文銭	中世 (?)	22.2~22.3	6.6~6.9	0.6~1.1	-		1.3	X-758,Y+710 付近	220
122	遺構外 A区	VII層中	銭貨 〇〇〇〇 (不明)	不明 判読不可	22.7	6.8~7.1	0.8~1.0	-		1.7	X-758,Y+711 付近	221

No.	出土遺構・地点	層位	種類	時代	外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	その他	重さ (g)	備考	遺物番号
123	遺構外 A区	VII層中	銭貨	明 1368年	23.2 ~ 23.3	5.6 ~ 5.8	1.3 ~ 1.6	2.0 ~ 2.5		3.0	X-758, Y+711 付近	222
124	遺構外 A区	VII層中	銭貨	機鋳銭? 中世末~近世初頭 摩滅	24.0 ~ 24.1	6.0 ~ 6.2	1.1	2.9 ~ 3.4		3.0	X-758, Y+711 付近	223
125	遺構外 A区	VII層中	銭貨	北宋 (?) 1068年 摩滅	23.9 ~ 24.1	6.3	0.9 ~ 1.0	2.4 ~ 3.1		2.9	X-758, Y+711 付近	224
126	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 判読不可	22.1 ~ 22.8	-	0.8 ~ 1.1	1.4 ~ 2.2		1.4(2点)	X-759, Y+694 付近	225
127	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 磨化 判読不可	23.1	4.5 ~ 4.8	1.1 ~ 1.5	-		1.8	X-759, Y+695 付近	226
128	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 判読不可	21.9 ~ 22.0	6.0 ~ 6.2	1.5 ~ 3.4	-		2.9	X-759, Y+708 付近	227
129	遺構外 A区	VII層中	銭貨	明 1368年 摩滅	21.0 ~ 21.3	6.6 ~ 6.7	0.5 ~ 0.6	1.3 ~ 1.6		1.6	X-759, Y+708 付近	228
130	遺構外 A区	VII層中	銭貨	機鋳銭 (?) 中世末~近世初頭 摩滅	23.8 ~ 23.9	6.7 ~ 7.1	1.2 ~ 1.3	2.5 ~ 2.7		3.0	X-759, Y+710 付近	229
131	遺構外 A区	VII層中	銭貨	北宋 990年	23.7 ~ 23.9	5.6 ~ 5.7	1.0 ~ 1.3	3.0 ~ 3.2		3.1	X-759, Y+710 付近	230
132	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 判読不可	23.1 ~ 23.3	6.2	1.5 ~ 1.9	2.0 ~ 2.8		3.4	X-759, Y+710 付近	231
133	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 摩滅 判読不可	24.0 ~ 24.2	6.7 ~ 6.8	1.1 ~ 1.2	2.8 ~ 3.0		3.2	X-759, Y+710 付近	232
134	遺構外 A区	VII層中	銭貨	明 1368年	24.1 ~ 24.2	5.3 ~ 5.4	1.2 ~ 1.3	2.2 ~ 2.5		3.5	X-759, Y+710 付近	233
135	遺構外 A区	VII層中	銭貨	北宋 990年	20.7 ~ 21.6	5.9	0.9 ~ 1.0	1.6 ~ 2.2		2.0	X-759, Y+712 付近	234
136	遺構外 A区	VII層中	銭貨	機鋳銭 (?) 中世末~近世初頭	24.5	6.6 ~ 6.8	1.0 ~ 1.1	2.4 ~ 2.7		2.9	X-760, Y+705 付近	235
137	遺構外 A区	VII層中	銭貨	北宋 1023年	23.4 ~ 24.0	6.7 ~ 7.0	0.8 ~ 1.1	1.3 ~ 2.2		2.2	X-761, Y+708 付近	236
138	遺構外 A区	VII層中	銭貨	北宋 1054年	24.1 ~ 24.5	7.7 ~ 7.8	1.2 ~ 1.3	2.5 ~ 2.9		3.3	X-760, Y+708 付近	237
139	遺構外 A区	VII層中	銭貨	後黎 1454年 ベトナム銭	21.6 ~ 22.1	5.8 ~ 6.4	0.5 ~ 0.7	1.0 ~ 1.6		1.5	X-760, Y+708 付近	238
140	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 判読不可	22.0 ~ 22.5	6.7 ~ 6.9	1.0 ~ 1.5	-		1.9	X-760, Y+709 付近	239
141	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 判読不可	22.5 ~ 22.6	5.8	1.4 ~ 1.6	2.0 ~ 2.5		2.6	X-760, Y+709 付近	240
142	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 判読不可	22.0 ~ 22.3	7.5 ~ 8.0	1.0 ~ 1.1	-		2.1	X-760, Y+710 付近	241
143	遺構外 A区	VII層中	銭貨	北宋 998年	21.5 ~ 22.3	6.0 ~ 6.3	1.1 ~ 1.2	1.0 ~ 1.8		1.9	X-763, Y+701 付近	242
144	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 判読不可	22.2 ~ 22.8	6.3 ~ 6.5	1.1 ~ 1.3	-		2.3	X-762, Y+710 付近	243
145	遺構外 A区	VII層中	銭貨	不明 判読不可	23.4 ~ 24.3	6.5	1.1 ~ 1.5	2.0 ~ 3.0		2.7	X-765, Y+702 付近	244
146	遺構外 A区	VII層中	銭貨	明 1408年 欠損	-	-	1.4	1.6		1.7(7点)	X-765, Y+702 付近	245
147	遺構外 B区南側	I ~ II層中	銭貨	明 1368年	23.5 ~ 23.7	6.0	1.3	1.8 ~ 2.0		2.9		246
148	遺構外 B区北側	V層中	銭貨	北宋 1078年	23.5 ~ 23.8	7.0 ~ 7.2	1.2 ~ 1.3	1.9 ~ 2.0		2.8		247
149	遺構外 B区北側	V層下位	銭貨	北宋 1064年	23.8 ~ 24.0	7.5 ~ 7.8	0.9 ~ 1.0	1.9 ~ 2.3		2.1	X-760, Y+714 付近	248
150	遺構外 B区北側	VI層下位	銭貨	不明 判読不可	22.3	6.0 ~ 7.0	1.0 ~ 1.2	-		2.3	X-761, Y+714 付近	249
151	遺構外 B区北側	VI層下位	銭貨	北宋銭	24.1 ~ 24.2	7.0	1.2 ~ 1.3	2.0 ~ 2.5		2.8	X-761, Y+714 付近	250
152	遺構外 B区北側	VI層下位	銭貨	不明 判読不可	23.1 ~ 23.3	6.0	1.3 ~ 1.4	1.8 ~ 2.1		3.2	X-762, Y+713 付近	251
153	遺構外 B区北側	VI層上位	銭貨	不明 判読不可	23.6 ~ 23.8	6.4 ~ 6.8	1.3	2.0 ~ 2.8		3.1	X-763, Y+716 付近	252
154	遺構外 B区北側	VI層下位	銭貨	明 1408年 欠損	22.0	6.0	0.6 ~ 0.8	0.8 ~ 1.4		0.7	X-765, Y+718 付近	253
155	遺構外 B区北側	VI層下位	銭貨	北宋 1038年 真書	22.2 ~ 22.4	6.5 ~ 7.0	1.2	2.0 ~ 2.3		2.6	X-765, Y+718 付近	254
156	遺構外 B区北側	VI層下位	銭貨	不明 判読不可	21.5 ~ 22.6	6.3 ~ 6.8	0.6 ~ 0.7	1.0 ~ 1.5		0.9	X-769, Y+722 付近	255
157	遺構外 B区南側	VI層下位	銭貨	明 1368年	23.6 ~ 24.0	5.5 ~ 5.8	1.0 ~ 1.2	1.5 ~ 2.0		2.6	X-770, Y+705 付近	256
158	遺構外 カクラン	覆土中位	銭貨	機鋳銭 中世末~近世初頭	21.4 ~ 22.0	5.5 ~ 6.0	0.9 ~ 1.0	0.5 ~ 1.0		1.2		258
159	遺構外 A区北側	III層中	銭貨	1636年 古寛永					2枚	5.4		259
160	遺構外 A区南側	V層中	銭貨	不明					2枚	3.1	X-763, Y+706 付近	260
161	遺構外 A区	V層下位	銭貨	不明					18~19枚	40.9	X-760, Y+709 付近	261
162	遺構外 A区	V層下位	銭貨	不明					9枚	22.6	X-760, Y+709 付近	262
163	遺構外 A区	V層下位	銭貨	不明					2枚	6.7	X-755, Y+705 付近	263
164	遺構外 A区	V層下位	銭貨	不明					2枚	4.4	X-762, Y+708 付近	264
165	遺構外 A区	V層下位	銭貨	永業通寶					2枚	4.0	X-762, Y+708 付近	265
166	遺構外 A区	IV層中	銭貨	不明						6.3	X-759, Y+710 付近	266
167	遺構外 A区	IV層中	銭貨	不明						6.3	X-759, Y+710 付近	267
168	遺構外 A区	VII層中	銭貨	明 1368年						5.2	X-755, Y+711 付近	268
169	S I 1 南側	覆土下位	銭貨	不明 欠損						0.4		316

IV調査のまとめ

今回の調査では、16世紀～17世紀初頭のものと考えられる工房跡が2棟確認された。また、これら工房跡と関連する可能性の高い製鉄炉跡や焼土遺構も確認された。

宮古市内では、これまでに中世の建物跡は、赤畑遺跡や熊野町、山口館、木戸井内IV、赤畑東遺跡の調査で確認されている。ただし、調査事例はまだ少なく、また、出土遺物もほとんど伴わないため、調査研究が進んでいない資料であると考えられる。

中世の工房跡については、山口館跡で15世紀から16世紀とされるものが確認されている。ただし、山口館跡の工房跡は、今回の調査で検出された2棟よりも古い時期のものと考えられる。

SI1号工房跡は、竪穴を築きこの中で鍛冶作業を行っていたと考えられる。竪穴南側の壁面が消失しているが、この部分が張出しとなっていた可能性も考えられる。竪穴床面で炉跡と鍛造剥片が近接して確認されているが、鍛冶作業にかかる道具や台石などの遺物は出土していない。木戸井内IV遺跡では台石が建物跡から出土しており、金属品の製造か修理などが行われていたことが想定される。

SI25号工房跡は、SI1号工房跡と同様にその北側が張出しとなっていた可能性が考えられる。ただし、遺物が出土しておらず、柱穴跡の配置に規格性がなく、また、周溝がないなど不明な点が多く、その性格については検討が必要である。

出土遺物については、遺構外ではあるが、陶磁器や銅製品、銭貨、石製品が出土している。

陶磁器については、16世紀の瀬戸・美濃の皿類や天目茶碗が出土している。

銅製品については、とくにNo.23の製品は精巧な細工が施されている。No.26は大きな器の底部のようにも考えられるが市内の調査資料に類似したものはない。

銭貨については、SI1号工房跡から1点出土したが、他143点は遺構外から出土した。143点のうち、141点が中世の銭貨である。中世の銭貨の出土地点は、調査区の中央付近に集中している。上記の銅製品の出土と併せ、銭貨本来の物資の交換用以外に、銅製品やその他の金属製品の製作資材として銭貨が蓄えられていた可能性も考えられる。石製品は、時期は不明だが小形の硯や砥石、茶臼が出土している。今回の調査で出土した遺物は、山頂で出土する郭内の遺物に比べ内容が多岐にわたる。同じ集落でも丘陵や山頂で見つかる同時代のこれまでのものとは様子が異なる集落跡がこの地点に残されていることが調査によりわかってきた。

宮古市内では、中世の城館跡の中で、城下となる地点で遺構や遺物が確認されたのは今回が初例となる。城館跡でも尾根に築かれた郭跡の調査はあるが、城下に関する調査事例はこれまでなかった。

千徳城は、田鎖館とならび豊臣秀吉の諸城破却令により城割を命ぜられた城館として知られている。今回の調査成果は、地域を代表する遺跡での事例という事と併せ、市内の他の城館跡にも城下といえる集落が存在する可能性を示した調査と考える。

〈参考文献〉

「岩手県埋蔵文化財調査略報」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第135集』

「青猿1遺跡・千徳城遺跡群-平成元年・2年度発掘調査報告書-」『宮古市埋蔵文化財調査報告書27』

「熊野町遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-」『宮古市埋蔵文化財調査報告書28』

「山口館跡発掘調査報告書」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書485集』

「赤畑東遺跡-山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書-」『宮古市埋蔵文化財調査報告書82』

「木戸井内IV遺跡・隠里III遺跡発掘調査報告書」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第529集』

「千徳城遺跡群-一条工務店モテハウス建築工事関係発掘調査報告書-」『宮古市埋蔵文化財発掘調査報告書83』

写真図版 1

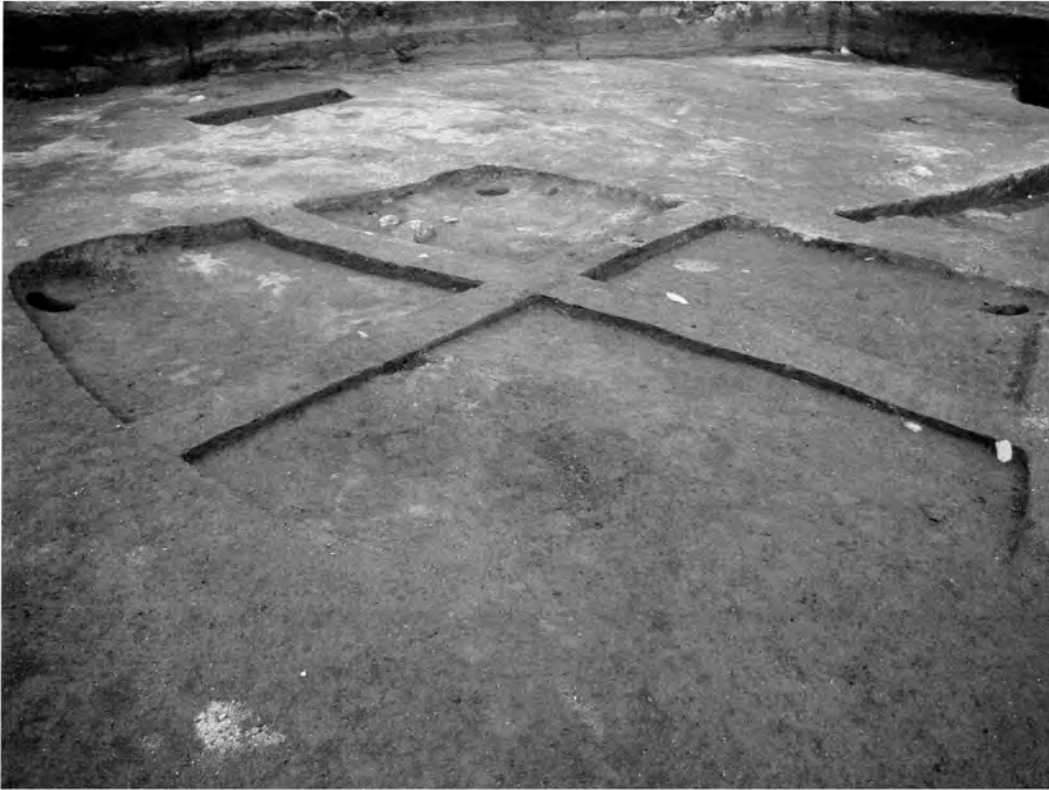


1 調査状況 (1) (南西から)



2 調査状況 (2) (南西から)

写真図版 2



3 S11 号工房跡 土層断面 (南から)



4 S11 号工房跡 完掘 (1) (南から)

写真図版 3

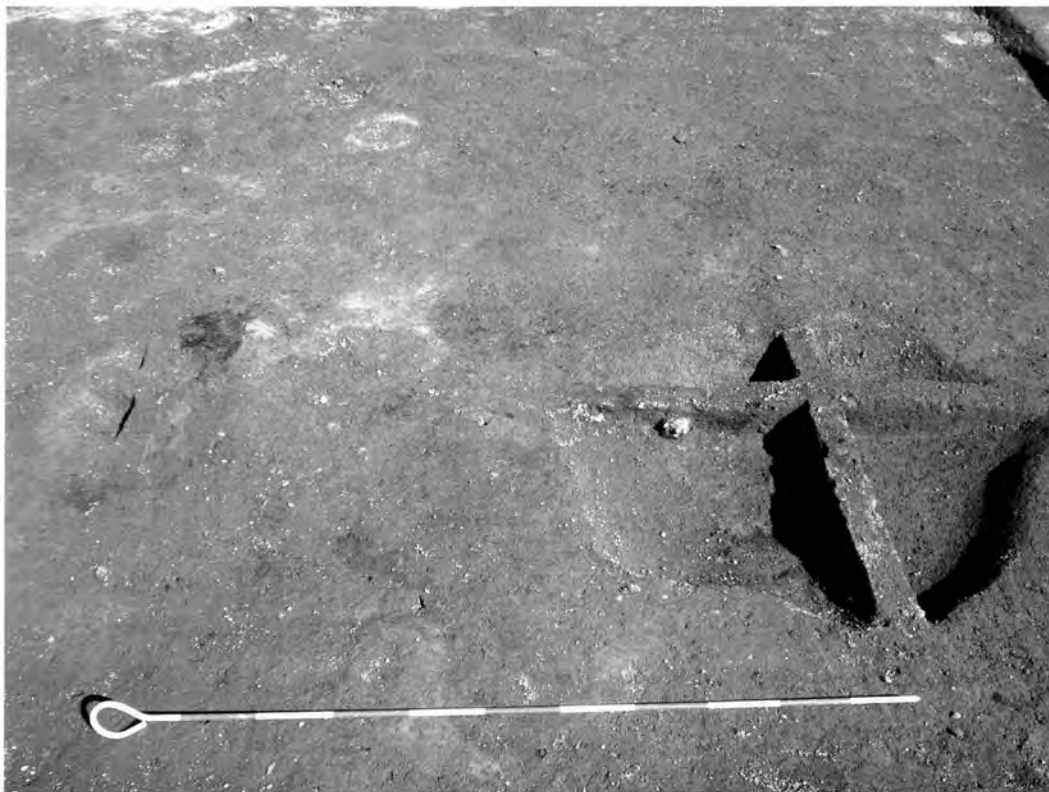


5 S11号工房跡 完掘 (2) (南西から)

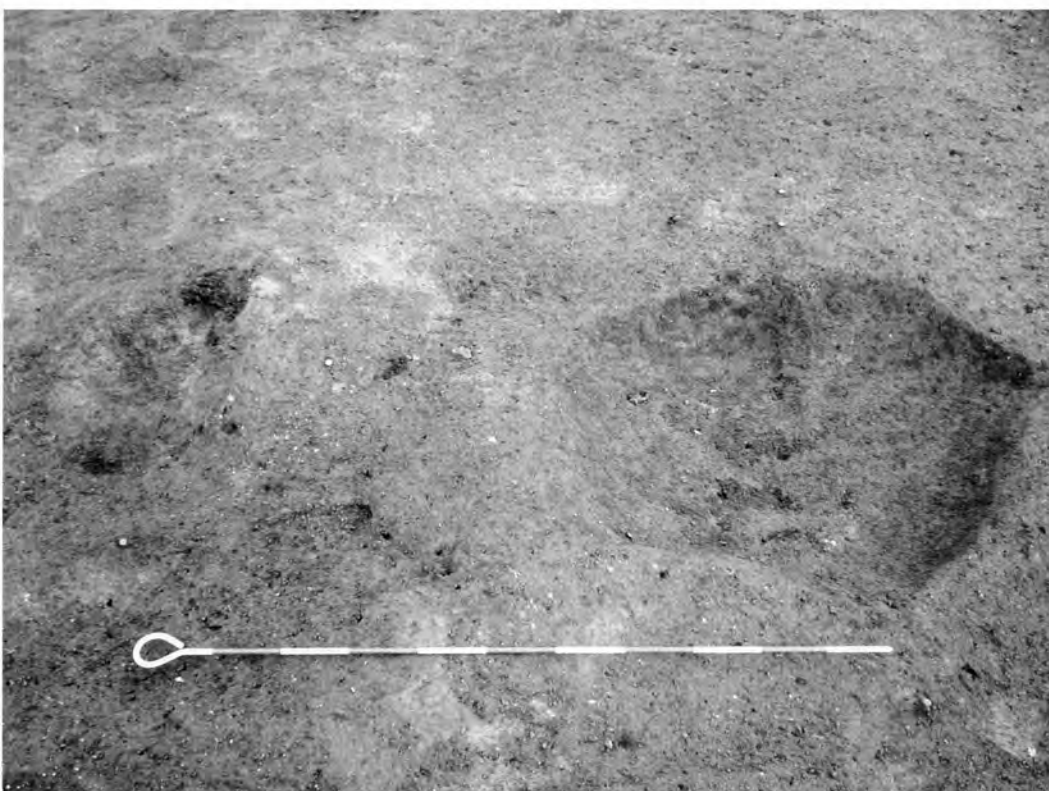


6 S11号工房跡内の鍛冶炉検出状況 (南西から)

写真図版 4



7 S11 号工房跡内鍛冶炉 土層断面 (南西から)



8 S11 号工房跡内鍛冶炉 完掘 (南西から)

写真図版 5



9 SN3～8号焼土遺構 調査状況（南から）

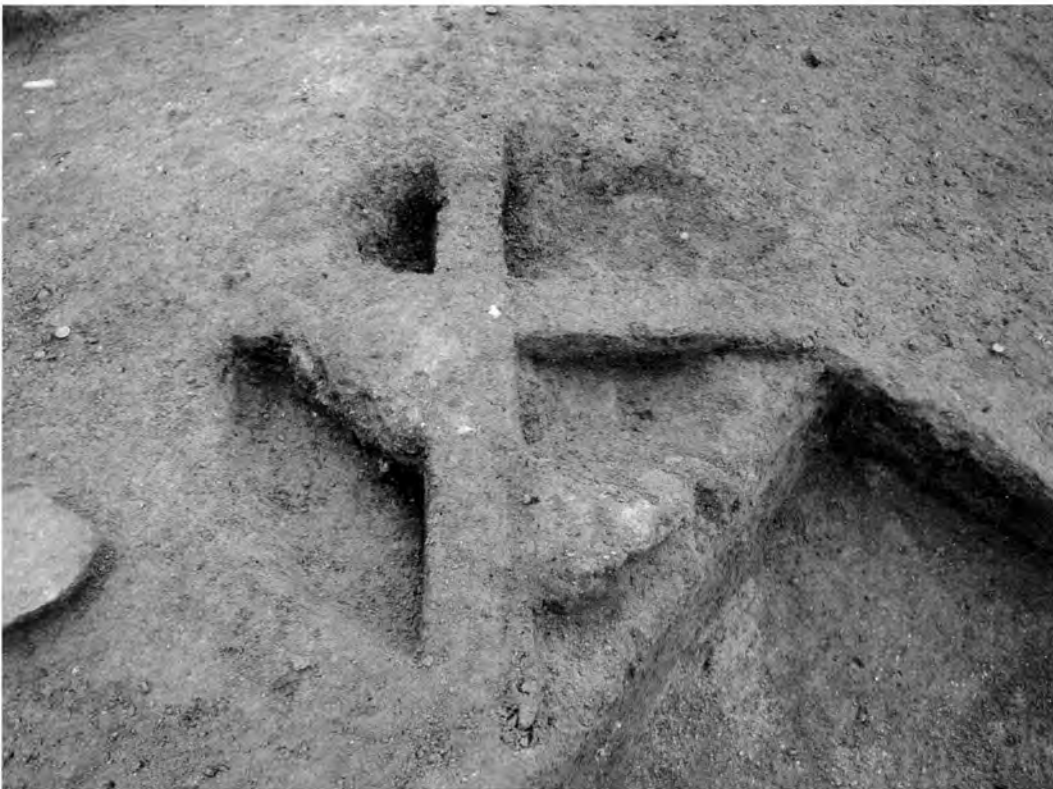


10 SN9～12号焼土遺構 調査状況（南から）

写真図版 6



11 錢貨出土状況（南から）



12 SN14号製鉄炉跡 土層断面（南から）

写真図版 7



13 調査区南側 調査状況（西から）



14 SN28、29、37号焼土遺構 調査状況（南から）

写真図版 8

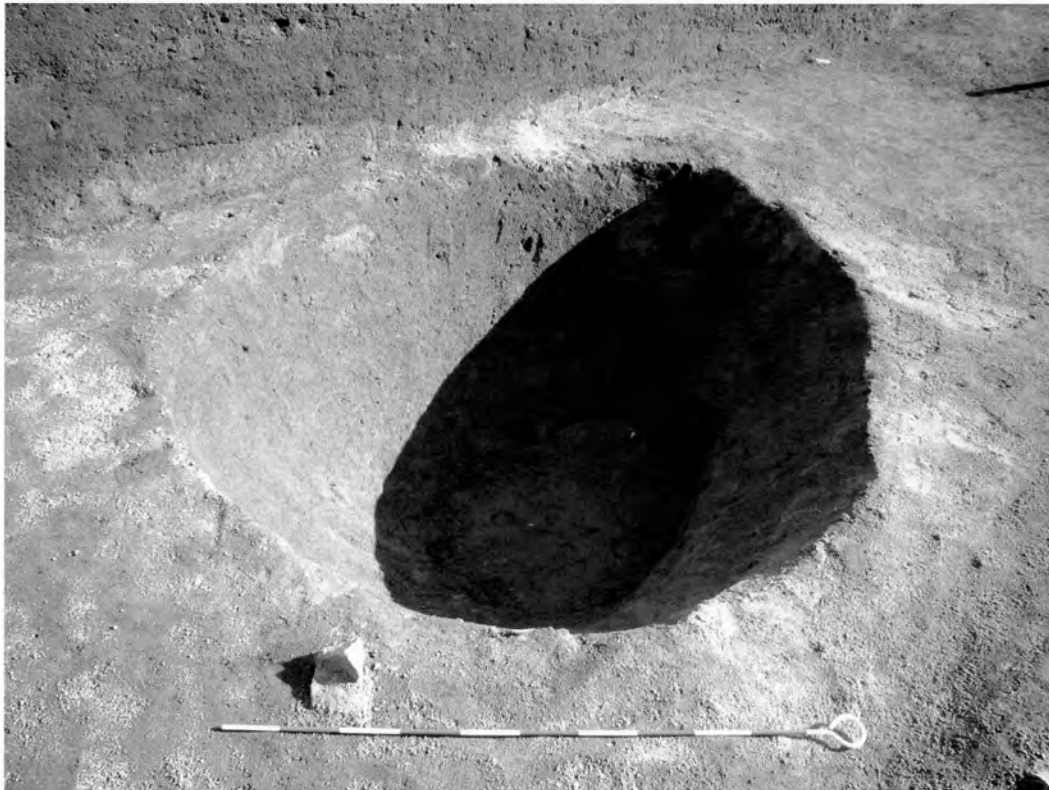


15 調査区南側完掘（西から）

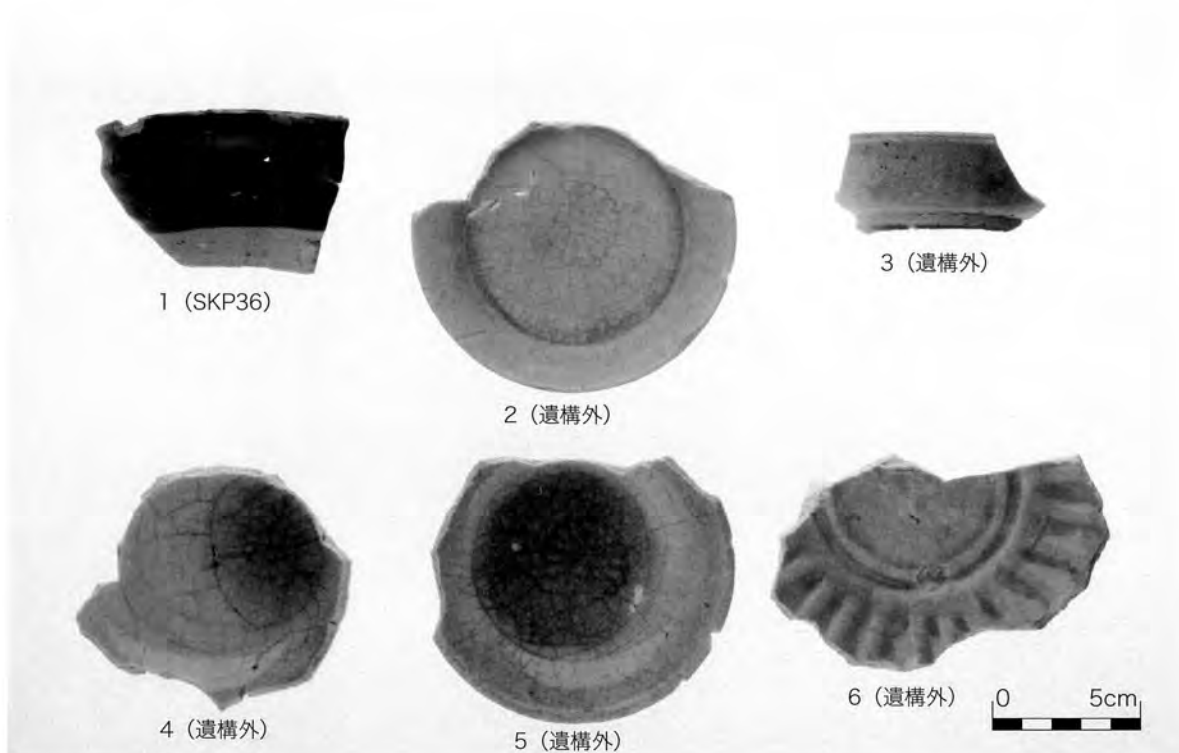


16 SK45号土坑跡 土層断面（南西から）

写真図版 9

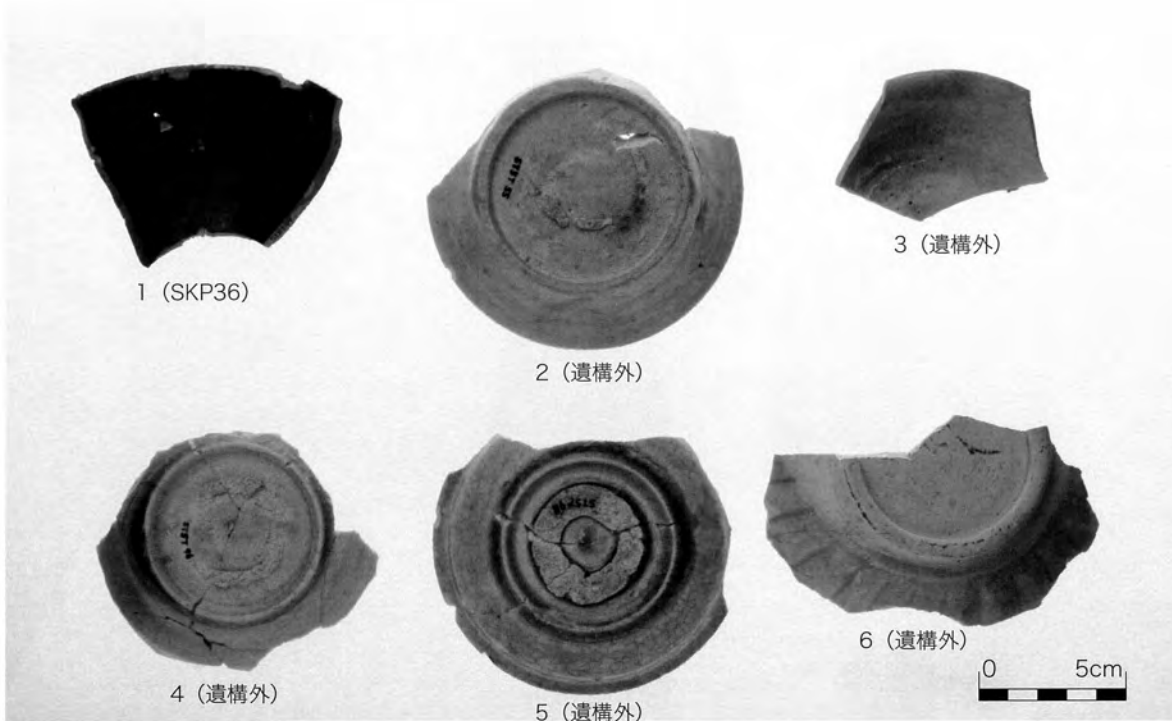


17 SK45号土坑跡 完掘（南西から）

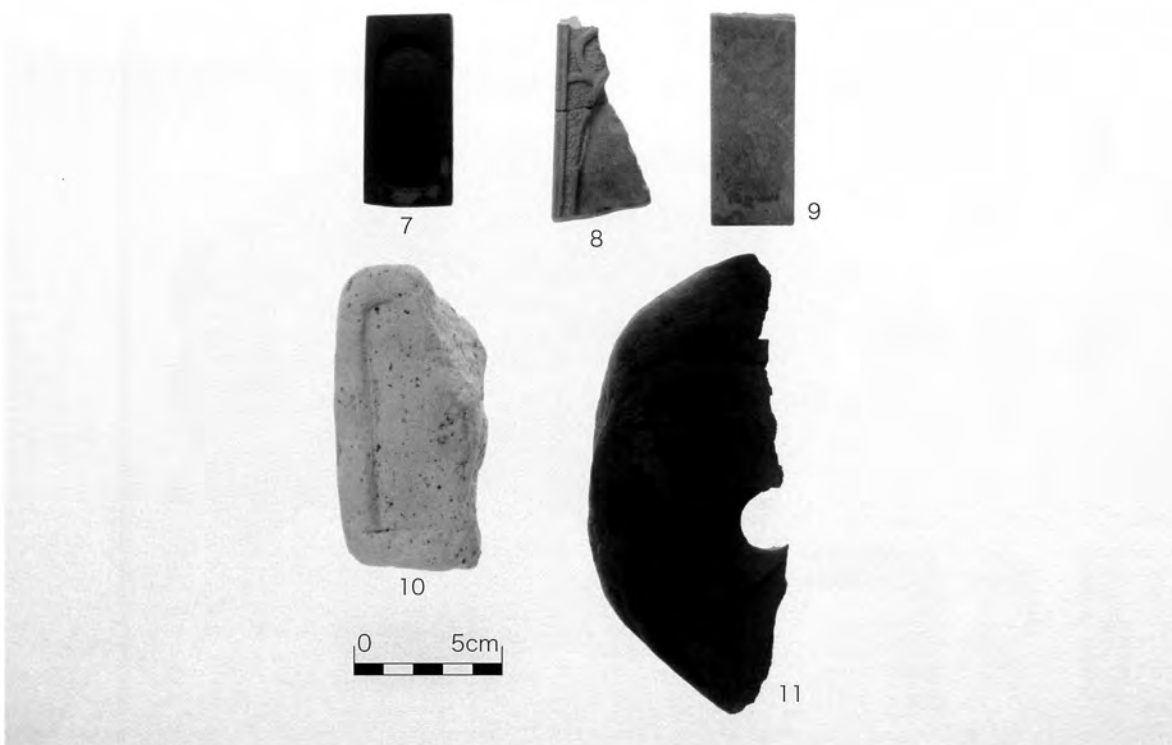


18 出土陶磁器 (1) - 1

写真図版 10

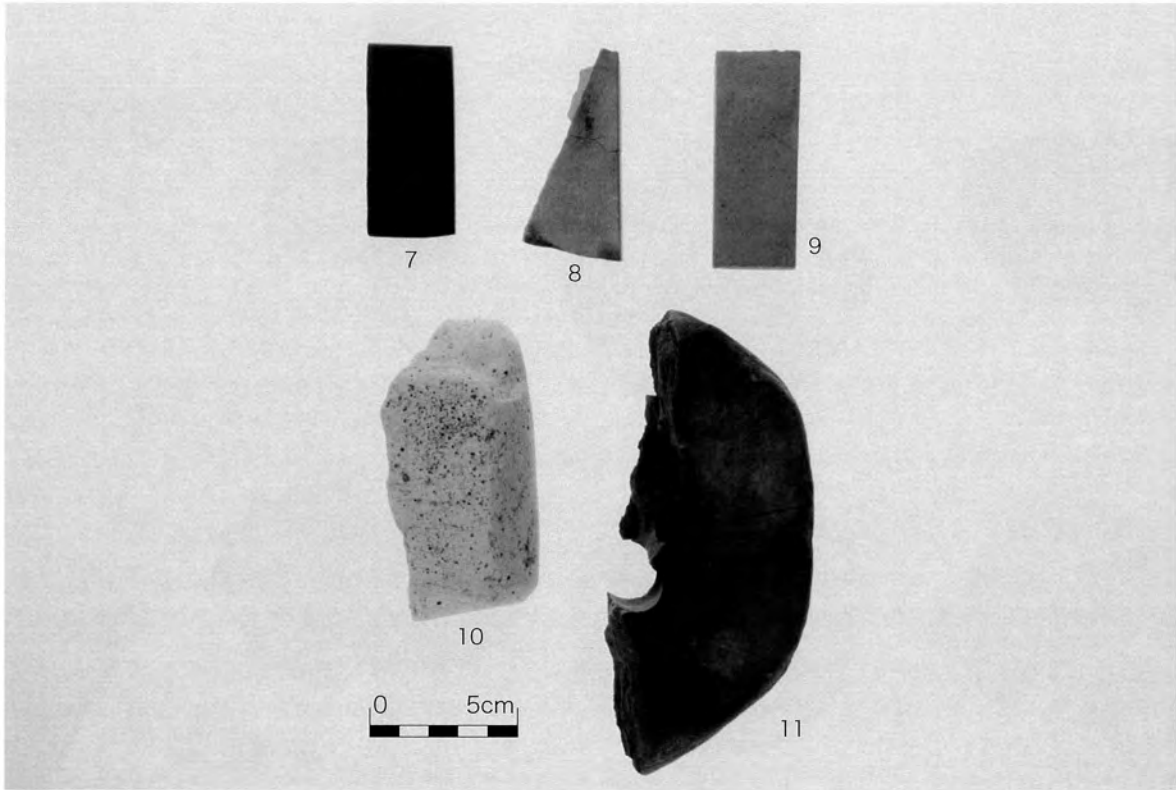


19 出土陶磁器 (1) - 2

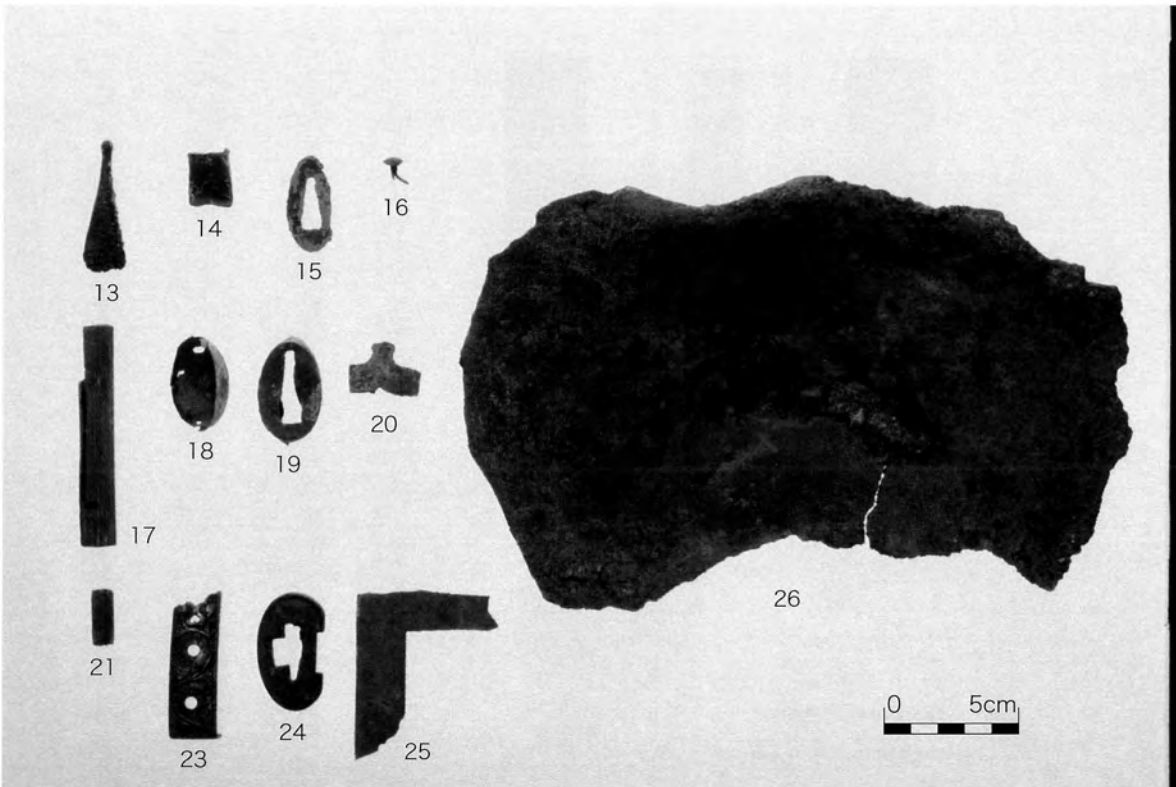


20 出土石製品 (1) - 1

写真図版 11



21 出土石製品 (1) - 2



22 出土銅製品

報告書抄録

ふりがな	せんとくじょういせきぐん
書名	千徳城遺跡群
副書名	-アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書-
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	86
編著者名	安原 誠
編集機関	宮古市教育委員会
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市 2-112-1 Tel.0193-68-9114 Fax0193-72-3282
発行年月日	平成 28 (2016) 年 12 月 9 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 '''	東経 '''	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せんとくじょういせきぐん 千徳城遺跡群	いわてけんみやこしおきた 岩手県宮古市太田 2丁目80-7 外	03202	LG33- 0197	39° 38' 17"	141° 55' 24"	271001 ～ 271228	510	アパート建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
千徳城遺跡群	城館跡	奈良・平安・中世	工房跡（鍛冶） 製鉄炉 焼土遺構	鉄滓 銭貨 陶磁器 鉄製品	16世紀～17 世紀初頭頃の 集落跡

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- | | | | |
|----|---|----|---|
| 1 | 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』 | 51 | 1998 『赤畑・天神山・山口館一北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書』 |
| 2 | 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』 | 52 | 1998 『藤畑遺跡一平成9年度発掘調査報告書』 |
| 3 | 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書1』 | 53 | 1999 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡一水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』 |
| 4 | 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書2』 | 54 | 1999 『千鶴Ⅳ遺跡一水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』 |
| 5 | 1984 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』 | 55 | 1999 『崎山貝塚一第12次・13次内容確認調査概報』 |
| 6 | 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書3』 | 56 | 2000 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡一特別高圧送電線ヲ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書』 |
| 7 | 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』 | 57 | 2002 『山口館跡一北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書』 |
| 8 | 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書4』 | 58 | 2002 『小沢Ⅱ大上遺跡一市内遺跡発掘調査報告書2』 |
| 9 | 1986 『宮古市遺跡分布図一昭和60年度版』 | 59 | 2003 『大又Ⅱ遺跡一東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書』 |
| 10 | 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』 | 60 | 2003 『上根井Ⅰ遺跡・沼里遺跡一市内遺跡発掘調査報告書3』 |
| 11 | 1987 『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』 | 61 | 2003 『早稲橋Ⅱ遺跡第6次調査一市内遺跡発掘調査報告書4』 |
| 12 | 1987 『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書』 | 62 | 2003 『下在家Ⅰ遺跡一平成14年度発掘調査報告書』 |
| 13 | 1987 『崎山遺跡群Ⅰ一昭和61年度発掘調査概報』 | 63 | 2004 『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡一市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書』 |
| 14 | 1988 『青塚Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)』 | 64 | 2005 『弘川館跡一瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書』 |
| 15 | 1988 『崎山遺跡群Ⅱ一昭和62年度発掘調査概報』 | 65 | 2006 『高浜Ⅵ地神遺跡一高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書』 |
| 16 | 1989 『千鶴遺跡一昭和62年度発掘調査報告書』 | 66 | 2006 『崎山貝塚第20次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第7次調査一市内遺跡発掘調査報告書5』 |
| 17 | 1989 『トロノ木Ⅰ遺跡一第1～7次発掘調査報告書』 | 67 | 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡一市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書』 |
| 18 | 1989 『崎山遺跡群Ⅲ一昭和63年度発掘調査概報』 | 68 | 2006 『木戸井内Ⅳ遺跡一宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書』 |
| 19 | 1989 『高根遺跡一昭和63年度発掘調査報告書』 | 69 | 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査一市内遺跡発掘調査報告書6』 |
| 20 | 1989 『狐崎Ⅱ遺跡一昭和63年度発掘調査報告書』 | 70 | 2007 『山口館跡一市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書』 |
| 21 | 1989 『崎山トロノ木Ⅳ遺跡一昭和63年度調査報告書』 | 71 | 2007 『近内館跡一宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書』 |
| 22 | 1990 『狐崎遺跡一平成元年度発掘調査報告書』 | 72 | 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査一市内遺跡発掘調査報告書7』 |
| 23 | 1990 『崎山遺跡群Ⅳ一平成元年度発掘調査概報』 | 73 | 2007 『弘川館跡第2次調査一宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書』 |
| 24 | 1990 『磯崎館山遺跡一昭和63年度発掘調査報告書』 | 74 | 2008 『荷竹日向Ⅳ遺跡一市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書』 |
| 25 | 1990 『嶽ヶ崎館山貝塚一平成元年度発掘調査報告書』 | 75 | 2008 『宮古市遺跡分布調査報告書5』 |
| 26 | 1991 『崎山遺跡群Ⅴ一平成2年度発掘調査概報』 | 76 | 2009 『国指定史跡崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報(骨角器篇)』 |
| 27 | 1991 『青塚Ⅰ・千徳城遺跡群一平成元年・2年度発掘調査報告書』 | 77 | 2010 『宮古市遺跡分布調査報告書6』 |
| 28 | 1990 『熊野町遺跡一昭和63年度発掘調査報告書』 | 78 | 2011 『宮古市遺跡分布調査報告書7』 |
| 29 | 1991 『弘川Ⅰ遺跡一平成2年度発掘調査報告書』 | 79 | 2012 『重茂館遺跡群一第2次発掘調査報告書』 |
| 30 | 1992 『金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』 | 80 | 2014 『八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡一市道磯崎金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書』 |
| 31 | 1992 『重茂館遺跡群一第1次調査報告書』 | 81 | 2014 『釜ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡一市道峰ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書』 |
| 32 | 1992 『黒森町Ⅰ遺跡一平成2年度発掘調査報告書』 | 82 | 2104 『赤畑東遺跡一山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書』 |
| 33 | 1992 『高根遺跡一平成3年度発掘調査報告書』 | 83 | 2015 『千徳城遺跡群一一条工務店モデハウス建築工事関係発掘調査報告書』 |
| 34 | 1992 『鯉沢遺跡群一平成2年度発掘調査報告書』 | 84 | 2015 『黒森町Ⅰ遺跡一宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書』 |
| 35 | 1992 『大付遺跡一平成3年度発掘調査報告書』 | 85 | 2015 『菅ノ沢遺跡・棚館Ⅰ遺跡一市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書』 |
| 36 | 1992 『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡一農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書』 | | |
| 37 | 1992 『崎山遺跡群Ⅶ一平成3年度発掘調査概報』 | | |
| 38 | 1993 『萩沢Ⅱ遺跡一平成4年度発掘調査報告書』 | | |
| 39 | 1993 『早稲橋Ⅱ遺跡一第1次・第2次発掘調査報告書』 | | |
| 40 | 1993 『崎山遺跡群Ⅶ一平成4年度発掘調査概報』 | | |
| 41 | 1994 『崎山遺跡群Ⅷ一平成5年度発掘調査概報』 | | |
| 42 | 1995 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡一平成4年度発掘調査報告書』 | | |
| 43 | 1995 『磯崎館山遺跡発掘調査報告書』 | | |
| 44 | 1995 『崎山貝塚一範囲確認調査報告書』 | | |
| 45 | 1995 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡一市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財』 | | |
| 46 | 1995 『花原市遺跡一平成4年度発掘調査報告書』 | | |
| 47 | 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』 | | |
| 48 | 1996 『大付遺跡一平成5年・6年度発掘調査報告書』 | | |
| 49 | 1997 『花原市遺跡一平成8年度発掘調査報告書』 | | |
| 50 | 1997 『白石遺跡一第6次発掘調査報告書』 | | |

宮古市埋蔵文化財調査報告書 86

千徳城遺跡群

-アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書-

印刷・発行 平成28(2016)年12月9日
 発行 宮古市教育委員会
 〒028-2101 岩手県宮古市茂市2-112-1
 Tel 0193-68-9114 Fax 0193-72-3282
 印刷 株式会社文化印刷
 〒027-0037 岩手県宮古市松山5-13-6
 Tel 0193-62-4578 Fax 0193-64-0333

